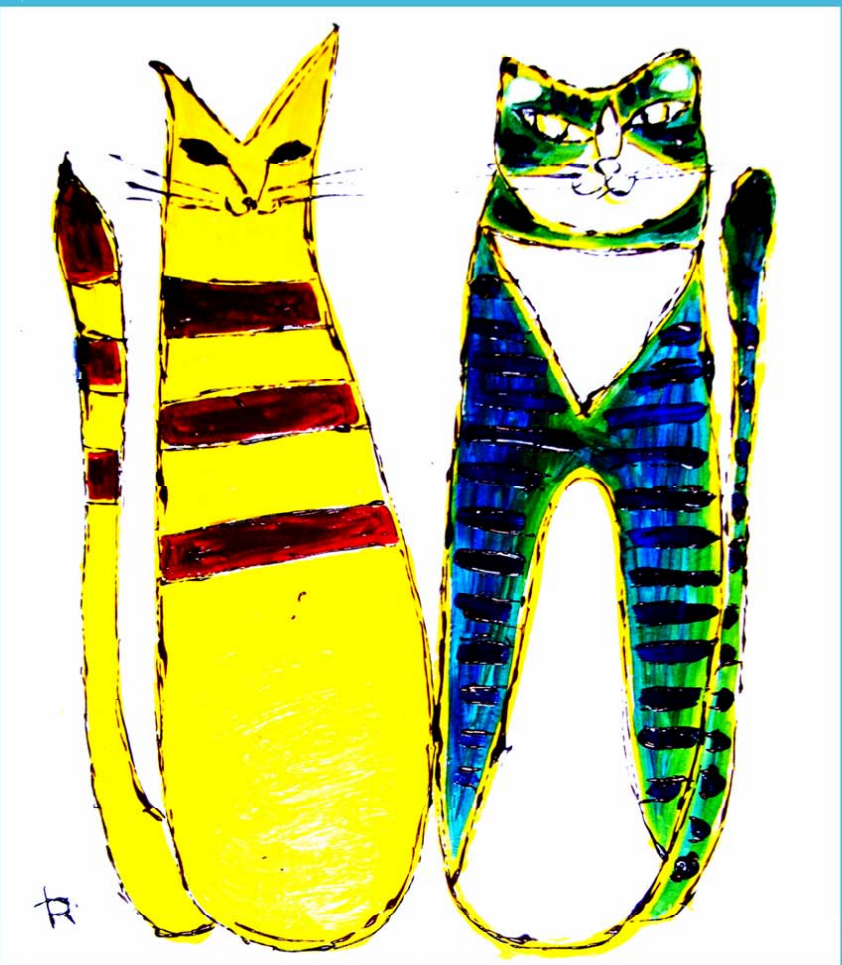


<http://www.ojara.net>

自分で出版する本



おじやら  
あとりえ  
りか  
編・著  
おじやらの本

\*\*\*\*\*

## 第一部

\*\*\*\*\*

# 自分で出版する本

ワードとアクロバットで作る簡単激安電子本

二〇〇二年作成

二〇〇五年一部改定

二〇〇八年改定

電子本・自前出版してみませんか？

というタイトルを 二〇〇八年

『自分で出版する本』と改名

致しました。

多くの本を出版したい方が

お読みになって下されば幸いです。

\*\*\* はじめに \*\*\*

本を作りたい。

そんな風に思っている人は、実は多いんです。

でも、本の事が良く解っていない。

アタシも、自分で本を出版するまでは、本というのは、出版社が出版するものだと思っていました。

ちよろりと調べたら、自分でも、出版できることが解ってきました。モチロン、個人で出版できます。

そういうことなら、パソコンが得意だったんで、出来るところまで自分でやってみようって思ったんです。

ネットの出版社さんだって、誰かがパソコンを操作して作っているんです。アタシに出来ないはずがありません。

はじめは試行錯誤の連続でした。本を作るための、お高いソフトをいくつも試しました。それで、最終的に一番効率がヨカッタのが、ワードという訳です。

お高いソフトよ。もう少しちゃんと動けよ。訴えてやるぜ。

本作りは全て独学だったんで、苦勞はありましたが、お陰さまで、最初の電子本を完成することができました。続けて二冊目も快調に……。

私は、この、自分で作る電子本の出版のことを、『自前出版』と呼んでいます。

電子本を作っていて感じたのが、段取りっすね。

この『本作りの段取り』を誰かが教えてくれれば、本を出したい人のほとんどが、安く、カンタンに電子本を出版することができるんです。

折角ですからね、アタシが、その段取りをお教えしようと思います。

この本を読んで、ある程度、自分で本を作れるようになるのであれば、オトクだと思います。

読んだからといって、全ての方が作れるというワケではないと思いますけど。それでも、私がこの本を書いた2年前よりは、アクロバットがもっと普及してきていて、使い慣れたソフトになっているんじゃないかと思っています。

しかも、ワードデータをpdf化することで本が作れるのであれば、既にパソコン環境が整っている方も多いですからね。

仕事で作る資料や大学や研究所なんかの研究論文、商品カタログそんな身近な文章も、本にして、多くの方に知っていただくことが可能になるのです。

出版社などで自費出版することを考えたら、自分で作って、自分で出版（自前出版）できたら、出費が最小限に抑えられます。

その分、他の本を買う費用や、マンションの頭金に回せます。出版社に大金払って本を自費出版するより、マンションでも買ったほうが、将来の為によっぽどいいような気がするでしょう。

アナタの自費出版本なんて、どうせたいして売れませんよ。アタシの『自前出版』の電子本だって、たいして売れませんでしたから。

それでもね、作った文章を、本にしてあげましようよ。

誰かが気づいてくれるかもしれないし、出版をきっかけに、仕事がくるかもしれない。（私の場合、そうでした。）家族や親類くらいは読んでくれるかもしれないし、何よりも、自分の人生の思い出になりますからね。

もともと、本なんて、そんなに売れるもんじゃないんです。出版社さんは、『売れる本だけ』を選別して出版しているに過ぎません。

でもね、アタシは、「いい本は、必ず読まれる」って信じてます。

自分の力を信じて、とりあえず、『自前出版』してみませんか？

\*\*\* 一この本を買う前に、要子エック \*\*\*

ワードを使って作る電子本ですからね、難しいソフトの操作などは、あまりありません。文字が中心の本であれば、あっと言う間に作れてしまうんです。

あれですよ。この本をお読みなのですから、パソコンをお持ちで、しかも、キーボードで文字入力くらいは、かなりできるんですよ。

この『電子本の作り方』の本は、パソコンが開けて、ワープロソフト(ワード)で、文章が打てる事が、最低条件になります。

ですから、パソコンも開けなければ、ワードもできないという人は、この方法での本の出版を断念してください。ご家族とか、部下とか、近所の人とか、そういう身近な方が、手伝ってくれなきゃいけません。それはそれで構いません。

どちらにしても、マイクロソフト社のワード(他の文章入力ソフトでも大丈夫だとは思いますが、実際に使った訳ではないので、その辺はご自分で考えてください。)と、データをPDF化できるソフトが必要になります。イロイロあるみたいなので、そちらは調べてみてください。私は、アドビ社のアクロバットを利用しました。

その他に、CD版を出版するのであれば、CD-R OMにデータを焼き付ける、CD-RWという機械、CDのラベルをどうするのかとか、そういう品物やプリントも必要になってきます。

表紙に写真を使いたいとか、イラストやグラフ、表などの画像もふんだんに取り込んだ本にしたいということであれば、デジカメとか、フォトタッチソフト（画像加工のソフト）なども必要になってきます。

フォトタッチソフトは、プリンタについてくることが多いので、それを使えると思いますし、表紙の一枚くらいなら、お友達がデジカメで撮影して、表紙の画像くらいつくってくれるかもしれません。それも、自分で全部作ろうと思えば、イロイロと買わなければなりません。

ウチには、ハードもソフトも全部事前に揃っていたんで、本の為に投資したというのは、—SBN（図書）コードの購入くらいですけど、現在、パソコンとワードしか持っていないという方だと、全部新規に購入すると十万円前後かかるかもなあ。

インストールの順番は、ワードを先に、アクロバツトを後にインストールします。

え？これだけ解れば、自分でも作れるような気がする？



一言、言っておきますけどね、パソコンがバリバリに得意なアタシであっても、そんなにカンタンではなかったですよ。

ここからは、本の作り方の段取りを説明しますからね。

頑張って、自分の本を、『自前出版』し、貴方も作家デビューを果たしましょう。

\*\*\* 電子本の種類について \*\*\*

電子本を作ろうと思っている方ですから、ご自分でも調べてらっしゃると思いますけどね、この本を買ってしまったあとで、電子本はアクロバット以外のソフトでも作れることを知ったら、申し訳ないと思うからです。

基本的な知識として、電子本というのは、読む段階で、【パソコンで電子本を読むために特化したソフト】をインストールして、それで読むのが普通です。

電子本を読むためのソフトというのは、普通は無料で配布されています。しかしながら、電子本を作るソフトは、有料で販売されています。

自分の電子本が、どのソフトで読みたいのかとか、どのソフトで、電子本を作るのが最適かというのは、電子本作成のソフトを買う前に検討されるべきなのです。ですから、貴方も、この本を買う前に、それを検討するべきなのです。

アタシが、インターネットで調べたところ、二〇〇二年の段階で、電子本を読むソフトは、四種類ありました。

- NewtonBook
- T-Time
- エキスパンドブック

● PDF (アクロバットで作る)

ほおっ。なるほどお。なんのことやら、サッパリ解らんぜ。

アタシも、アクロバットで作る、PDF方式以外のソフトに関しては、使ったことないんで、詳しくはあしません。

私が電子本を作るのに重視したのは、画像を美しく、大量に扱えるという点でした。

それは、私が画家を目指しており、自分の画集を作りたいと考えていたからです。

私が電子本の研究を開始した時には、

NewtonBook という方式は、まだありませんでしたので、よくわかりません。興味のある方は、ご自分で調べてみてください。

T-Time という方式は、テキストを中心に縦書きの本にするソフトで、パソコンの他、PDAやPDAム、携帯電話などの小型端末機にも、本のテキストデータをダウンロードできて、縦書きで読書が可能になるという方式だと思っています。(私が調べた限りでは、そのように受け取れました。)そんなに高く無い値段で、この、T-Timeの本を作るソフトも販売されているみたいでした。

しかしながら、テキスト中心というのは、最終的に画集を目指す私にとっては、対象外でした。

エキスパンドブックというのは、出版社さんたちが集まって開発した電子本作成のソフト(装置?)のようでした。

画像も入れられるし、ファイルサイズもとても小さくできるし、電子本に適したソフトなのだそうです。『おおっ、これはいい』と考えて、更に調べてみると、どうも、お金もかかることが解ってきました。

確か、一冊販売すること、いくらとか固定費がかかってくるのです。

年会費がいくらとか、初回導入費がいくらとか。

詳しい金額等は、変更になっているかもしれませんが、ご自分でも調べて欲しいのですが、本を出版するたびにお金がかかるのは、私にとっては、不本意極まりなく、この案は、却下となりました。

第一、売れるかどうかもわからない個人の本の出版に、そんなに金をかけられる訳がありません。

PDFファイルという方式は、主にアクロバットで作るファイルの方式です。

ああ、モチロン、他のソフトでもPDF形式にできるのであれば、構わないんですけどね。

アタシも、イロイロ試してみましたよ。PDFファイルを作れると書いてあるお高いソフトをね。(ウィンドウズと相性が悪いのか、ソフトが粗悪なのか、アタシの操作が未熟だったのか、どれもちゃんと動きませんでしたけど。)

PDFファイルで作成した電子本の特徴は、画像を扱えることです。

ネットの出版社さんでは、文字だけの本は、【T-Time】で、写真集などは【PDF】で作成してありました。(製作ソフトが安いっす。)

アタシは、アクロバットを既に持っていたこともあり、とりあえずはアクロバットでの電子本を作ってみようと考えたのです。

小型端末機で読めるという本にも、心が惹かれましてけどね、テキストを縦書きに作り変える程度のソフトなら、将来、必要な時にソフトを購入すれば、すぐに使えるようになりそうだったし、まず、『自分の目を達成するために必要な本作りのスキル』を身に付けるべきだと考えたのです。

PDFファイルの難点は、ファイルサイズが他の形式よりも、少し大きくなる所だと思っています。

画像を扱うと、ファイルサイズは、更に大きくなってしまいます。画像をキレイに表示させるようになるよう、ファイルサイズも、巨大になってゆきます。

ファイルサイズの問題は、今後のパソコン環境の改善とともに、あまり気にならなくなると思います。し、重すぎる場合には、CD-ROMで配布するという方法もあります。

私にとって一番大事だったのは、売れるかどうか解らない本に、金をかけすぎないということです。

そして、手持ちのソフトで実現の可能性があるのでから、これを使ってみようという感じでした。

ですから、今、この本をネットで立ち読みして、この本を買うかどうか迷っている方は、まず、サーチエンジン検索で、『ポシブル堂書店』と入力し、電子本の本屋さんを訪ねてみましょう。こちらは電子本を集めて、販売していたり、無料でダウンロードできたりする本屋さんです。

本を読むためのソフトのリンクも充実しています。

ここで、イロイロなタイプの無料の本をまず読んでみて、ソフトの使い心地などを試してみます。

ソフトのダウンロードの状況とか、そのソフトのダウンロードのページから、本を作るソフトなどの情報にもジャンプできますから、まず、現在、電子本作成には、いくらくらいかかるのかという値段を調べてみるということです。

私の本【バリ島★ぶうげんびりあ】と【素描】もここで立ち読みが可能です。

そうして、イロイロ調査のあと、自分もワードとアクロバットで電子本を作ろうと決心した方は、どうぞこの本をお求めください。

まあ、たとえば、PDFで本を作らなかつたとしても、内容的には電子本や、ーSRZノードに関しては、かなり理解が進められると思いますけどね。

でも、ワードとアクロバットでカンタンに自前出版する本なんですから、やっぱり、他の方法を選ぶ方が読んでもお役に立ってるのかは疑問です。

## 第一部 電子本・自前出版してみませんか？

\*\*\*\*\*  
もくじ  
\*\*\*\*\*

### はじめに

この本を買う前に要チェック  
ついでに、電子本の種類について

## 第一章 電子本に関して

### 本の条件

ISBN(図書)コードって何？

電子本の特徴

Webページとどう違うのか？

電子本の特徴

Webよりも優れている点

電子本を出版するまで

画集出版という夢

帰国後どう生活するのか？

電子本時代の出版業界

出版社への売り込みの検討

電子本の出版社の調査

一冊目が完成して解ったこと

自宅のプリンタで印刷できる画集

ISBNコードの付加



## 第二章 ワードでの原稿作り

原稿を作る前に

何故PDFに変換するのか？

基本のフォーマットを作ろう

- ・基本のフォーマットの作り方
- ・フォントと文字の大きさを決める
- ・縦書きか横書きかを決める
- ・余白を画面に最適化する
- ・ヘッダーとフッター・ページ番号
- ・見出しのスタイルを設定する

特別付録【この本で使った基本のフォーマット】

本を格納するフォルダーを作る

本の設計とファイル名の工夫

本はどこから書き始めるのか

文章を打ち込んでゆく

画像データ取り扱いの注意

章をつけたい場合

見出しの設定をする

表紙を準備する

- ・表紙タイトルをワードアートで作る

【はじめに】と【おわりに】を作る

校正は3回しよう

巻末の出版者情報を作る

ページ番号を訂正する

- 【もくじ】を完成させる
- 【しおり】データを作る
- 【しおりデータ】の設定

### 第三章 ワードデータをPDFに変換

- アクロバットを、インストールする
- ・プリンタの設定をする
- アクロバット変換設定の変更
- 【一般】のタグの設定
- 【圧縮】のタグの設定
- 【しおり】のタグの設定
- 【表示オプション】のタグの設定
- ボタン一つでPDF
- 用紙の向きを回転させる
- 本を順番に PDFに変換してゆく
- 文章を順番につなげてゆく
- 目次から【しおり】の作成
- 保存と再保存
- ファイルサイズの調整
- 本の稼動をチェックする
- ワードファイルをアクロバットに変換する
- 本として組み立てる
- 再保存してサイズを最適化する
- 本としての稼動を確認する

## 第四章 I S B Nコードに関して

I S B Nコードを取るのかどうか  
取得の手続き

書籍J A Nコードって何？

I S B Nコードを登録する

国会図書館に本を寄贈する

## 第五章 本の販売をどうするのか？

本の販売をどうするのか？

電子本の配布方法

C D-R O M版で配布する

自分のホームページで配布する

支払いの方法など

C D版も販売する理由

ネット書店で本を販売する方法

セキュリティの問題

C Dの場合

ネットで配信する場合のセキュリティ対策

人は、本をどこで買っているのか

電子本の販売方法のまとめ

- ・お友達に直接販売する

- ・近所の本屋さんにおいてもらう

W e bでの販売

支払いの方法など

C D版を販売する理由

W e bで本を販売する方法

- ・ネット書店での委託販売  
無料のネットショップと効果
- ・アマゾンやネットの書店での販売  
本の書店流通経路に乗せるには  
実際の所売れているのか？  
電子本を読んで頂くための環境作り  
投資コストを回収できたのか？

あとがき  
参考文献

第一章

電子本に関して



\*\*\* 本の条件 \*\*\*

何が本で、何が本じゃないのか。

本を出版する前に、最低限知っておかなければならぬのがこの部分です。苦勞して折角作ったのに、本に該当しなかったら、ガッカリしちゃいますもんね。

アタシの場合、『自分で電子本を出版しよう』という話を友人にしたときに、友人は、『図書コード』というのがある』と、教えてくれました。

早速『図書コード』をインターネットで検索すると、出てきました。(http://www.jpba.or.jp/)  
『日本図書コード管理センター』

そのまんまやんげ。

とりあえず、ホームページで概要を調べて、あんまり値段が高くなかったので、図書コード百個を取ることに決めて、センターに一万八千円を支払います。

そうすると、もう、翌々日には、『日本図書コード書籍JANコード 実施の手引き』という本と、図書コード百個が送られてきました。(甲)

この、『日本図書コード 書籍JANコード 実施の手引き』の第二部に、『本』についての説明が詳しく書いてありました。

アタシも、よくわかっていたいなかったもので、無謀にも、先に図書コードを取ってしまったが、結果的には、皆様にご紹介できるんで、ヨカッタと思っています。

ここからは『日本図書コード 書籍JANコード  
実施の手引き（改定第6版）』 ISBN4-  
9749999-08-7 の第一部の引用です。

注意として、2007年以降、コード基準が国際標準と同じ体系にシフトするらしく、本として該当する項目にも、変更があります。

第二部の最後に、ご紹介しようと思います。

## 第二部

日本図書コードのOCCR表記(ISBN)と書籍JANコードの規定と運用

一、日本図書コードを付けるもの付けないもの

### ■日本図書コードをつける出版物

以下のものには販売ルートの如何に関係なくISBNを付与する。

- 1、いわゆる書籍（年鑑・年報などの逐次刊行物を含む）
  - 2、コミック・ムックで流通上雑誌扱いのもの
  - 3、カセットブック・ビデオ・CD-ROM、その他電子出版物(但しWEB上のデジタルコンテンツを除く)
  - 4、マイクロフィルム、点字出版物
- 日本図書コードを付けない出版物

以下のものはISBNの対象としない。

- 1、新聞
- 2、いわゆる雑誌
- 3、手帳・カレンダーなどで著作物(編集の要素が少ない出版物)



4、扉も本文もない一枚の印刷物（一枚ものの  
版画・写真・地図・楽譜など）

5、検定教科書（ただし教科書採用以外で市販する  
ときは対象となる）

■オンデマンド出版物の取扱い

オンデマンド出版物とはあらかじめ在庫を用意することなく、読者よりの注文に応じてその都度作成される出版物を言う。

オンデマンド出版物で、複数のコンテンツの組合せをその都度読者が選択できたり、一定十数のページを読者が製作できるような個人版を除き、フィジカルな形態で作成されるものはISBNの対象とする。新しいISBNを付与し、規定に従って印字する。

オンデマンド出版の出版者は原則として原版の出版者である。出力機能の保有者を出版者とする場合は、原版の出版者と出版条件について契約を結ぶ。

■WEB上のデジタルコンテンツの取扱い

ISBNは書籍等を特定する番号だが、WEB上のコンテンツはドメイン・フォルダ・ファイルの順でユニークなので、ISBNを割り当てると、二重に特定することになる。

また微小な変更が常時可能でファイルが確定し難い面がある。当面ISBNの対象としない。

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

引用終わり

\*\*\*\*\*

\*\*\*\*\*

ということなんだそうです。

そんなでもって、この文をよく読むと、アタシが作ったCD-ROM版やオンデマンド出版物にも、図書コードをつけることが出来る。＝ 図書コードを購入して付加する ＝ 世界標準の本のデータベースに登録される。

ということが解ってきたのです。

ですから、何が本なのかといえば、この、引用文中にある、ISBN(図書)コードをつける条件を満たしていれば、本なのです。

ISBN(図書)コードをつける仕組みについて、いろいろと

初心者のアナタには、きっと、次にはそういう疑問が湧いてくることだと思います。

\*\*\* ISBN (図書)コードについて \*\*\*

本屋さんで売っている本の裏表紙を見ると、なにかしら、小さい数字が印刷されています。

これが、ISBNコードです。

私も、図書コードを申し込んだ時点では、本の条件等はよく解っておらず、『【国際図書番号】というのを本に付加するというのができる』程度の事しか、理解していなかったのです。

申し込みを終えて、『日本図書コード 書籍JANコード 実施の手引き (改定第9版)』ISBN 4-9749999-08-7』JANコードをよみ読み、『ISBNのじゆも解り書き』。

これは、この本の『はじめに』にある、ISBNの説明の引用です。

『膨大な出版物を、どの国の、何という出版社の、どのようなタイトル of 出版物であるかを特定でき、容易に検索できる基盤となる番号を決定するシステムが「ISBN」(International Standard Book Numbering) のISO国際標準図書番号である。』

この説明を私的に翻訳するよ、

「なるほど。国際的な、本の番号を決定するシステムなのか。この本の番号は、世界的な基準に基づいて管理されており、『出版国』『出版社』『タイトル』などが、番号ごとに、データベースに登録されるということのようだ。」

大量に発行され続ける本を、カンタンに検索したい。そのためのデータベースの根幹となる本のコードを、国際的に標準化し、発行・管理する機関を設けよう。そうして、その業務を行っているのが『日本図書コード管理センター』ということになる。このコードは、便利なので当然本屋さんや、本の流通過程でも利用されている。」

こんな感じですよ。

出版する側から考えると、ISBNコードを本に付加するよ、

- 国際的な本のデータベースに登録され、世界に作家デビューできる。
- 本屋さんや、本の流通業者に、扱ってもらいやすくなる。(大量に販売できる可能性が高まる)
- 本を探している人が、図書館や、本屋さんのデータベースから、自分の本を見つけてくれ、直接注文を受けられる

という利点が生じてきます。

私は、大学の時の専攻が『消費者志向のマーケティング』で、サラリーマン時代には、『データベースマーケティング』がメインの業務であったこともあり、この、『データベース』という言葉に、メチャクチャ弱いのです。

本のデータベースが、どんな風になっているのか知りたくて仕方がなくなりました。個人的な興味から、ISBNコードを申し込んでしまったといえなくもありません。

データベースの知識や、過去の業務によるキャリアがあったために、ISBNの内容が容易に理解できたということもあったと思います。

貴方の電子本に、ISBNコードが本当に必要かどうかは解りませんが、とりあえず、『日本図書コード管理センター』のホームページにアクセスして、概要を調べてみることをオススメします。

ISBNコードは、お金さえ払えば、個人でも取れるのです。お金を払うだけで、ISBNコードが自分で取れる（＝世界的な本のデータベースに登録され、探している人に見つけてもらえる）なら、取らないという選択肢はありません。

貴方の文章も、本と認められるデータの形にして、  
ーSBNコードをつけて、ぜひ、作家として、世界に  
デビューしちゃいましょう。

『日本図書コード管理センター』のホームページに  
アクセスすれば解るんですけど、図書コードは『十個  
一万二千円』というのと、『百個一万八千円』という  
のの二種類が選べるんです。

値段が六千円しか変わらないのに、ーコード辺りの  
単価が千二百円になるか、百八十円になるかです。

私の場合、本は、何冊か発行する予定だったので、  
十個じゃ足りないかなと思えてもきて、一気に百個取  
ることにしたのでした。(後で解ったことですが、『十  
個一万二千円』のコースでも、二千円出すと、十個づ  
つ追加で図書コードを取れるみたいでした。本が増え  
てから六千円追加で払うと、百個にバージョンアップ  
もできるらしいです。この情報も、ホームページに書  
いておけよ。ったく。)

あ、その他に、3年ごとと、更に一万円かかるみた  
いです。ま、いいっすよね。それくらい。二年間で、  
一万円位は本だって売れるでしょうし……。たぶ  
ん……。まあ、図書コードの値段は、お解りいた  
だけたと思います。

申し込みを終えて、お金を支払って、

『日本図書コード 書籍JANコード 実施の手  
引き（改定第6版）』ISBN4-9749999-08-7

という本が届きます。（値段は図書コード百個に込  
みになっているみたいでした。）

私は、その本を読んで、更にイロイロな本に関する  
ことを理解することができました。

\*\*\* 電子本の特徴 \*\*\*

電子本というのが、紙の本と、一番違う点は、『パソコンで読む』という部分です。

パソコンで読むというのは、パソコンの画面で文字を読むということです。

メリットは、

- 紙に印刷しないので、制作コストが安い。
  - 写真や、イラスト、図などを沢山いれても、コストは、文字だけの本とあまり変わらない。
  - 画面にフルカラーで美しく表示できる。
  - 自宅のプリンタで印刷して利用できる。
  - 本のようにかさばらないので、保管場所が少なくて済む。
  - 情報の量が少なくても（少ないページ数であっても）、本として出版できる。
  - ISBNコードを登録できて、必要な人にみつけてもらえる。
- などが考えられます。

デメリットは、『パソコンが無いと読めない』という部分です。本は持ち運んで、好きな場所で読めますけど、電子本は、必ず、パソコン（もしくは、携帯PDA、携帯電話など）の前で読むということになります。



電子本は、本の形態としては、まだ新しいし、パソコンの普及率や、利用率を考えても、読む事が可能になるのは、ほんの一部の人に限られるんじゃないかと思えます。

それでも、将来性は感じます。

従来であれば、コスト面から採算が合わず、本に出来なかった研究文献や、製図、写真集、画集、ページ数が少ない小説などを本として、世に残すことが可能になります。

紙の本に慣れているので、電子本に馴染まないという人も、今の所は多いです。

それでも、どんな情報であっても、無いよりはマシです。

その人にどうしても必要な情報で、電子本でしか入手できないのであれば、パソコンだって、頑張って操作して、なんとか読もうとするのが人間です。

パソコンで読む電子本。

これを作る時に考えることは、『パソコン画面で、最も最適に表示できるページ作り』になると、私は考えました。

すなわち、『パソコンで読みやすい本』を作るとい  
うのが、電子本作りの基本となるのです。

パソコンで読みやすい本というのが、どういう本かという点、『パソコンの画面で見たときに、一ページ全部が、はみ出たり、スクロールしたりせせずに全部読める』という本のことです。

文字の大きさだって、パソコンに合ったサイズというのがあると思います。

パソコンで文章を読むのは、思いのほか疲れますから、文字は、普通の本と比較して、大きめに作成しています。私は、Webサイトで利用している文字よりも、さらに、少し大きめで作ることにしました。

自分も作っていて、疲れが少ないですし、ページ数も稼げます。(セ「イー」)

私の電子本のほとんどは、絵が中心なので、『好きな絵を紙に印刷して飾れる』というのもコンセプトになっていきます。ですから、プリンタで印刷して飾ることも前提に設計しています。

用紙のサイズをパソコンに最適化して変更してしまつと、印刷したときに、複数ページに渡ったり、想像していた位置に印刷ができなかったりしてしまうという問題が起きました。

ですから、あくまでも、A4横という、一般的なサイズで、パソコンで最適に表示できるように余白や文字サイズを変更して設計しています。

このスタイルは、まだ試行錯誤の段階なので、将来はもっと、最適な方法が見つかるかもしれません。

作っていて解ったことですが、この、パソコン画面からはみ出ない【基本のフォーマット】というのは、長文を書いてしまったあとに編集するのは、思いのほか面倒でした。

ですから、効率的な段取りを、この本では、具体的に説明しています。なるべく、私の指示に従い、一冊目を作ってみるといいうのをオススメします。

何冊か作り続けてゆくと、更に、気になる部分とか、効率改善などでもできるかもしれません。

その場合、見つけた方が、本を出版して、知りたい方に、教えてあげてください。アタシには、こっそり教えて下さいね。うふふ。

\*\*\* WEBページとEJの違いのか？ \*\*\*

電子本は、小さい出版社さんが、ネットで展開している場合が多いです。今は、大手出版社も、版權を持っている昔の作品を電子本化し、販売を開始しているみたいです。

電子本は、パソコンを持っていない人は読めないの  
で、ネットでしか展開しないというのは、正しいアップ  
ローチだと思えます。

イロイロな出版社さんを調べて解った『電子本』は、  
こんな特徴を持っていました。

・ Webと違う部分

- 電子本は、縦書きである (Webは、全て横書き)
- 電子本を読むには、(文字を縦書きにするなどの)  
本を読む特別なソフトをインストールする必要が  
ある
- 電子本は、ほとんどが五百円で販売されている (調  
査時の話です)
- 無料の電子本もある
- ISBNコードがついているとは限らない
- 写真集や、絵本もある
- 本は、ネット上から、パソコンに一日ダウンロード  
して、電話線を切つてゆつくりと読むことができる。  
(パソコンにダウンロードして読まなければなら  
ない)

- 本のように、めくるように、次に進んだり、もくじ（しおり）をつけたりできる
- 電子本には、凝ったフォントの作品もある
- 本のサイズは、イロイロな大きさに指定できる  
とじりじりだった。

\*\*\* Webより、優れている点 \*\*\*

- Webよりもキレイな画像を提供できる
- 自分の好きなフォントやレイアウト、縦書きで本を作れる
- ISBNコードをつけ、世界標準の本のデータベースに登録することができる。(Webページは、本として認められず、コードはつけられない)
- 画像を高解像度で提供できるので、自宅やオフィスのプリンタで必要なページを印刷して、身近な所に飾れる。(Webでは、表示を早くするために、画像をかなり圧縮するので、画像印刷には適さない)などがあげられます。

そうして、その時に感じたのは、『Webページでは、はどうして駄目なのか?』という強い疑問でした。

わざわざ、本を読むソフトをインストールするのは面倒だったし、ソフトのダウンロードと一緒に、ウイルスがついてきたら嫌だなあと思いました。

そこまでして、文章を縦書きで読める必要を感じなかったのです。

本をダウンロードして解凍するのも面倒だったし、ネットで金を払うのにも危険を感じました。こんな面倒なプロセスを通ってまで、どうして電子本にしなければならぬのか？アタシの『脳みそ』の中では、ずっとモヤモヤが続いていました。

Webサイトの特徴は、全ての情報が無料で公開されているという部分です。

もちろん、広告や商品販売などにも使われていますが、商品は有料ですけど、アダルトサイトを除いては、コンテンツそのものは、無料の場合がほとんどです。

Webの情報は、無料というのが基本なんです。どんな情報も、無料で引き出すことができます。だから、便利で、有難いのです。

だから、こんなに沢山の人に利用されているのです。

でも、何でも無料だというのは間違っています。利用者にとって、価値ある情報や、収益をもたらす情報は、有料で販売するべきだし、お客様も、どうしても必要なのであれば、代金を支払ってでも手に入れようと思うのです。

私は、ホームページで情報を無料で発信し続けていますが、来る方も『無料なのが当たり前だ』と思っているので、失礼な人にも出会いました。嫌になることも何度もありました。

嫌な目に会いながらもサイトの運営を続けてこれたのは、アクセスしてくださっている沢山の方がいるということもありますし、自分の絵を発表する場と考えているという、情報発信とは別な目的もあるからです。

こんな私でさえも、無料で発信している情報と、有料で発信しようとしている情報には、差をつけています。金を取れる情報を持っているのですから、有料化するの当たり前前の話なんです。

電子本というのは、価値のある情報をWeb上で有料化する手段としても、多くの方に受け入れられてくると思います。

\*\*\* 電子本を出版するまで \*\*\*

初めの電子本を作るずっと前、確か1997年頃から、私は、

『Rica, s Bar(<http://www.ojara.net>)注: 現在の名称は(あとろえおじゃら)』  
というホームページを運営していました。

結構アクセスしてくださる方がいて、絵も展示してありますが、読み物も好評だったのです。正確には、私の読み物を読みに来てくださっている方が、ついでに絵も見て下さっているのです。

こんなに人が集まって来るのであれば、文章の一部を有料化したいと考えて、電子本の研究を始めたのです。(ホームページのアクセス数は、スタート5年程度で十三万人位)

私が電子本の原稿を書き始めたのは、二〇〇一年の夏ごろでした。

ところが、電子本を作るのは、簡単ではありませんでした。特殊なフォントを利用すると、PDFに変換すると、文字化けしてしまうのです。

本を作るお高いソフトの使い方も煩雑で、なかなか思うようにスキルの習得が進みませんでした。

どうしても上手く行かず、行き詰まり、長い間作業は中断していたのです。



私は、将来できれば画業で身を立てたいと思ってバリ島で、絵を沢山描いています。(初版出版時は、バリ島在住でした。)貯まってきた作品を何らかの形で、発表したい。発表しなければならぬ。

自分の作品の認知を上げる活動。これは、画家であれば、当然の活動です。

しかしながら、最初の本を書いた時(二〇〇一年)には、バリ島に住んでいたこともあり、無職無収入に近いので、東京で大金を払って個展を開く事が本当に今の自分にとってベストかどうか、判断に迷いました。

往復の飛行機代、東京での滞在費、絵の輸送料、額代、ギャラリーのレンタル料、ご案内状などなど、金がかいからかかるかの検討もつきません。バリに住んでいる間は、東京で個展など、開くべきではないのです。作品の発表の手段として、自分の画集を出版するというのはどうかと考えました。

自分の作品集が、本になっていけば、画廊に個展のためのPRをしたり、出版社にイラストの売り込みをするのにも使えるかなと思ったのです。

友人の出版社の方に、画集の制作に、いくらくらいかかるのか聞いてみました。百ページ程度の、割に質の高い作品集で二百万円位必要だと言われました。

うーむ。たいして上手くもない絵の作品集を、大金を支払って、今作るべきでは無いことは、明らかです。

電子本が、自分で作れば、絵の発表ができる。

電子本をプロとして、画業の売り込みに使うのであれば、元になる作品は、有料で販売している品でなければならぬと考えました。

プロなのであれば、自分の持ちネタをタダで公開してはいけません。Webサイトではダメなんです。それが、例えば、『自分で作った電子本』であっても、『独りよがり』でも、『一冊も売れていなくても』『画集を有料で販売している』という事実が大切なと感じました。

ホームページも有料化できて、収益をあげられるかもしれない。

電子本を売り込みに使い、文も少し書けるといふ事になれば、雑誌社から、イラスト付きエッセイの仕事なども来るかもしれません。

画集が存在することで、どんどん夢はふくらんでゆきました。

・帰国後どう生活するのか？

私は、画家になりたいなどと言っている割には、現実的です。夢に敗れる場合もあると、当然に想定しています。何故なら、画家で生活するというのは、絵の才能のほかに、営業能力や、社交性、運も持ち合わせていなければならぬからです。

絵がどんなに上手くても、画業で生活できない人というのが沢山いるというのを知っています。

日本の不況は悪化し、失業者が溢れています。優雅に絵など買っている場合ではないのです。

私は現在、預金を切り崩して生活していますが、私の預金には限りがあります。そうしたら、仕事を探し、生活費を稼がなければなりません。

もともと、パソコンは得意だし、ホームページも独学で作ってきたので、就職できないということは無いと思いますけどね、更に電子本が作れば、もっと就職に有利になるんじゃないかと考えたのです。

絵も発表できて、就職にも有利になるのであれば、一石二鳥です。なんとか、このスキルを身に付けられないか？

電子本を、作って販売している人が実際にいるわけですからね。アタシにできないはずがないんです。

そう考えた私は、電子本作りの研究を再開し、もう一度粘ることにしました。

無職なんで、電子本を作成したり、研究する時間もタップシあります。本を作る試行錯誤をするには、いい環境です。

今では、自分がパソコンスクールや大学などで、電子本の作成講座を持ったりすることはできるかもしれないと考えています。

電子本の用途は、出版に限りません。社史や、会社の概要のパンフレット、プレゼンテーション用の資料、お客様へのカタログ作成など、あらゆる分野に應用が可能なのです。

自分の会社で、社員が電子カタログを作成できれば、経費も大幅に節約できます。

ですから、どんな企業であっても、本を作る必要がある会社さんに、自分の得意技として、『電子出版のスキル』を売り込んで、就職活動を有利に運ぶこと（給料の高い会社に就職できる）が可能となると考えたのです。

自分の本が、本のデータベースに登録されれば、ネタを探している人が、本の検索で私を見つけ出して、向こうからコンタクトを取ってくるかもしれません。

他にも、電子本を出版したいという人からの申し出があり、本を代行して作るということで、収入を得ることができるともいけません。

自分の本を出版したいという人は、思いのほか多いのです。

これからは、無料のWeb情報と、有料の情報（本や雑誌）との戦いの時代がはじまります。本や雑誌は、Webでは、手に入れない、質の高い情報をもっと提供しなければならなくなり、取材や、画像、本の制作費にどんどんとコストがかかってくると思われます。

逆に、Webでタダで引き出せる情報を本にして、紙で発信している程度では、売れないので、採算が合わず、生き残れない時代になるでしょう。

それは、どうなってゆくのかというと、出版業界に『売れる本しか作らない』という傾向が、ますます高まってしまふということなのです。

貴方の本が、出版社に取り上げられる可能性も、どんどん低くなっているといえます。

本を売り込みに行ったら、自費出版を勧められた？  
いくらでした？・マンションの頭金位じゃなかったっすか？

よーく考えたほうがいいですよ。自費出版は、出版社が生き残る、最後の手段ともいえなくもありません。

本なんて、お金を払えば、誰でも出版するじやがで  
きるんです。

いかに少ないお金で、自分の本を出版するのか。こ  
れはこれで、価値がある情報だと私は考えています。

\*\*\* 出版社への売り込みの検討 \*\*\*

私が作っていた電子本が完成に近づき、自分で出版する前に、紙の本にならないかと、出版者に売り込みに行こうと、考えた時期もありました。

バリ島には、大手出版社を定年退職され、近くに住んでいた知人がおりましたので、相談してみることになります。コネも無しに、売り込んだって、うまくいきっこないからです。私の本を読んでいたいで、イロイロとお話を伺いました。

私の本は、ジャンルが特殊で、イラストが多く、フルカラー版だったこともあり、『いきなり本というのは難しいだろう。雑誌などの連載という形でなら、紹介できるかもしれない』と、相談に乗ってくださいました。

出版社の裏話なども伺うと、作家と出版者の力関係も、なんとなく解って来ます。

例えば、運良く、大手出版者に採用になったとしますよね。(アタシは、メチャクチャ運がいいので可能性はある)雑誌でのエッセイの連載が始まったとする。原稿の訂正やイラストの書き直し依頼がくる。原稿料はたいしてもらえないのに、忙しくなる。



うまくいって大手に採用になって、紙の雑誌に連載になったとしたりって、今ある原稿の手直しで忙しくなるだけで、金はたいして入ってこないのです。

大手扱いで千冊売ってもらうのと、自分で百冊売るとでは、収入は同じ位なんじゃないかと思えてきました。

ひよっとしたら、『原稿はタダで渡し、本は、出版者持ちで出版するけど、収益は全部出版者受け取り、刷り増したときだけ、僅かに印税をお支払います。』ということになりかねません。刷りましたときに印税ねえ。フツーは、刷り増さないだろう……。

逆に、連載が好評で、メディアの波に乗って、爆発的に人気になってしまいかもしれません。次々と仕事が舞い込むようになる……。

そうしたら、絵が描けなくなる。絵が描けなくなるのが、今の私にとって、本当にいいことだとは思えませんでした。私は、画家になりたいのであって、作家になりたいのではないからです。

例えば原稿書きで忙しくなったとしたりって、無名なので入ってくる金は僅かだろうし、書けなくなっただけなら飽きられれば、すぐに捨てられる世界なのです。

でも、これが、今の出版業界の現実です。本を苦勞して作っても、イチバン苦勞した作家さんには金が入ってこないという構造なんです。

出版業界って、横暴っすね。メチャクチャっす。『構造改革』、したほうがいいんじゃないっすかね？文を書いた人が、本を販売した収益を受け取れなければ、いい作家が育たないのも当たり前です。

売れる本しか作らずに、『これでは売れないから』という理由で本を出したい人の主張や思いを校正してねじまげて、「これなら売れるだろう本」に書きかえることしかしてこなかった結果が、作家のやる気を失わせ、今の出版不況につながっているんじゃないかと思えますけどね。

しかも、タダで書かせているなんて……。

アタシは、のんびりするためにバリ島に移ったのに、たいして金にならない本のために、忙しくなるのも不本意だと思えてきました。それで紙の本にするための出版社への売り込みは、このときは見送ることにしました。

この程度の本であれば、まだまだ書けそうだったし、次も書けるのなら、次にも売り込むチャンスは生まれるからです。今の段階では、自分で電子本という形にまとめてみることに決めただのです。

出版社を退職された、バリ島在住の知人の方に、『今回は、出版社への売り込みはしないことに決めました』と伝えると、彼は、『出版しないというのはいけません。どんな形でも、必ず本にしなければなりませんよ』と、励ましてくださいました。

心強く、有り難いお言葉でした。

私は、彼のアドバイスに従って、エッセイの内容も少し訂正したりして、まだ完成していなかった本を、やっと完成させることができたのでした。

\*\*\* 電子本の出版社の調査 \*\*\*

大手出版社への売り込みを見送った私は、テキストデータを電子本として出版してくれる会社に関しても、イロイロ調べてみました。

どの出版社さんも、作者への原稿料は支払わないのが普通です。紙の出版社さんがそうなのだから、電子本の出版社さんが、金を払わないのは、当たり前とも思えてきます。

ネットの出版社さんは電子本を無料で発行してくれて、売れたら半分頂きますという、自費出版よりは良心的なシステムではありませんでした。

それでも、紙の本と同じように、新しい作家さんには、ほとんどお金は払われないのが普通みたいです。

私は、疑問に感じました。私が苦勞して作った私の本なのに、作者に金が入らないのは、間違っています。ネットの出版社さんに頼んで本を出版した場合、五十%近く手数料を取られてしまいます。自分で販売すれば、100%自分の手元に入ってきます。

あの程度のホームページなら、アタシでも作れるし、自分で販売すれば、収入は倍になるのです。(といっても、一冊二百五十円が、五百円になるだけです) (よ)

ネットの本屋さんの本だって、どうせたいして売れ  
たりはしていないはずなのです。どうせ売れないのな  
ら、自分で出来るところまでやってみるべきじゃない  
のか。

本だって、出版社のスタッフが、パソコンを操作し  
て作っているはずです。彼らに作れるのであれば、私  
にだって作れないはずがありません。

私は、自分で出版することを決心したのです。

\*\*\* 一冊目が完成して解ったこと \*\*\*

本が完成して、本を自分で開いて読んだ時には、『これがアタシの本なんだ』という、嬉しさが沸いてきました。

表紙がどーんときて、カラーの画像が現れます。

そうして、自分の思いは、イラストや、エッセイを通して、本として、どんどんとページをめくり読んで頂くことができます。

パソコンの中であるということ以外は、紙の本とあまり変わらないです。好きな絵やエッセイを印刷して飾れるのであれば、紙の本よりも、もっと上だと思えなくもありません。

理由は、絵や色付きの本は、制作費にお金がかかり、経営が苦しい出版社は、ウハウハと出版してはくれないからです。

電子本は、写真や絵本、画集、製図本、商品カタログなどに本当に適していると実感しました。今まで、金がかかるということでも十分に作ることが出来なかった本を、ローコストで作れる時代になったのです。

電子本が完成して、Webページとの違いを教えてくださいと言われれば、それは、フォントやページのレイアウト、縦書きが可能という部分が大きいです。

アクロバットで本を完成させると、ただの文書に、ページをめくる機能が自動的に付加されて、本になります。

このファイル方式は、マッキントッシュでも、ウィンドウズでも閲覧できるようにするので、ワードの文書と比較して、もっと、軽いサイズで、本として、多くの方に読んでもらうことが可能になります。また、ワード文書や、HTML文書のように、容易に書き換えることができなくなり、本としての情報が守れます。

わざわざ、ワードからアクロバットに変換するというのは、誰かがデータを書き換えたりできなくするプロセスなのです。

たったそれだけの表現方法の変更であっても、『本にする価値はあるな』と、私は感じています。

Webページを一万ファイル(画像も含む)以上も作ってきた私は、自分の本を開いた時に、Webという形式にずっと、不満があったのだと初めて知ることができました。

Webページというのは、フォント一つにだって、自分の思うとおりには変更できないというのが特徴なのです。

それは、不特定多数の人が快適に閲覧できるように開発された、『情報』の、現代の姿といえなくもありません。できるだけ小さいサイズで情報を交換するために、どうしたらいいのかという部分から、構築されたのです。

でも、自分の本を電子出版するというのは、もう一歩踏み込めるんです。味気ないテキスト文字ではなく、少し装飾もあり、作家の個性を表現できるフォント（文字）を使って作ることが可能です。

電子本は、紙に印刷するのと比較して、この、文字やレイアウト、画像に関する扱いが、ぐっと、安く、思い通りに作れるようになっていきます。

自分の作品の画像の品質だって、自分の思い通りに作成できるのです。



多くのアーティストは、Web上のギャラリーの画像の品質に不満を抱いているに違いありません。それは、私もそうだからです。

もちろん、電子画集にしたって、デジタルに圧縮することには違いはありませんが、Webと比較すると著作マークを入れて、画像を保護したり、実物にかなり近い形で発表が可能になってくるのです。本を買ってくださった方が、自宅のプリンタで、私の画集の中の絵を印刷できるって、どういうことだと思いますか？

私側では、本を作成・販売するだけで、本を買って下さった方全員に、私の絵を飾って頂けるってことなんです。

私の方では、在庫は一切持つ必要はありません。ポスターや、ポストカードなどの制作費もかかりません。お客様は、好きな絵だけ、何枚でも（紙やインク代はお客様の負担で）自分でプリントアウトできるのです。え？それだと、ホンモノの絵が売れなくなってしまうって心配になりますか？  
私は、そうは思いません。

画像は『本』として有料で配布している訳だし、本を買った方だけが、絵をプリントして飾れるのです。

絵を印刷するのだって、タダではないんです。それを、私が負担したり、在庫を持ったりしなくて済むのです。なんて活氣的。新しい作品集を、在庫を持つことなく、どんどんと発表できるのです。

私はよく、美術館に行ったり、ミニポスターや、ポストカードを何枚も買い、オフィスや、自宅に飾っていました。

理由ですか？ホンモノの絵は高く買えないからです。それでも、好きな画家の作品というのは、身近に飾っておきたいのです。

そういう風に、日常から絵に親しんでいる方の中から、ホンモノもぜひ購入したいという人が出てくると、私は考えています。

プリンタでプリントできるといっても、結局はデジタルデータをプリントしているに過ぎません。ホンモノの作品とは、圧倒的な差があるのです。

私は、自分の作品の画像などを大量（一万枚以上！）にデジタル加工していますので、デジタル画像については、よく理解しているつもりです。

デジタル画像は、今の段階では、実物に、かなり近い形にまで再現できるものもありますけど、実物と同じ品質を生み出すことは不可能なんです。

その程度の品質でも、製作コストが安ければ価値があります。

紙の本であれば、何百万円もかかってしまうところ、自前であれば、初回必要な機器類を揃えるだけ、何冊作っても人件費と電気代以外はかからないのです。

私側は、本を作るコストだけの負担で、他には全く費用がかからないのに、買った方がプリントして、飾ってくださるといふのは、画期的だと思います。

お互いにメリットがあるのです。

私の作品は、絵として額にいれて飾る他に、ブックカバーにしたりして配布しています。将来的には、便箋や封筒などの、文具にまで拡張できると考えています。

自分でプリントして使える文具という発想です。

私は、手紙などたいして書きもしないのに、沢山の便箋や封筒を集めていました。

今となっては、もったいないお金だったと思っています。現在は、自分がパソコンで作った便箋を使って書いているからです。

そんなに沢山便箋を持っても、いざ、知人に手紙を書くこうとすると、身近な場所に便箋が無くて、新しいのを買わなければならなかったりします。

また、パソコンで文字を入力し、便箋に印刷したいのだけど、市販の便箋では、うまく文字が印刷できないなんてことも多くありました。

一旦電子本として作成したPDFファイルには文字は打ち込めませんが、便箋として一度プリントして、更に、ワードソフトなどで文字を後から印刷するという方法であれば、便箋の展開も可能になると考えられます。

便箋だけでは、本としては販売できませんが、本の中に付録として入れたりすることで、女心に、本の購入を決意させるかもしれません。

私の場合、絵を描いたり、本に加工したりするのも、全部自分でできるので、コストはゼロなんです。それで本の売上がアップするのであれば、絶対に付録をつけるべきだと思います。

私にとっても、私の作品を身近に飾っていただいたり、日常生活の中で使っていただけるというのが、最大の喜びであるのです。

飾られない絵は、この世に存在しないのと同じです。それは、読まれない本や、人の来ないWebサイトも同じことです。

アーティストの中には、お高く止まって、画像作品や文章の著作権やら、コピーライトの主張ばかりしている人も沢山見かけます。そういう人に限って、たいした作品じゃないということも多いです。

もう、デジタルの時代に入ってしまった、デジタルが存在しなかった時代に戻ることは出来ないのです。

それであれば、もっと前向きに、デジタル時代を利用するべきだと私は考えています。

\*\*\* ISBNコードの付加 \*\*\*

ISBNコードの登録（インターネットでできる）をして、図書館の指示にあるように、国会図書館にも、本を納品しました。

ISBNコードの付加も、自分なりに、満足でした。Webページには、このコードをつけることができせん。

私のホームページは、ファイル数で1万データ以上あります。（画像がメチャクチャ多いのです）

サイズにして、百六十メガバイト程度あると思います。

こんなに、沢山の情報を発信していても、Webページである以上、本としては、認められないのです。本というのは、あくまでも、本の条件を満たしていなければなりません。

ISBNコードを登録したあと、私は、ブックステイ、Web上の本のデータベースにも登録を申請しました。これは、初回の登録料が六万円とちとお高かったです。私の本は、パソコンでしか読めないのですから、パソコンで本を探している人に、見つけてもらえない限り、売れることも無いのです。

この、ブックスのデータベースは、ISBNコードとリンクしており、検索結果として表示された、私の本のタイトルから、自分のホームページにジャンプさせることができ、自分の本の立ち読み版を見て頂いたり、詳細説明が可能になるのです。

初回しか費用がかからないし、本は、何冊も出す予定なので、まあ、『ちと登録してみるか』程度の感じっす。その割には、高かったかなあ。

それでも、『自前出版』する以上、どうやって本を売るのかも、自分で考えなければなりませんからね。

電子本を作ったり、販売したりの、私の試行錯誤は、まだ続いています。

第二章

ワードでの原稿作り





\*\*\* 原稿を作る前に \*\*\*

それでは、いよいよ、ワードで原稿を入力する際の、具体的な説明に入ります。

本作りの、もっとも基本的なことは、本になる原稿を作ることです。

あれですよ。本を作ろうと思っているんですから、ある程度、頭の中や、パソコンや、ノートなんか、ストーリーとか、本にする内容なんかはまっまっているですよ。

文章は、もちろん、マイクロソフト社の『ワード』に入力してゆきます。考え方としては、ワード文書を作るように作ってあげればいいのですが、作る前にひとつだけ、準備をしてください。

私がオススメする、一番初めにする準備は、パソコンで読むのに最適化した『基本のフォーマット』を文章を入力する前に作ってしまうということです。そこに原稿を入力（もしくは、既にある原稿を流し込む）という流れが、最も効率が良いと感じました。

最終的には、ワードの文書をアクロバットでPDFという本に変換しますが、電子本にする場合には、

パソコンで見えることを前提にしています。ワードで原稿を作る段階から、パソコン画面で、最適に読める形で制作を進めてゆくのがコツなんです。

\*\*\* 何故PDFに交換するのか？ \*\*\*

アタシも、本が完成するまでは、どうしてPDFとして本を出版するのは解りませんでした。でも、今は、解ります。本は、ワード文書では、いけないのです。

ダメな理由は二つあります。

- ワードでは、データの改ざんが容易である
  - ワード文書は、マッキントッシュの人及び、ワードを持っていない人は読めない
- という二点です。

本というのは、著作物なのです。第三者が、カンタンに変更できる方法で配布するというのは問題です。名前も解らない、不特定多数の方がアクセスするので、自分の著作物が、カンタンに改ざんできない方法で配布するべきなのです。

ワードでも、『読み取り専用』でファイルすれば、多少、改ざんに対する措置をとったかなといえなくもありません。

それでも、それを『別名で保存』しなせば、カンタンにデータを変更できてしまうのです。

もちろん、PDFファイルでも、データですから、同様の問題は起る可能性があります。ワードよりは改ざんを出来にくく作成する工夫が可能です。

私がこの本で紹介している文書の変換方法は、ワード文書上の文字を画像化してPDFに変換しています。ですから、PDFになった時点で、もう、文字ではないのです。(説明は間違っているかもしれないですが、感覚的に、そんな感じだと受け取ってみてください。)

文字を画像化する変換方法を採用した理由は、自分の好きなフォントで本を作りたいからという理由ですが、結果的には、本そのものを改ざんできにくくすることにつながりました。

- ワード文書は、マッキントッシュの人及び、ワードソフトを持っていない人は読めない

こちらの問題も重要です。本になるからには、多くの人に読んでもらいたい。作者側では、多くの人に読んで頂ける方式で出版する努力も必要となるのです。

ワード文書は、ウィンドウズと、ワードを持っていないと開けません。PDFファイルに変換すれば、マッキントッシュでも見るじやができののです。

PDFファイルは、現在、企業間のデータのやりとりにも、多く使われていると聞きました。

理由は、OSに関係なく、文書が読めるからなのです。会社で利用している文書は、あくまでも、業務用の書類をPDFに変換した、味気ないものですが、本というのは、もっと、読むことに焦点を当て、改ざんできないように設計することが求められるのです。

\*\*\* 基本のフォーマットを作ろう \*\*\*

パソコンで読むのに、最適な形で本を作るために、電子本の『基本のフォーマットを作る』作業Ⅱワードの『ページの設定』を変更する作業を行います。う。

この【基本のフォーマットの設定】が出来てしまえば、電子本は、五〇%完成したのと同じです。ところが、電子本作りの段取りの一番キーとなる部分です。

このページの設定を最初にしないで、ボチボチと原稿を作ってしまうと、本作りは、本当に時間がかかってしまうのです。また、次々とコピーして追加していった多数のファイルの書式を、後で一個一個、全部訂正しなければならぬとか、不必要な作業に時間を取られてしまいます。

私は、一番初めの本【バリ島★ぶうげんびりあ】を作った時に、何も考えずに、原稿を八十枚・八十ファイルを先に作ってしまいました。

最後に、本全体のフォントや余白なんかを変更しようと思ったのですが、八十のファイルを一個一個、手で変更しなければならず、本当に無駄な作業だったと感じています。

逆に、段取りが解っていれば、基本のフォーマットというのを別名でほとんど増殖させてゆくだけで、本の順番に並びながら、原稿作りを進めてゆくことができます。

一番はじめにすることは、原稿入力の前に、『本の基本フォーマット』を決めて、ワード文書として保存することになります。

### ●基本のフォーマットの作り方

- フォントを選び文字の大きさを決める
- 縦書きか横書きかを決める。
- 余白を決めてしまう
- ヘッダー・フッター・ページ番号
- 見出しを設定する

だいたい、こんな項目を決めて、スタイル設定してしまうと、本の基本のフォーマットができあがります。

これができたら、一気に文字を打ち込んでゆきます。この項目を見ただけでは、自力で設定が出来ない方もいらっしゃると思うので、細かい部分の説明も、以下に続けます。ワードは得意で、もう必要が無いという方は、ワードの扱い方については、読まないでもオーケーです。

● フォントを選び文字の大きさを決める

文章になったときに、パソコンでも読みやすいフォントを選びましょう。

特殊なフォントでも、読みやすければ本の個性になります。逆に、読みにくいフォントは、絶対に避けましょう。

普通の、明朝とか、ゴシックで作っても構いません。市販のTTF (TrueType) フォントを買い足して、本に個性を出すこともできます。

私が電子本を作ったときに使ったフォントは『DFP平成明朝体W9』とTTF-TTF (TrueType) フォントです。フォントのインストール方法は、フォントのソフトをかうと説明がついてきますから、それを参考にしてください。

ワードやパソコンについてくるフォントでも、全く問題はありません。

アクロバットで本に変換すると、読みたい人が文字のサイズなども自由に変更できますが、はじめからある程度大きい文字でつくると、本がぐっと読みやすくなりますし、原稿のインプットも疲れません。ページ数も稼げるしなあ……。





の大きさは14ポイント以上にします。(ネット配布の本は16ポイントで作成しました) 図は次ページを参考にご覧ください。

フォントと文字の大きさを決める

【ファイル】→【ページ設定】を押し

【文字数と行数】というタグを押し【フォントの設定】というボタンを押します。

どのフォントにするのかを選び、フォント

・縦書きか横書きかを決める。



小説であれば縦書きにしますが、論文などは、通常横書きが多いです。パソコンで閲覧することをお勧めします。横書きの場合には、二段にするといいかもありません。

これは、ワード

の【ファイル】→【ページ設定】

という所で設定できます。(図は前ページと同じ)

【文字数と行数】というタグを押して

\*右下にある文字方向を縦書きに設定します。

\* 文字方向を縦書きにすると、自動的に横組み(横長)に変更になります。

\* 横書きで二段にする場合には、左下の段数を2にし、このままでは、縦組み横書き二段になってしまいますので、【用紙サイズ】のタグを押し【印刷方向】を【横】に設定します。

## ●余白を画面に最適化する

本の余白は、パソコンで見たときに文章が中心にくるように、左右対称に作ります。

たとえば、上下四センチ、左右三・五センチという風に、余白は多めに取る方がいいと思います。(私の電子本は、この余白で作られています)

余白が少ないと、本が画面からはみ出てしまい、読みにくいですし、原稿を入力するときにも、文字が画面からはみ出て、



イライラします。

画面の中に、ページの文字全体が入るようにレイアウトするのが最適です。

余白の設定の仕方は、

【ファイル】→【ページ設定】

【余白】というタブを押して、左側の上下を4センチに、左右を3.5センチに修正します。

## ●ヘッダーとフッター・ページ番号

ページ番号は、アクロバットでも自動的につけられるのですが、たとえば、表紙、目次、はじめなどには、ページ番号をつけたくないとか、章ごとに、章名を変更したいという、細かい調整が難しいです。

ワードのフッターを利用して、章の管理や、ページ番号をワード文書上でつけてしまうのが、もっとも効率がいいのです。

私の本は、ページ番号は、文章と同じフォントを利用し、色をブルーでつけることにしています。文字の大きさは、少し小さくして十二ポイントで設定しています。

ページ番号は、あくまでもおまけみたいなもので、本を読むのに邪魔にならないようにするためです。

ページに章名を入れる場合には、フッター左側に章を書き込み、フッターごとアクロバットに変換してしまいます。


章を作る場合には、章ごとに、ワードのファイル名を変更し、書き進むごとに、ファイルを追加してゆくのがポイントです。

【基本のページ】を作ったら【ファイル】↓【別名で保存】として、000、010などのように、章の小さい順にファイル名を追加するようにするとフォルダ内に小さい順にファイルが並んで、本にまとめるときに効率がいいです。



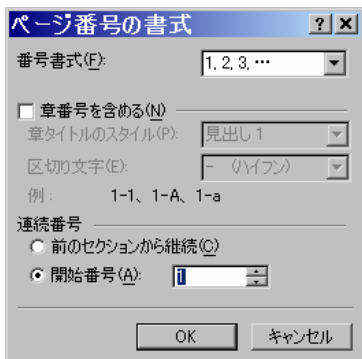
ヘッダーとフッター、章名は、【表示】↓【ヘッダーとフッター】で指定します。

このようなツールバーが出てきますので、カーソルを下の方にあるフッターに合わせて、章名などを入力します。

また、タブキーやスペースキーで、余白を入れて、一番右のアイコンを  押します。ページが挿入されます。

ページ数を変更したときには、シャープに手がついているアイコン（左から三番目）を押して、一番下にある、【開始番号】に番号をいれて、ページ数を変更します。

このマークを押すと下の画面が表示されます。

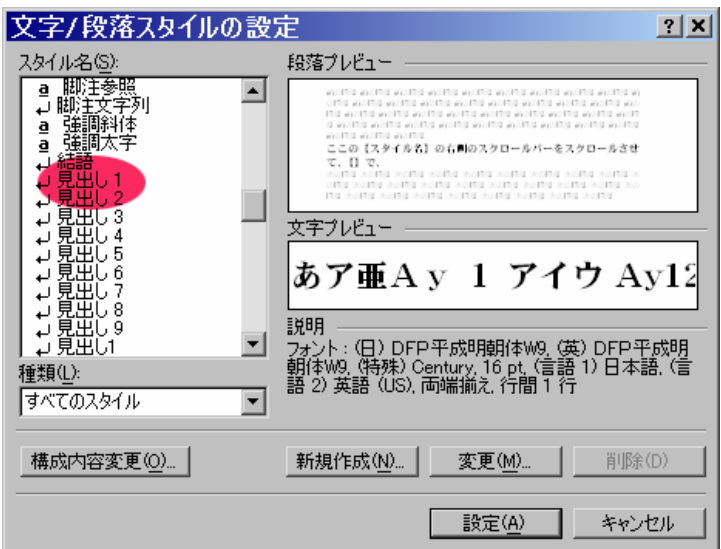


●見出しのスタイルを設定する

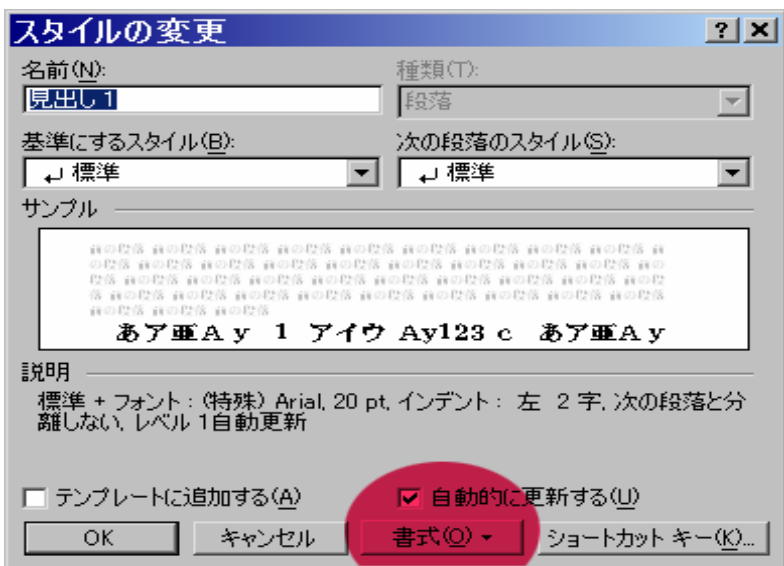
見出しの設定をして、  
【基本のフォーマット】は完成です。  
見出しは、  
【書式】↓【スタイル】  
で設定します。

左側に、【スタイル名】  
という枠が出てきて、  
スタイルをそれぞれ  
指定できるようにな  
っています。

この【スタイル名】  
の右側のスクロールバーをスクロールさせて、【見出し1】を選び、【変更】ボタンを押します。



次に、このようなダイアログボックスが表示されます



ので、【書式】ボタンを押し、【フォント】で文字の種類とサイズ（文章よりも大きくする。16-20ポイント程度）を変更します。

これで、基本のフォーマットとなるファイルの作成は完成です。

ここで、ワードを保存します。名前を、【OO基本.doc】などとしておくといいです。何故ファイル名に、『OOO』ゼロで名前をつけるかというと、ファイルは、数字、ローマ字、漢字の順に整理するので、この基本のファイルは、本のデータの中で、必ず一番上にきてくれるからです。

ネットで配信しているときには、この本を買ってくださった方には、おまけで、私が、この本を作るときに使った【基本のフォーマット】(一ページ)を付録としてダウンロードできるようになっています。付録のページにアクセスして、読者様の方でダウンロードし、パソコンに格納してください。

うーん。痒い所に手が届く親切。

付録の【基本のフォーマット】は、ワードファイル(doc)形式で作られていますので、ワードで直接開くことが可能です。読み取り専用で保存していますので、ファイルを開いたら、【ファイル】→【別名で保存】をして、お好きな名前をつけて保存してください。あとは、それを使って、文章を入力してみます。何ページか作ったら、アクロバットで、PDFに変換して、本になる感じをチェックしてみてもいいと思います。

・・・ 注意事項 ・・・

『電子本、自前出版してみませんか?』は、出版されたときには、電子本で、当時は、『DFP平成朝体W9』というフォントで作られていました。改訂版は、HG丸ゴシックM-PROというフォントを利用



し、1のポイントで作成しています。紙の本になったときに、別の書体に変更しています。

本をお読みの方が付録を利用して本を作るとき、『DFP平成明朝体W9』というフォントをお持ちとは限らないので(というか、自分で買わないと、持っているはずなので)通常ウインドウズに無料で入っている明朝のフォントに置き換えて付録は作ってあります。

それなんで、とりあえず、付録を開いて、文章を何かインプットしてみるといいことですよね。

はあ。基本フォーマットの設定の仕方を読んで損しただげ。

そんなこんなで、付録も参考にしていただけるといいと思います。最終的には、貴方の本なんですから、どういうスタイルにするのかとか、どういうフォントにするのか、余白をどうするのかは、自分で考えてくださいね。

あと、ワードの詳しい使い方はワードのマニュアルとか、ハウトゥ本などを買い、そういうので、自分でも勉強して、工夫してみてください。

ワードは、他社の本を作るソフトと比較して、圧倒的に操作が簡単なんです。

出版社さんが作る本のように、オンラインポイントレベルの行間などの超細かい部分は、厳密にコントロールできませんが、全体的に見栄えがよければ、初心者には、細かい所まで気にするべきではありません。

細かい部分で悩む前に、もっと、本の内容を充実させるべきなのです。

有料で配布するといったって、相場五百円が相場の自前出版本なのです。十冊売れても、五千円しか収入につながらないので、ソフトに必要以上にお金をかけたり、本を作るのに、出版社と同じレベルで時間をかけたりするべきではありません。

まず、自分の作品を手っ取り早く本の形にまとめあげること、集中するべきだと、私は考えています。

\*\*\* 本を格納するフォルダを作る \*\*\*

アタシの経験では、パソコンを結構使っているのに、フォルダが作れない方というのがいるんです。

ですから、知らない方の為に、一応、フォルダの作り方を書いておきます。

どうしてフォルダを作るのかといえば、本のデータが、パソコンの中で迷子にならないようにするためです。

本は、何章にも渡る大作になる可能性があります。作家さんによっては、写真や資料のイメージなんかの画像も大量に、本に挿入する予定の方もいらっしゃると思います。(PDF形式の本は、画像が扱えるというのが特徴なのです。)

画像や、ワードの文書は、作者さんの方で、保管場所を指定しないと、バラバラな場所に格納されてしまうことがあります。

本のデータは、必ず一箇所に集約するように決めておけば、後でパソコンの中を何時間も探さなくて済みますからね。

・・・ここに格納するのか・・・

コンピュータのデスクトップ上に、マイドキュメントというフォルダがあります。本のデータは、必ず、ここに格納することになります。

【マイドキュメント】フォルダの中には、更に、【My eBooks】というフォルダがあります。

電子本のデータは、この中に格納しましょう。

まず、デスクトップ（もしくは、他の場所）から、【マイドキュメント】のフォルダを開きます。

次に、【My eBooks】というフォルダを開きます。開いた場所に、自分の本のフォルダを作ります。

フォルダは、フォルダを作りたい位置にカーソルを置いて右ボタンを押します。

【新規作成】▼【フォルダ】を選択すると、そこに【新しいフォルダ】という名前で、新しいフォルダが出来ます。

今度は、フォルダの名前を変更します。

フォルダ名の上にカーソルを置き、右ボタン→【名前の変更】を押すと、名前を変更できますので、ご自分の本のタイトル『電子本自前出版』などと入れて、【改行キー】を押します。

これで、本を格納するフォルダー作りは、終了です。  
画像を大量に扱う予定の方は、本のフォルダーの中に、  
画像のフォルダーも作成しておき、画像は、必ず、こ  
こに保存するようにします。

\*\*\* 本の設計とファイル名の工夫 \*\*\*

本というのは、本当にありきたりの順番で作られています。

それは、【表紙】→【はじめに】→【目次】→【本文】→【あとがき】→【出版社の他の本の広告など】→【出版者情報（奥付）】→【裏表紙】  
という順番です。

ほとんどの本が、この順番で設計されています。

まあ、これ以外に、【友人の感想】とか、【関係のある方との談話】とか、【挿絵】とか、【お世話になった方への感謝の言葉】、【本作成のエピソード】、【参考文献】などが、本文の後ろの方に、差し込まれている場合がありますけどね、ま、思い浮かぶのはそんな所です。

ですから、本を作るのでしたら、貴方も、この程度の、自分の本の基本となる設計図は、メモなどに書いて、パソコンの横にでも貼っておいてください。

その設計図に基づいて、ファイル名をつけてゆくと、編集のときに、効率がいいからです。

文章を保存する時の、ファイル名をつけるときにも、段取りがあります。

ウィンドウズのファイルの特性として、ファイル名は、フォルダ内で、自動的に、順番に並びます。

どういう順番で並ぶのかといえば、

数字 ↓ ローマ字 ↓ 和文字
-----------------

という順番です。

大量に増殖してゆく本文のファイルを、その場しぎ（日本語だけ）で保存してゆくと、ファイルはアイウエオ順に並んでしまい、後で、本の順番に並べ直す作業は、思いのほか大変です。（アタシは、ここでも失敗しました。）

ですから、予め、本の設計図の順番に、ファイルが並んでくれるように、ファイル名のルールも、本を作る前に、ある程度決めておくのです。

本のファイルは、文章を作成しながら、章ごとに保存してゆくのがベストですが、途中で、内容が膨らんで、章そのものがどんどん増えてたりする可能性もあります。そういう場合でも、他のファイル名を変更せず、途中にファイルを差し込んだりできるように、ファイル名は、予め、それに対応できるように設計しておくのがオススメです。

また、最終的に本の形にするには、【表紙】とか、【はじめに】とか、【もくじ】、【あとがき】などを追加することは、本を作成する前から、予め解っているのです。

ですから、そういうファイル達が、本のファイルとゴチャゴチャに混じらずに、本の順番に並んでくれるように、事前に、ファイル構成を設計しておくというワケです。



私の場合、とりあえず、こんな風にファイル名を工夫しています。

000 表紙

010 はじめに

020 もくじ

100 出会い

200 別れ

300 再会

900 あとがき

910 出版社情報

999 裏表紙

数字をファイルの頭につけるだけで、ファイルはフォルダの中に、数字順に並んでくれます。PDFに変換したときに、ファイルが、本の順番と同じに並んでいると、非常に効率がいいのです。

また、本文のファイルの数字は100からとし、文の内容も日本語で補足しておく、自分が、章の内容について、思い出しやすくなり、編集するときに便利です。

この方法であれば、途中で章を追加したいときは、

150 新しい恋人

250 愛人

などというように、間に、章を追加して、文の内容をふくらましたときにも、自動的に、ファイルが順番に並んでくれるので、とても便利なのです。

章を1ページの扉にして、連続したページ数を入れたいときは、

099 出会う扉

199 別れ扉

などのように、扉だけ別ファイルで作り、保存します。(ページのセクシジョンなどという、高度な操作もあるみたいで、私も何度かチャレンジしたんですけど、どうも上手くゆきませんので、今のところ、この方法で作っています。初心者には、この方法オススメです。)

対象となる章と、バラバラにならない場所に、章の扉を作ることをお勧めします。

\*\*\* 本はどいつから書き始めるのか \*\*\*

そんなこと、アタタの本なんですから、好きなように、書けばいいと思いますけどね。

効率の面から考えると、まず、一番はじめに、【本文】を完成させるのが、ベストだと思います。

設計図では、100番以降900番の前までの部分です。

表紙や、はじめにや、目次は、文章が終了してから作成するほうがいいのです。

理由ですか？

本文の内容が完成してからでないと、その他の部分は、内容が変更になる場合が多いからです。

私は、表紙の画像なども自分で作れますから、いつも表紙から作る場合が多いです。

『これから、気合入れて、本作るでーえっ。』みたいな自分へのカツです。

表紙、タイトル、著者名なんかを入れたりして、表紙の画像をまず、完成させます。

でも、表紙の画像や本のタイトルも、本文が完成したあとで、変更になることが多いです。

理由は、執筆中にも、こっちのタイトルの方が、いいんじゃないかとか考えが定まらず、サブタイトルも入れたりするからです。表紙のデザインごと変わってしまうのです。

本を作っている間に、自分の気持ちが変わってくるんですよね。あとは、電子本の事が解ってきたり、どうやって売ろうか考えたりもするんです。

そうすると、こっちの方が、本を探している人に引っかけやすいかな・・・などと、新しいアイデアが浮かび、タイトルの中に、検索キーワードを散りばめたりして、タイトルが、また変更になってしまうのです。

ですから、まず、【仮・・・タイトル 僕の恋】とし、とりあえずワードなんかで表紙も作ってみます。それで、文章を作っている最中に、どんどんと変更したり、サブタイトルを考えたりして、表紙の文字も修正しておきます。

本文が完成する前には、タイトルなどは、フレキシブルに、変更可能なようにするのがオススメです。

というところで、特に、自分ではどこから書くのか決められない場合には最初に、本文を完成するようにします。それが、アタシのオススメする段取りです。

\*\*\* 文章を打ち込んでゆく \*\*\*

いよいよ、文章を打ち込んでゆきます。

自分で好きなスタイルを指定した「基本のフォーマット」を開いて、ワード文書を作成するのと全く同じように、本文の文章をどんどん打ち込んでゆきます。

間違っても、順序を逆にはいけません。

最初にワード文書を作って、後で基本フォーマットを作るのでは、ダメなんです。

なんか、簡単そうですね。

ワードで文章を入力すると、文章の訂正が楽でいいです。文書作成ソフトだからなあ。

画像も、ワードの文書に挿入するのと同じように、文章に貼り付けることができます。

【挿入】↓【図】↓【ファイルから】

というのを選択して、貼り付ける画像を選び、文章の貼り付けたい場所に挿入します。

画像を貼り付けるときには、詳しいことは、ワードのマニュアルとか読んだり、ワードの扱いに詳しいお友達に聞くのが一番ですね。本屋でその筋の本を、立ち読みという方法もあります。

電子本をまだ作っていない方には、ピンとこないかもしれませんけど、もし、どうしても事前にも自分で作った文書が、どのように本に変換されるのかわからない場合には、会社やお友達などでアクロバットのソフトをお持ちの方に、4ー5ページのデータを、一度、アクロバット（PDFファイル）に変換してみるといいと思います。本になった感じがつかめますから。

\*\*\* 画像データ取り扱いの注意 \*\*\*

画像データそのもののパソコンへの取り込みとか、作り方、加工方法は、ワードとは、また別な話です。必要な方は、自分で勉強してみてください。

ワードで作る電子本に、画像ファイルを取り扱いたい場合の注意は、一点だけです。

それは、画像を高解像度で作れば作るほど、画像はキレイに表示できて、印刷したときの品質も向上するということなのです。

私は、プリンタで印刷できる画集を作る時には、一つの画像の解像度は、300ピクセル程度で作成しています。

これは、何を意味するかというと、本のサイズがメチャクチャ大きくなることを意味しています。

原稿の段階で、ファイルサイズが大きくても、PDFファイルに変換するときに、画像の品質を、もっと落として、最終的な本のサイズを、調整することが可能です。

ただ、原稿の段階では、表示に多少時間がかかったりするかもしれませんが、ワードの段階で利用する画像は、ある程度高解像度(300dpi前後)で作成しておくことをオススメします。



\*\*\* 章をつけたい場合 \*\*\*

多くの方は、本に、章をつけたいと思います。その場合、何も入っていない【基本のフォーマット】を呼び出し、各章ごとにファイル名を変更し、保存しながら作成を進めてゆくののがベストです。

理由は、フッターの部分の、章名を、章ごとに変えて、本を作ることが可能だからです。(この本もそうなっています。)

フッターに章名なんて、電子本に無くてもいいような気もしますが、あると、より、本らしく、手をかけたなという感じになりますから。まあ、テクニクってことで、覚えておいてください。

特別付録を開いてみると解るのですが、この本にも、ブルーの文字で、左下に、章名がはいつて、右側に、ページ番号が入っています。

これだけで、本らしいっす。

お高いソフトでは、この辺りの設定が信じられないくらい面倒でした。しかも、ちゃんと表示できなかったりしてかなり苦労しましたけど、結局作れなかったのです。

ワードを利用した場合、章名の入力作業は、フッターを使えるので、メチャクチャ簡単でした。

これだけで、私は、ワードで本を作ることに決めたのです。結果が同じ（PDFファイル形式で本にまとまっている）なら、操作が簡単で、短い時間で作れる方が価値があるのです。

ページ番号については、本文の文章入力を終え、校正などを終了したあとに、各ファイルのページ番号を正しい番号に変更します。ですから、この段階では、ページ番号は、ダミーの数字をとりあえず入力していきます。

ダミーのページ番号は、ページ番号の位置が、章ごとにはズレないようにするために、必ず入れておくことをオススメします。本になったときに、章が変わるとにページ番号の位置がズレると、読み進んでいく時に、気になるからです。これも段取りなんで、よく理解できない方は、理解していなくても構わないんで、アタシの言う通りに作りましょう。

章名をフッターに入れる時には、章名ごとに、ファイル名を変更するようにします。

この本の章名を見て、どう思いますか？フッターの部分に、章名をいれることで、より、紙の本のように見えてきます。一手間かけて、紙の本らしくする工夫も、自前出版の楽しみの一つかなと思います。（画集などは、当然に、もっと手をかけています。）

フッターは、【表示】↓【ヘッダーとフッター】  
を押しても編集できませんし、【特別付録ファイル】を  
開いて、青い文字の部分をダブルクリックしても開く  
事が可能です。

フッターは、ファイル名を変更しなくても、セクシ  
ョンを区切れば、一つのファイル内で複数扱えるらし  
いのですが、私には、今の段階では操作がうまくでき  
ませんでしたので、必要な方はご自分で研究してみ  
てください。

\*\*\* 見出しの設定をする \*\*\*

本を出版する位の方ですから、イロイロな本をお読みだと思えます。

だいたいの本は、何章かに分かれていて、それぞれに見出しがついています。

見出しは、本文よりも、多少、文字が大きかったり、行間が開いていたりしますよね。

貴方の電子本にも、見出しがあると思います。これを迅速に、美しく設定するには、見出しの機能を使うといいと思います。(注)この本の見出しは、本文と同じサイズで作っており、見出しの設定はしていません。

基本のフォーマットを設定したとき、既に、この見出しは、本文よりも、少し大きめに設定を終了してあります。

ですから、ここでの作業は、この章名部分を【見出し1】の書式に変更するということになります。

まず、見出しとなる文字を反転させます。そして、

画像左上にある、標準▼というボタンの▼を押し、





このような画面が出てきますので、右側のスクロールバーを移動して、【見出し 1】の文字が出てきたら、そこを押します。

そうすると、反転した文字が、見出しに設定した文字のサイズやフォントに置き換わります。

細かいことは、やりたくないという方は、別に、ここで見出しを設定しなくても（本文と同じ大きさにすれば）オーケーですが、少し、見出しにも凝りたいという方は、このような方法で設定してみてください。

本作りのコツとして、フォントをいくつも混ぜないというのは、オススメしておきます。一つか、多くても2つ位のフォントで本を完成させるように心がけましょう。理由は、文字に懲りすぎると、返って読み辛くなるからです。

\*\*\* 表紙を準備する \*\*\*

文章の入力と、校正が終了し、本がほとんど出来上がった時点で、本の最終的なタイトルや表紙について考えましょう。どうして、本の表紙をこの段階で作成するのか解りますか？

ワードで本を作ろうと思ったって、大体二十ページも文章を作れば疲れちゃうんです。

自分の才能の無さを改めて発見する人も多いことでしょう。

ま、フツーっすね。

バリバリと、もう、百ページも書いてしまったとかいう奇才な貴方。前から、沢山書いていた作品があるという貴方。

本になるんですから、せめて、百ページ位は無いとねえ。買ってくださった方が、がっかりしますよね。文字も大きいんですからね。電子本は、少ないページ数でも、本が発行できるといふメリットもあることはあるんですけどね。ですから、何ページだって、構わないんですよ。

でもね、例えば、この本のように、【自前出版したい】という人には、価値がある本とか、そういう、実用的な本であれば、ページが少なくても構わないと思います。

それでも、十ページとか、二十ページなんていうのはねえ。しかも、こんなに字が大きくてですよ。

ある程度のページが、まとまるまでに、アタシも二年もかかってしまいました。

正確には、二年前に書き始めたのはまだ未完のままです。タイトルは何度も変わっています。

古いのは、作るのに飽きてしまい、新しい作品に着手し、毎日絵やエッセイをボチボチ書いて、それでも「ぶうげんびりあ」は6ヶ月かかりました。

次の「素描」は、二ヶ月で完成でした。（本の基本フォーマットが既に固まっていたのと、段取りが解ってきたこと、文字数が少なかったことなど、要因はイロイロあります。）

フツーっすね。

ですからね、表紙の画像の準備なんて、本文が完成した、その後でいいんっす。結局本が出来上がらない人多数に決まっています。

表紙の絵なんて、金かけて、誰かに頼んだりしない方がいっすよ。ま、自分で画像が作れないとしても、一枚位なら、お友達が協力してくれるでしょう。

デジカメ持っている友人に、折り紙の作品とか、絵手紙が上手い人の作品とか、奥さんが育てた花の写真とか、そんなのお借りして撮影して使うことにしましょう。

趣味で絵を描いている方に頼むとかね。

自前出版は、手作りというのが基本なんです。『本を作る』と大騒ぎして、お友達にも本を作っていることを知ってもらいたいチャンスっす。

自分の作品が表紙になるというのは、趣味をやっている方にも、気分がいい話ですから、きっと、気持ちよく協力して下さることでしょう。

表紙画像に身近な物を使う場合のポイントは、なるべく明るい場所で撮影することです。

それから、写真の加工などをしなくても、そのまま使える写真を（被写体をなるべく大きくして、余計なものを入れずに）撮影するというのがコツになります。

理由ですか？



ワードを使っているくらいですから、むしろ、たいしてパソコンなんてできない方なんてでしょうからねえ。

ムリして、実力以上の事をしようと思っただけじゃありません。

画像のレタッチというのは、マスターするまでは、思いのほか時間がかかるんです。

デジカメで撮影した写真を加工して、トリミングして、色も替えて文字も入れて・・・なんて、難しいこと考えちゃいけません。

被写体を極力大きめに撮影して、そのまま使うのが最短です。撮影は、お天気のいい日に、外で撮影すると、かなり明るく撮影できます。

パソコンに取り込んだときに、画像が明るくないと、本になったときに、美しく見えないんです。

ですから、表紙画像の撮影は、

- 外で、
- 日の照っている時間で
- 影が入らないように
- なるべく被写体を大きく
- 余分なものは、画面に入れないように

撮影するのがポイントになります。

パソコンのソフトウェアに取込む方法が解らない？

表紙一枚位なら、誰かにやってももらったぐらいですかね？それが一番確実に早いっす。

タイトルはどうすればいいかっすか？

ワードには、ワードアートというのがあるとです。これで作ってみましょう。

ま、画像は無しにして、ワードアートだけでも構わないんですけどね、あまりにも、ワードで作りましたみたいになるからなあ……。

まあいいか。他に手伝ってくれるお友達もいないし、自分では写真の撮影とか、パソコンへの取り込みが出来ないという方は、仕方ありませんからね。

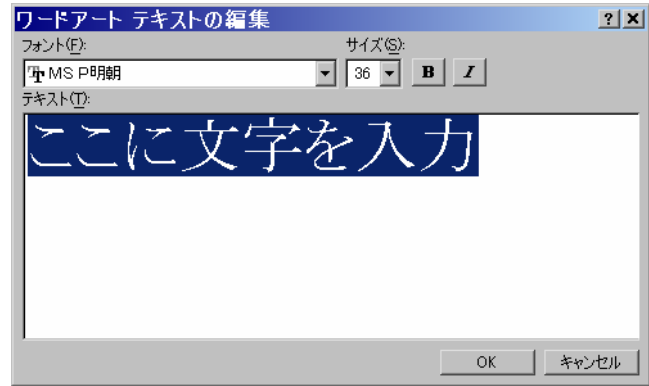
まず、文章が入っていない、【基本のフォーマット】を取り出します。そこに、ワードアートで、タイトルや、著者名を打ち込んでゆきましょう。



・・・ 表紙タイトルをワードアートで作る ・・・

【挿入】→【図】→  
【ワードアート】を選  
択します。

そうするとね、イロ  
イロなデザインを選  
ぶ画面がでてきます  
んで、この中から、好  
みの文字を選んで【O  
K】を押してください。



そうすると、  
上のような画像がでてきますの  
で、ご自分の本のタイトルを入  
れます。  
私の自前出版と入れてみます。

電子本  
自前出版しませんか？  
電子本  
自前出版しませんか？

タイトルは、こんな感じでいいと思います。  
そして、サブタイトルとか、著者名なども、ワードア  
ートを新しく作成して、作ってみましょう。

サイズや、フォントも、自由に変更できます。次の  
ページに、ワードアートで作成した表紙の例を作っ  
ておきました。ご参考にしてください。

もし、自分にはセンスが無いと感じ、途方に暮れてい  
る方がいたら、ワープロが得意な部下とか、絵が得意  
な姪、甥、などに打診して、代わりに作ってもらいま  
しょう。

# 電子 自前出版してみませんか？

パソコン (ワードとアクロバット) で作るカンタン・簡単 e-book

著者 おしやら りか

インターネットで募集してもいいかもしれませんが、運がよければ、タダで作ってくれるという人も見つかるかもしれません。

どうですか？ワードアートだけで作った表紙っす。  
え？ダサイ？

自分でもっとカッコよく作れないんだし、代わりに作ってくれる人もいないのなら、これでガマンするか仕方ないじゃないっすか。

自前出版の基本は、自分で作るか、作れるようになる、もしくは身近な人に頼んで作ってもらう。金は極力かけない。

これっすね。人生、最初で最後の本になるかもしれないからね、もう少しいいものをつけたいという場合には、まあ、表紙だけ、パソコンの得意な方に頼むとか、デザイナーなどと呼ばれる方に頼んで作ってもらいましょう。

この本の表紙、カッコいいでしょう。うふふふ。  
ここまで自前で作れる人は、あまり多くないっすね。

(自體)

そういうえば、アタシの後輩で、文章を書いていることがいたんですけどね、自分の本を出版社に持ち込んだときに、こんな風と言われたんだそうです。

- まず、ページ数が足りない
- 表紙の画像などを作ってくれる人がいない

ま、社交辞令風に断られたってことっすけどね。

一応、本を出版社に出してもらったって、自費出版するにしたって、表紙のことは、自分でも考えておかなければならないと思います。

どちらにしても、表紙の画像も新規に、基本のフォーマットを別名保存して、ワード文書を作り、そこに貼り付けて完成させるというのが、ポイントっす。

アタシも、画像ソフトだけで最初に画像を作って、PDFに変換したりしたんですけどね、どうしても、表紙と、本のサイズが微妙に違ってしまい、ページをめくったときに、ガタガタして気になるんです。ですから、画像ソフトでは画像だけを作り、最終的には、ワードに貼り付けられる形(JPEGやBMPファイル)に保存してから、ワードの【基本のフォーマット】に【ファイルの挿入】して表紙を作っています。

表紙は、文章や目次とは別のワードファイルにして、表紙一枚だけで作成し、最後に、アクロバットで本にまとめます。

どうしてそうするのかというと、ページ番号に、表紙の分をカウントしないためと、画像のファイルだけ、少し高解像度で作ると、パソコンでの表示がキレイだからです。

なんだかんだいって、表紙というのは、本の顔ですし、ネットで販売するといったって、とりあえず立ち読みしてもらうまでのマグネットとして、ある程度のインパクトはあった方がいいんじゃないっすかね。

電子本作りは、ここまで来たら、だいたい八五%は完成です。



\*\*\* 【はじめに】と【おわりに】を作る \*\*\*

表紙が完成したら、【はじめに】【おわりに】などの、本文とは別のページの作成に入ります。

理由は、文章が全部完成していないのに【はじめに】などを作ると、結局最後に、もう一回書き直しをしなければならぬからです。

何故書き直すのかというと、文章を作るに当たって、思いのほか苦勞があり、最初の思い入れとは、だいぶ変わってくるからです。

よく、出版社の方とかに、お礼が書いてあったりするでしょう。もう、何度も書き直しが入っているんですよ。ははは。大変なんっす。

【はじめに】は最初に作って、最後に書き直してもいいんですけどね、本作りの初心者で、どこから書いていいのかが解らない方は、段取りの際には、本文が全て完了したらその他の部分を作るといっつのをオススメしておきます。

本作りには、ルールは無いとは思いますが、基本となるスタイルというのは、あると思います。

イロイロな本を読んで、参考にするのがいいと思います。私も、読んでもいない文庫本を、何冊も見ても、【アタシの本の出版者情報は、これで行くこう】なんて、本の完成像をイメージしたものです。

\*\*\* 校正は3回しよう \*\*\*

本文や、その他の文章が完成したら、文字校正をしなければなりません。

自分で作るというのは、出版までに、誰の目も通らずに、本になってしまうのです。  
恐ろしいことですよね。

出版者さんが出版してくれる本であれば、担当の方が『ここ、文字違っています』などと教えてくれますけどね、自前出版では、誰も教えてくれません。

一番いいのは、『本を沢山読むお友達』に頼んで、読んでもらうことだと思いますけどね、たいして興味も無い本を読まされるのもたまらないと、お友達も思うことでしょう。第一、文字の間違いなんて、指摘してくれませんよ。皆さん、忙しいですからね。

金払って、出版者の方に校正してもらおうという方法もありますけどね。金をかけるのは、自前出版の意味がありません。

ですから、自分でやらなければなりません。

例えば、出版者の方が校正したとしても、誤字・脱字がある本というのが、存在しないわけではありません。  
ん。

そういうときは、どうしているのか、出版社の知人に聞いてみました。

『一旦印刷されてしまった本は、もう、直さない。次に刷り増すことがあれば、その時に訂正する。』のが普通なのだそうです。

文字の間違いというのは、その程度の扱いです。今までは、物理的に、そうするしかなかったともいえませんよ。

電子本であれば、誤字・脱字程度の間違えの訂正など、気づいた時に、すぐにできて、本を完全な形にしてゆくことができるのです。

もちろん、間違いは無いに越したことはありませんが、最終的に、本を出版したあとでも、訂正は可能だと考えてください。

あとは、自分の本に対する、プライドだと思います。私の本は、文字を打つのが早いことや、漢字が得意でないこともあり、誤字が大量にあるかもしれません。

自分なりには、校正はしているつもりですけど、なかなか気づかないことも多いのが現実です。

校正をオットに頼んでみたんですけどね。『あなたの本は、つまらなくて、読む価値が無いので、読みたいくありません』と、キッパリ拒否されました。

アタシも、たぶん、オットの書いた本は、読まないかもしれない。登場人物が三人以上になると、ストーリーが解らなくなっちゃうんです。

自分で出来る精一杯の事をしているのだし、自前出版なのですから、現状を受け入れて、進んでゆくしか道はありません。

ですから、本が一旦完成したと思ったら、校正は、最低3回は、自分でしましょう。

どなたかに校正していただくにしても、その前に自分で校正するのは、当然のマナーだと思います。

自力では誤字脱字や間違いが見つからなかったんだから、仕方ありません。

ちなみに、私は、この、『校正は二回しよう』という項は、第三回目の校正の時に書き加えました。

たはははは。でも、加えないよりは、マシですよね。この本、大丈夫なのか、マジ、心配っす。

でもね、忘れてはいけない言葉があります。

『折角作ったのですからね、出版をしないというのはいけません。必ず本にして、出版してくださいね。』

という出版社に勤務していた知人が、私に下さった言葉です。

私は、この言葉で、失いかけていた気力を取り戻して、本を完成することができました。

これを読んだ作家さんも、一人で作っているのは心細いし、作成に時間がかかると、気力が減ってきますからね。その時には、どうぞ、この言葉を思い出して、完成までコツコツと進めていってください。

\*\*\* 巻末の出版者情報(奥付け)を作る \*\*\*

この情報は、ISBNコードなんかも入れるページなんですけどね。まだ取得しろと書いていないので、持っていない方が多いかもしれません。ISBNコードを持っていない方は、ISBNコード以外の部分を、とりあえず、作ってみることにしましょう。

【出版者情報】とは、どんな内容なのかということ、出版者によって違うのです。(この場合、個人ということもあるので、『社』ではなく、『者』を使うのが普通のようです。)

必ず入っている情報は、

- 本のタイトル
- 著者名(もしくは編者)
- 発行日
- 第何版目か
- 出版者名もしくは印刷会社名もしくは、その両方
- 出版責任者名
- 出版者の所在
- 出版者の連絡先(電話番号とか、部署名)
- (あれば)ISBNコード
- 著作権に関する断り書き

どうも感じてくださいませ。

この情報を、本の最後に付加する目的は、本を買ってくださった方が、本の内容等に質問や感想があり、出版者（を通して著者）に連絡を取りたい場合に、連絡が取れるようにするための情報なのだと思います。

また、本を出版するということは、自分の作成した文章に関して、責任も生じます。よく、人権の問題や、個人のプライバシーがストーリーに織り込まれてしまい、裁判などになっているケースもありますから。本を発行するからには、誰が出版の責任者なのかを明確にする義務があると私は思っています。

問題が起こったときには、責任を持って、法律にのっとって、問題を解決してゆかなければならないこともあるでしょう。

覚悟はできていますか？

自分で出版する場合、自分の責任で、何もかもを負うことになるのです。

もう一方では、自前出版する場合、出版者情報として、どこまで、自分の情報を公開するのかわかることも関わってきます。

自前出版する場合には、出版をするのは、アナタなので、外注する出版者名や、印刷会社等も無いわけですから、自宅や事務所の住所を公開しなければなりません。

本名や住所を公開するかしないかは、個人の判断になるとは思いますが、最低でも、読者様が、コンタクトを取れるような情報（メールアドレスなど）や、責任者名は、本を発行した責任者として、付加するべきなんじゃないかと思えます。

この辺は、私も、よく解らないまま作っている部分もあるので、出版者のページ作成の規定等、ガイドラインがあれば、知りたいところです。

ISBNを付加する場合には出版者の情報を登録するので、このコードが付加されている本に関しては、読者が調べたい場合には、ISBNコードから、出版者の住所や電話番号、出版者の名前などを調べだすことが可能です。

発行者名の所は、大手出版者などでは、出版部門の部長さんや、管理職の方の名前を明記することが多いようです。自前出版の場合は、貴方の名前を入れることになると思います。

『出版者情報』のページ作りの具体例として、実物を確認したいという方もいると思うので、私の本で使っている『出版者情報のページ』をご紹介します。

次ページから3枚に渡って、【バリ島★ぶうげんびりあ】のCD-ROM版で利用した、



● 出版者情報

● 広告

● 裏表紙

が表示されます。

貴方の本作りのご参考にして下さい。

(電話番号を入れていないのは、私は、これを書いた当時、バリ島在住で、日本に電話がないからです。コンタクトを取れるよう、メールを入れています。パソコンで読む電子本ですから、読者様も、メールで通信できるはずですし、知らない人から電話がかかってくるのは怖いです。)

\*\*\* 出版社情報（奥付）のサンプル \*\*\*



おじゃら。 ほんこの本

バリ島★ぶっげんびりあ（CD-ROM版）

二〇〇二年 七月二十三日 発行

絵と文 おじゃら りか

発行者 おじゃら りか

発行所 あとろえおじゃら

〒110-0034

東京都足立区千住五-116-10

E-Mail:rica@ojara.net

<http://www.ojara.net>

ISBN4-901941-01-1

0826-¥1200E

CD-ROM パック Pt.Birubintang

(C) おじゃら S.R

お気づきの個所がいくつかあったら、ご面倒様でも、  
E-mail:rica@ojara.netでお知らせください。よろしくお願ひ  
致します。



おじゃら・ねっとの他の本

素描

絵と文 おじゃらりか

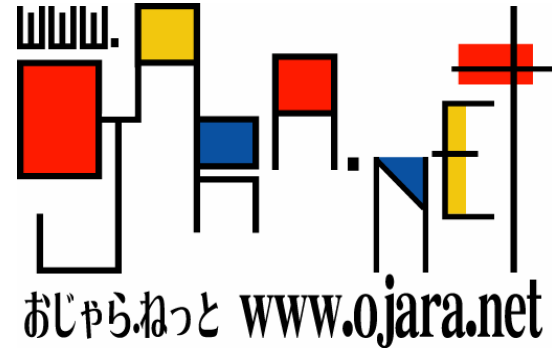
全八五ページ

価格 PDF版 五百円 CD-ROM

版 千円

コピー用紙に、ボールペンで描いた女たちの画集。  
オールモノクロ。全画像、お手持ちのプリンタで印刷  
して飾れます。





ISBN4-901941-01-1

C0826-¥1200E

前の3ページが、私の本の出版者情報+他の本の広告、裏表紙です。

電子本とはいえ、限りなく、紙の本と同じように作ってみました。

なんとなく、本らしいですよ。

電子本の場合、こんな裏表紙などでも、カラーで表示できるのが、嬉しいです。

工夫したのは、出版者のマークです。

私は、『おじゃら。ねっと』というWeb上のショップに、『おじゃら。ねっとの本』という出版者兼本屋さんを作り、電子本をそこで販売しています。

ですから、『おじゃら。ねっと』の『O』、『N』を利用して、出版者のマークも作ってみました。なかなかの出来だったと思っています。

小さいマークだとしても、画面に色が入るだけで、だいぶ印象がアップして、本らしくなります。

裏表紙にあるISBNコードの表示も、自分で作りました。図書コードセンターによると、なんだか、イロイロと細かい指示があり、表示は、必ずOCRフォントというのを利用しろなどと書いてあります。でも、そんなに売れるかどうか解らないのです。

裏表紙のISBNコードだけを、OCRフォントで印刷会社に印刷してもらうなんてばかっています。

また、今の所、インターネットでしか販売していないのです。OCRのフォントを、レジのスクリーンにかけるとは思えないです。

万一、スクリーンに掛けた場合でも、読み取りエラーが出れば、店員さんが手でインプットすることも可能なのです。

ですから、アタシは、ISBNコードをOCR表示するために金をかけるのはやめにして、自分で画像を作るという方法を選んだのです。

アタシは、偶然にも、OCRのフォントを持っていたんです。(フォントマニア!) 持っていない方は、OCR用のフォントを買ったり、やはり持っている方に頼んで作ってもらわなければならぬかもしれません。

自前出版では、本の制作にどこまで凝るかという問題は、常につきまといます。

自分で画像の加工が出来ない方には、ISBNコードの画像OCRフォントで作るのは、不可能です。

だからといって、ISBNコードをつけないという決断をしないけません。

とりあえず、フォント等のルールから多少逸脱していても、ワープロで打った文字だとしても、無いよりはマシなのです。

『予算の範囲、自分で出来る範囲で、できるだけのことをしてあげる。』

自前出版は、これで十分だと考えています。

\*\*\* ページ番号を訂正する \*\*\*

本文が全て完成したら、ページ番号を付加してゆきましよう。

これは、目次を作成する前に完了させます。普通は、目次にも、ページ番号も入れますからね。その前の段階で、本文のページ番号を確定させなければならぬのです。(私の最近の電子本は、PDFファイルにもページが付加されることもあり、ページをデータに入れない作品もいくつもあります。しかしながら、自宅で全文をプリントアウトする人もいるみたいなので、読み物系の本には、ワードデータにもページを入れていきます。目次にはページ番号は入れていません。イロイロな本を参考に、ご自分でどうするか決めてください。)

基本のフォーマットには、既に、ページ番号を入れる場所を確保してありますからね。それぞれのファイルのページ番号の部分を、順番に変更してゆきます。

これ、確保しておかないと、設定が面倒になるので、基本のフォーマットには、ページを入れる部分に、必ずページ番号のダミーデータ、入れておきましょう。

ページ番号の変更は、思いのほか簡単なのですが、誰も教えてくれる人がいないので、よく解らないという人が多いのです。(なんだそりゃ。)



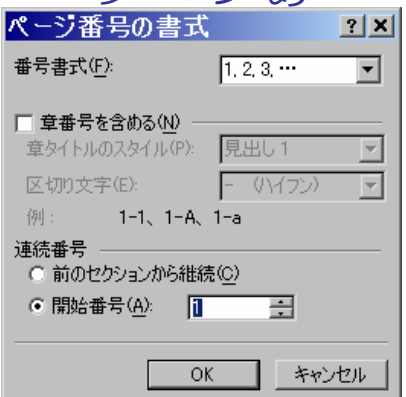


【表示】→【ヘッダーとフッター】を押すと、上のようなツールバーが出てきますので、



このマークを  
押してください。

このボックスで、一番下にある、【開始番号】に、そのページの番号をいれると、指定したページから、そのファイルがスタートしてくれます。



たいして難しくありませんけどね、自分で習得する  
には時間がかかりました。

そんなこんなで、参考してみてください。  
教えてくれる人がいれば、カンタンなことなのです。

PDFにしたときに、ページは自動的につきますけどね、やはり、本みたいに、各ページに番号がついているほうが、いい感じだと思います。

また、オンデマンド出版に将来シフトするときに、ページ番号がこの時点で付いていると、後の作業がラクちんです。

【表紙】や、【もくじ】、【はじめに】には、ページは入れないので、自動的につくページとは、ズレが起ころので、とても気になったので、当面、紙の本と同じように作るために、私はワード原稿の段階でページ番号を入れることに決めただけです。

(ちなみに、最近作っている私の電子本には、ワード原稿にはページ番号を入れていない作品も多くなっています。)

\*\*\* 【もくじ】を完成させる \*\*\*

【もくじ】は、ページ番号をつけてから、最終的に作成・チェックをします。

理由は、本文の校正が終了し、ページ番号をつけてから、目次をチェックする方が、効率がいいからです。どちらかといえば、ページ番号付けと、目次ファイルは、平行して作るという感じかもしれません。

また、本文を作成しながら、目次も平行して作るという方法でもいいと思います。

文章を書き進むと、章などを、最初にきちんと設計したつもりでも、内容がどんどん変化したり、ふくらんできたりして、目次の項目が増えてしまいます。アタシの場合、最初にもくじを作ってから文を書き始めたもんですから、文や章がどんどん変更になるたびに、もくじも訂正しなくてはならなくて、メチャクチャ面倒でした。

それでも、目次があると、本の流れもチェックしながら、本が作れるというメリットもあります。

どんな方法でも、いつから目次を作り始めても構いませんが、最終的に、目次を完成できるのは、ページ番号を全てのファイルに付加した後になるというのは、こじで、理解できませんと思います。

作家の方は、制作ノートなんかも作りながら、綿密に文章を作っている方もいると思います。でも最近では、アタシのように、いきなりワードに文を打ってゆくタイプの人も多いんじゃないかと思っています。

行き当たりバッタリの人は、とりあえず、【もくじ】は最後、もしくは、ある程度書き進んでから作り始めるのがオススメです。

私は、しおりを使っているので、目次には、ページ番号を入れていません。

しおりがあれば、タイトルをクリックするだけで、指定したページにジャンプできるので、苦労して、時間をかけて、見出しごとの、細かいページ番号を、目次に書き加える作業を省略したのです。

どうですか？

だんだん本になってきましたか？そりゃ、ヨカッタっす。

ワードで電子本を作るというのは、本の形に近い原稿をまず、ワードで完成させるということです。

表紙も、目次も、文章画像も全部、一旦ワード形式のファイルに保存し、それをアクロバットに変換するという段取りです。

そして、ワードでの編集作業は、【しおりデータをつくる】という、最終の段階に入ります。

\*\*\*【しおり】データを作る\*\*\*

この部分は、初心者には、理解が難しいかもしれませんが。

ですから、【しおり】を作らないという方法も選択できます。

とりあえず、【しおり】無しで本を作ってみて、やはり、【しおり】は便利なので、効率的な作り方をぜひ習得したいという方は、また、このページに戻ってきて、段取りを確認するという方が、いいかもしれません。

私も、しおりの習得には、だいぶ時間をかけました。しかしながら、一旦理解してしまうと、電子本らしい、とても便利な機能ですので、ぜひ、挑戦してみてください。(じいいながら、今、自分で作っている電子本のは、この機能は入れていません。本は、前から順番に読むので、特に必要がないのです。)

私は、しおりデータは、ワードで作った【目次】のデータを使うことにしています。

文書内にある、【見出し1】を使ってもいいんですけど、どうせ全部、ページの設定をしないおさなければならぬのです。また、本文の【見出し1】を設定し忘れていたりすると、【しおり】から、漏れてしまったりして、訂正もめんどうなのです。

．．．【しおり】って何ですか？．．．

ワードから、アクロバットに変換するよ、【しおり】という便利な機能がついてきます。

電子本の場合は【しおり】は、目次のような役割をします。紙の本と違う部分は、しおりをクリックすると、そのページに直接ジャンプしてくれるという所です。

．．．．．

ですから、もくじも一応作っていますけど、しおりも使うというのが、アタシの本の特徴です。しおりがあるから、当初は、目次はいらないだろうとも考えましたが、立ち読みデータを作ったりする時に、目次のページは本の中にあるほうが、紙の本に慣れた方にとって自然なので、やはり、入れることにしたのです。

もくじからハイパーリンクという方法で文章にジャンプすることも可能なのですが、これだと、本が美しく表示されなかったもので、現在は、しおりを使う方法に切り替えました。

ワードでハイパーリンクを貼ると、アクロバット上で、うまく変換できないみたいで、表示がガタガタになったり、分断されたりしてしまうのです。ハイパーリンクは、今は使わないで本を作っています。バージ

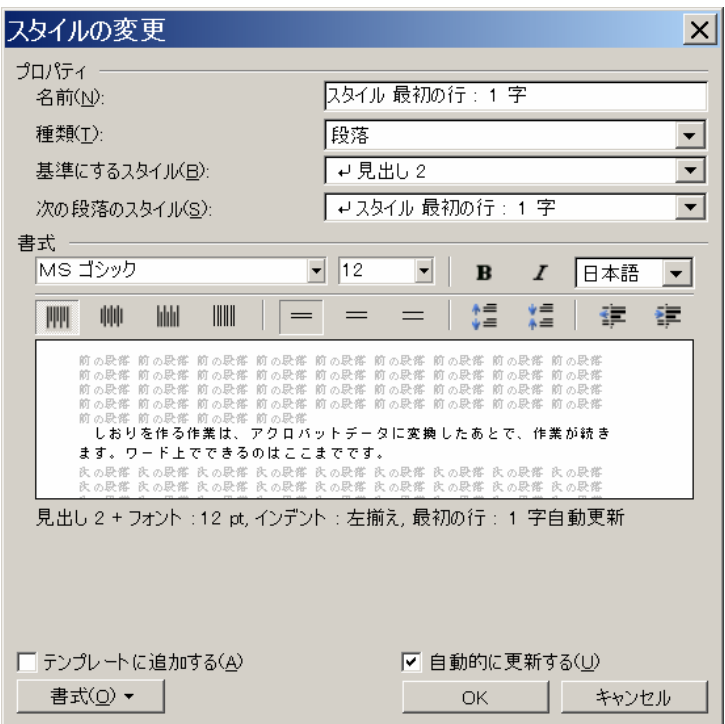
ヨンがアップしたりすると、この手の不具合が解消されるかもしれません。

- 目次から【しおり】データを作る方法  
これには、まずスタイルを利用します。

【書式】↓【スタイル】で、まだ使っていない見出しを使います。  
今回は、【見出し2】を使いました。

【見出し2】を選択したら、目次にしたい文字を書式に設定します。

目次のデザインというのも、本の格が問われる部分です。でも、あまり、本文やタイトルと違うフォントを使わないほうがいいと思います。フォントを沢山持っている、イロイロと使いたくなりますけどね、あくまでも、フォントは、一つの本の中で1種類、多くても2種類で、シンプルに設計することにしましょう。





## ・【しおり】データの設定

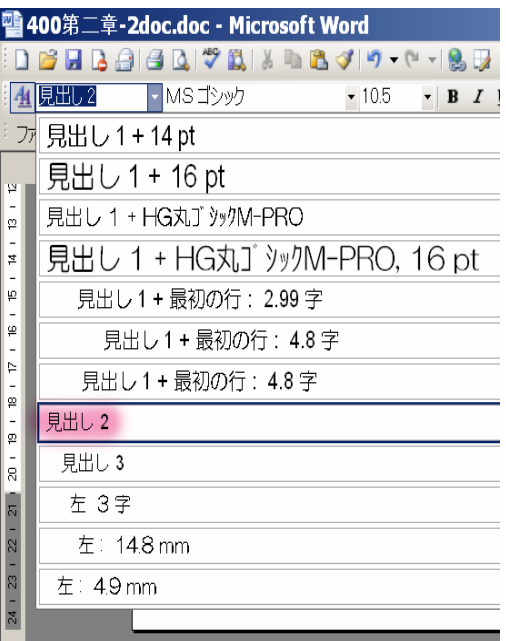
【見出し2】のスタイルの設定が終了したら、目次の部分に、この、【見出し2】を設定します。

まず、ワード文書上の【目次】のページにある文字を全て反転させます。

画像左上にある、**標準▼**というボタンの▼を押し、

このような画面が出てきますので、右側のスクロールバーを移動して、【見出し2】の文字が出てきたら、そこを

押します。



そうすると、反転した文字が、【見出し2】に設定されます。しおりを作る作業は、アクロバットデータに変換したあとで、作業が続きます。ワ

ード文書上の【目次】のページにある文字を全て反転させます。

じねび、ワードでの原稿作りは全て完成です。  
おめびゅいじねびます。

## 第三章

### フォードデータをPDFに変換



\*\*\* アクロバットをインストール \*\*\*

いよいよ、アクロバットを買う日が来ましたね。

それは、ワードでの本の原稿作りが完成したってことなんです。校正も3回以上しましたね。

表紙も、目次も、本文もめでたく完成し、あとがきなんかも入れて、インプットするのは、これから取得するISBNコードのみ。他にはもう何もすることは無い。

アクロバットをまだお持ちでない方は、そういう状態になってから買ったほうがいいですよ。

理由っすか？執筆活動が途中で嫌になって、挫折すると、アクロバットがムダになってしまいますからね。まだお持ちでない方には、本の執筆全てが完了してから、アクロバットの購入をすることを強くオススメします。

アクロバットは、必ず最新版を購入してください。昔のでは、本が完成しない可能性があります。

私は、もう、二年も前から、電子本作りにチャレンジしていましたが、なかなか進みませんでした。理由は、アクロバットにあるようにも思えましたし、ウィンドウズとの相性も悪かったんじゃないかと思いません。

アクロバットを5.0にバージョンアップしてから、文章のPDF化というのがぐっと進みました。ここまでは、本当に長い道のりでした。

ワードでの電子本作りでは、このソフトが一番高い買い物になるかもしれません。市販品で二万六千円程度しますから。

大きいパソコン店などに電車で行ったら、電車賃もかかります。

でも、アドビ社の、アクロバットは、ワードで作る電子本作りには、不可欠です。

私が、この本を書いたのは2002年でアクロバットのバージョンも5.0が最高でしたが、現在(2005年)では、6.0が最高になっています。

6.0と5.0では、PDFに変換する方法が少し違いますのでご注意ください。

6.0の方が、使い勝手がいいような気がします。また、2002年の段階では、文書データをPDF化するソフトはそんなに多くありませんでしたが、現在は、安価なソフトや、商品の付録についているソフトもあるみたいです。

とりあえず、PDF化できるソフトを準備し、原稿が完成したら、早速インストールしてみましょう。

文書をPDF化する他社のソフトの利用方法は、私には解りません。安いソフトが、フォントの文字化けが起こらないように対応できているかはわかりません。マニュアルなどを参考に、ご自分で、PDFファイルに変換してください。

私の電子本の場合、フォントや、パソコンに合ったレイアウトに特化していて、オフィスの文書とは設定が異なります。

会社などでアクロバットを導入されている所も多いのではないかと思いますから、原稿は家で作り、PDF化は、こっそり会社でという方もいるかもしれませんね。とりあえずのPDF化のテストは、それで十分だと思います。

本なんて、そんなに何冊も書けませんって。

この本では、とりあえずはアクロバットを使った方法をご紹介しますと思います。

インストールは、普通に行います。そうすると、ワード文書の中やプリンタにも、自動的に、アクロバットが組み込まれています。

おおっ、驚いたぜっ。

\*\*\* プリンタの設定をする \*\*\*

もしかしたら、このプリンタの設定は必要ない作業かもしれませんが。よく解っていないのですが私は設定しているので、念のため書くことにします。

この本を書いた2002年の段階では、フォントを埋め込むため、ポストスクリプトプリンターのドライバをインストールするというのが、アクロバットのソフットのインストールとは別に必要な作業でしたが、XPとアクロバット6.0を使った場合、プリンタの設定を一箇所するだけで、問題なく、文字化けもなくPDF化ができたと思います。

とりあえず今のところは、この項は飛ばして、次の所に先に進んでください。アクロバットに変換したときに、文字化けなどが起こったり、『プリンタが見つからない』などというエラーが表示されたら、ここをもう一度見てください。

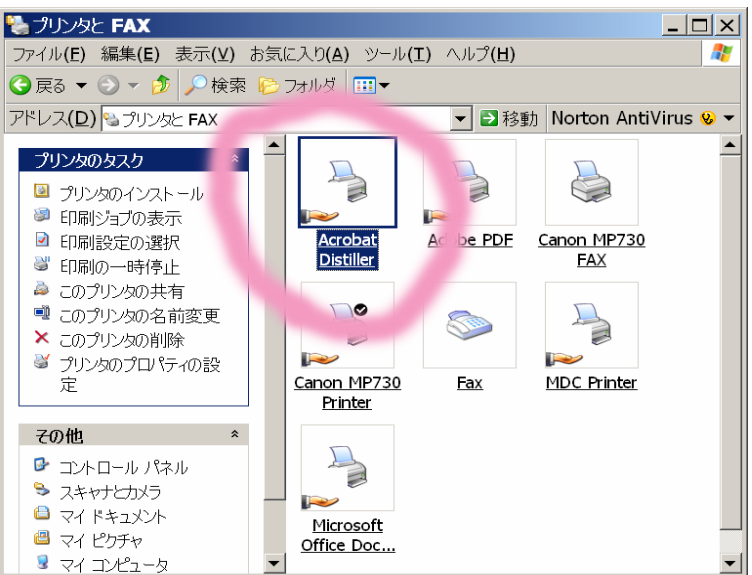
アクロバットのファイルをインストールしたら、プリンタの設定を変更します。

私の現在のOSはXPですので、改訂時に追加し、XPの設定もご紹介させていただくことになりました。

他のバージョンは、前に作ったのを残しておきますが、マシンのメーカーによっても違う可能性があります。ですので、上手くいかなかったときには、「自分でも試行錯誤をしてください。どちらにしても、PDFファイルに変換する場合、プリンタの設定というのは、しなければならぬように感じます。

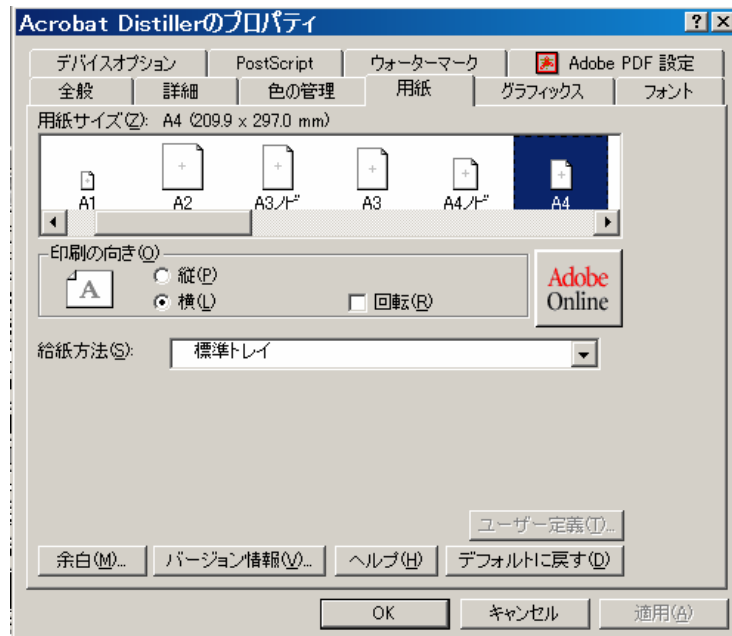
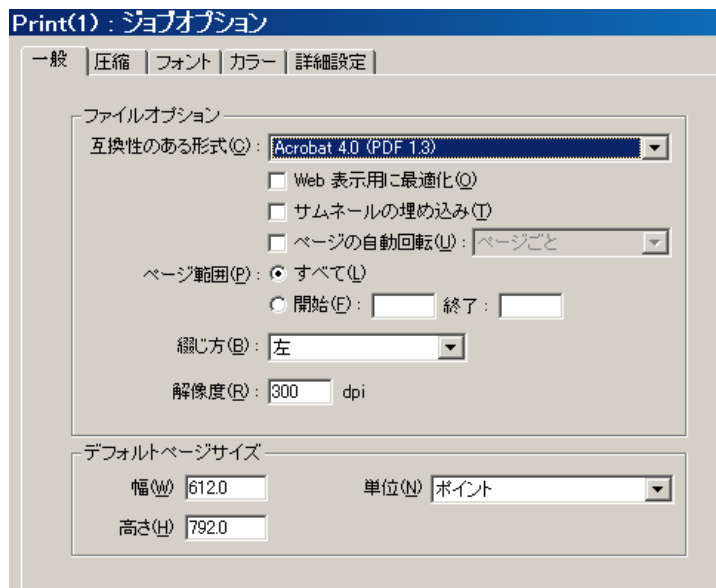
↓のOSの場合でも、まず、【コントロールパネル】→【プリンタ】フォルダを開いてください。

アクロバットをインストールすると、Acrobat Distiller ユーティリティ、新しいプリンタが、プリンタのフォルダーに、自動的に追加されます。



Distiller のプリンタの上  
にカーソルを当て、  
【右ボタン】→【プロ  
パティ】を押します。



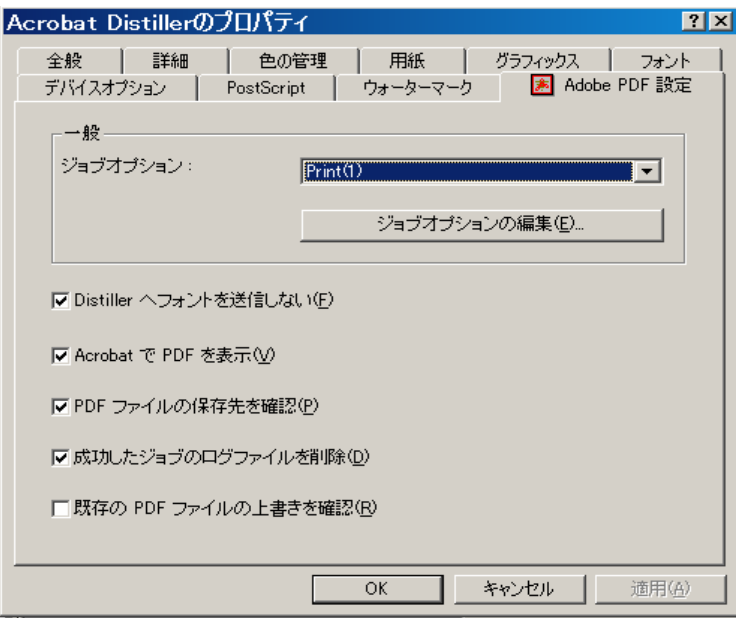


≪OSがMEの場合  
 ≫

【用紙】のタグを  
 選択して、【印刷の  
 向き】を横に設定  
 します。

次に、【Adobe  
 PDF設定】のタ  
 グを押して

ジョブオプションを  
 【Print】に設定して、  
 【ジョブオプション  
 の編集】ボタンを押  
 します。



ジョブオプションでは、【一般】のタグを開いて、解像度を300dpiに設定します。

また、プリントしたりすることを想定する場合には、Web表示用に最適化のチェックマークをオフにします。

互換性のある形

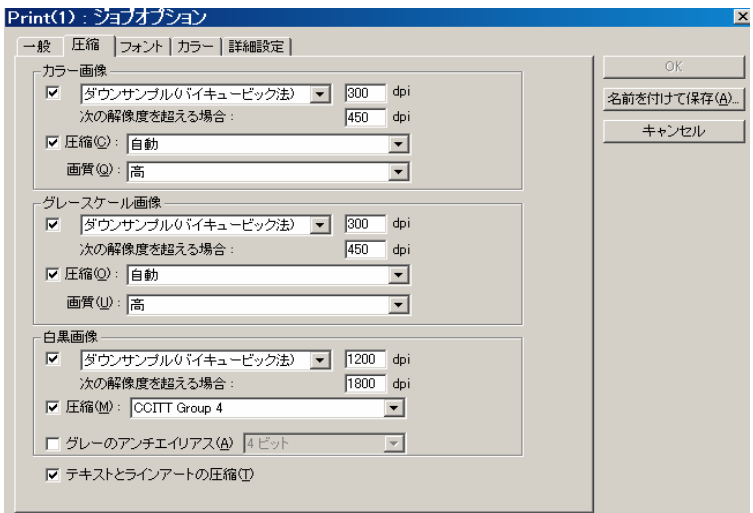
式は、Acrobat4.0のままになります。

ジョブオプションの圧縮のところでも、変換のサイズを設定できます。

私は、カラー画像、グレースケール画像、白黒画像共、300dpiに設定していますが、このサイズが、大きいと、本の最終的なファイルサイズも大きくなるといじりやすくなります。

ネットで配信を予定している方は、こちらの解像度の数字を200dpi、150dpiよりよい、少しずつ小さくしてください。

私は、本の最終的なファイルサイズが10MB程度になるのを目標にこの、解像度を変更し、ファイルを少しずつ小さく圧縮してPDFに変換しています。



のであれば、圧縮はそんなにしなくても大丈夫です。

逆に、写真を印刷したいなどというニーズもあると思います。その場合、こちらの解像度は、300程度に保つといいと思います。

将来的に、オフセット印刷などに利用したいという事情がある方は、最初のPDF変換を370dpiで作成しておきましょう。

それ以上の解像度は、私の感覚だと必要ありません。それ以上高解像度に設定すると、パソコンのメモリを食い、パソコンが動作しなくなったり、レスポンスが遅くなったりします。

オフセットのプリンタも、その程度（360dpi）の解像度が上限なのです。

それ以上のサイズでPDF変換した時間や労力、パソコンへの負担は、すべてがムダになると考えてください。

ですから、370dpiがMAXで構わないのです。

マスターファイルは、370dpiで作し、一旦保管して、そのあと、ネット配信のために、150dpiで圧縮したファイルを作ると良いと思います。

「ウィンドウズ 2000 の場合のプリンタの設定」  
XP の方は「88 ページ」へ



なかなか、本の変換が上手く行かず、原因がプリンタにあると考えて、いくつもプリンタを入れてしまい、結局どれも有効なものがわからなくなっていました。

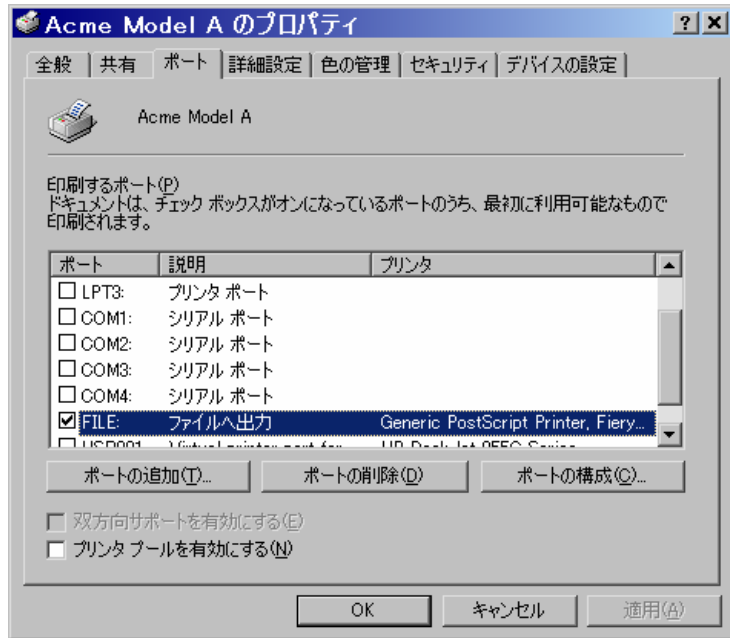
アクロバットをインストールすると、とりあえず、自

動的にプリンタに追加されるプリンタの設定を変更すると覚えてください。(たぶん、Acme Model A) だったと思います。

これの上に、カーソルを当てて、【右ボタン】→【プロパティ】を押します。

【ポート】のタグを押して、 P L A T E ファイル  
へ出力の

をクリックしてチェックマークを入れます。



を調べまくり、とりあえず、【サービスパック2】というソフトを何時間かかけてダウンロードして、WIN2000にインストールした記憶があります。

アドビ社のホームページには、もし、PDF変換が上手く行かない場合には、ポストスクリプトドライバというのを、プリントメーカーからダウンロードして、パソコンにインストールしろなども書いてありました。(当然これもやらしました。)

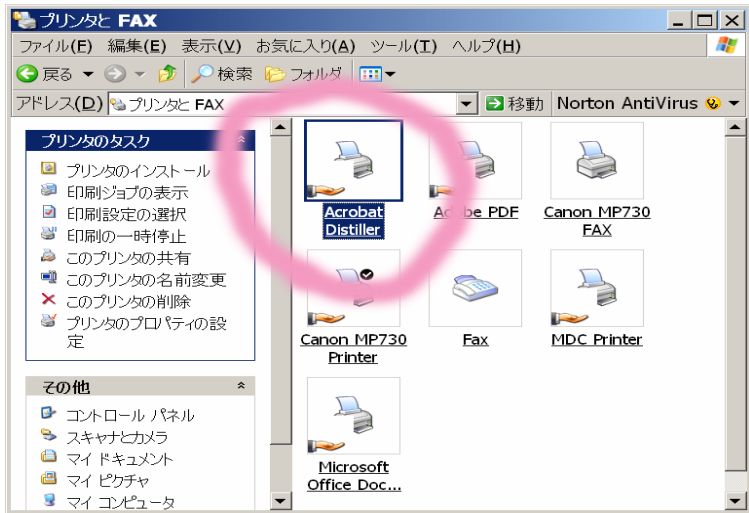
今思えば、文字化けするという、PDF変換の問題は、別な所(アクロバットの変換の設定をPrintにしていなかったこと)にあったと思えなくもありません。

私は、試行錯誤の段階で、この、プリンタドライバをいくつも入れるという作業の他、WIN2000ではどうしても動かないで、Adobe社のホームページのソフトの問題と解決方法とか、マイクロソフト社のホームページなど

もし、上手くいかない場合は、マイクロソフト社から配布される、ウインドウズ2000の、サービスパック2のことや、アドビ社のホームページでも、問題に対する解決方法を閲覧できることを思い出して、自分でも調べてみてください。

とりあえず、プリンタの設定は、初回は無視してもいいかもしれません。XPであれば、プリンタの設定だけで、ポストスクリプトドライバのインストールはしなくても、うまく行く可能性も有ります。

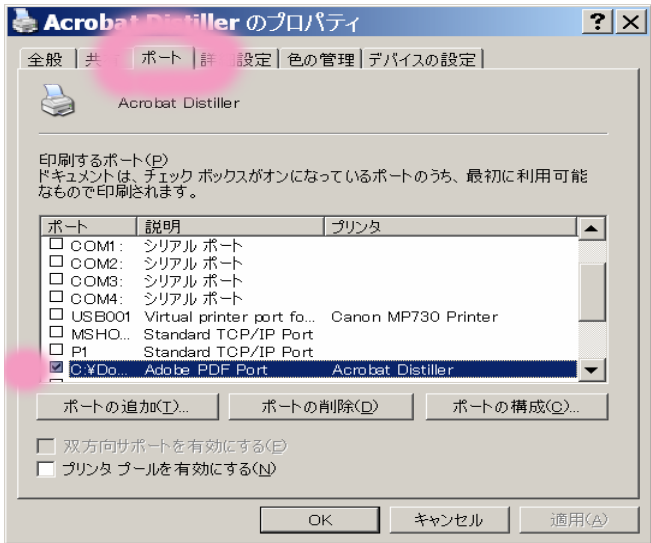
もし、ワードがPDFにきちんと変換できないことがあったり、プリンタの問題だというエラーメッセージが出たら、このページ戻って、プリンタの設定も、少しチェックしてみてください。



「XPのプリンタの設定」

「コントロールパネルのプリンタから、Acrobat Distiller という名前を選び、右ボタンで、プロパティを開きます。」

「ポートのタグを押し、Adobe Pdf Port Acrobat Distillerの□□□チェックマークを入れま



「XPのプリンタの設定はこれだけだったよ。うな気がしますが、 Acrobatのバージョンが5.0以下の場合には、フォントの埋め込みが必要かもしれま

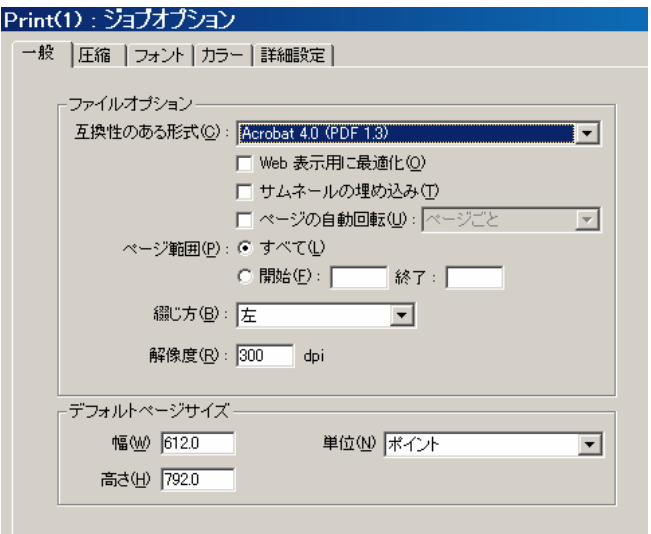
せん。」

「USB接続、USB接続」





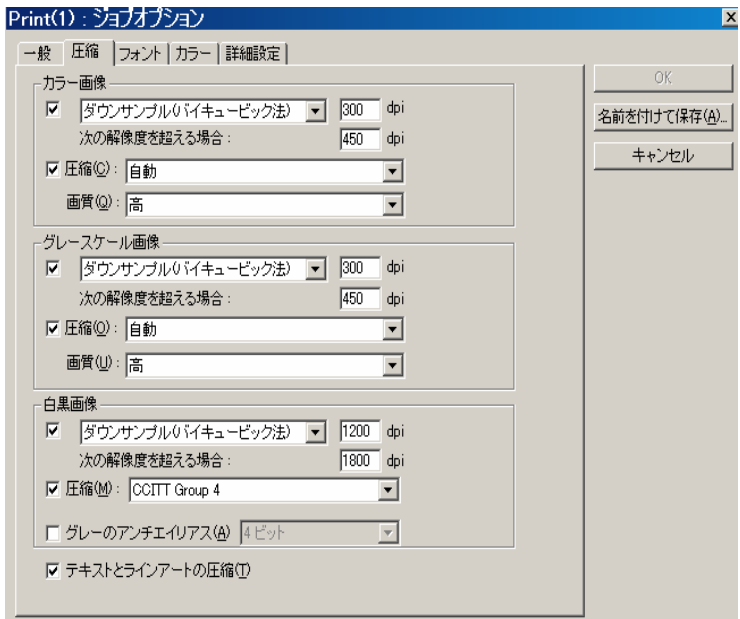
## ・【一般】のタグの設定



【一般】のタグを押し、解像度を 300dpi に設定します。(この解像度の数字が大きければ大きいほど、画像や文字は、美しく表示され、ファイルサイズも大きくなってゆきます。

一旦本の形にまとめ、本のサイズを確認します。ファイルサイズをもっと小さくしたい場合にもっと小さくすればよいのです。) この解像度の数字をもっと小さくすればよい

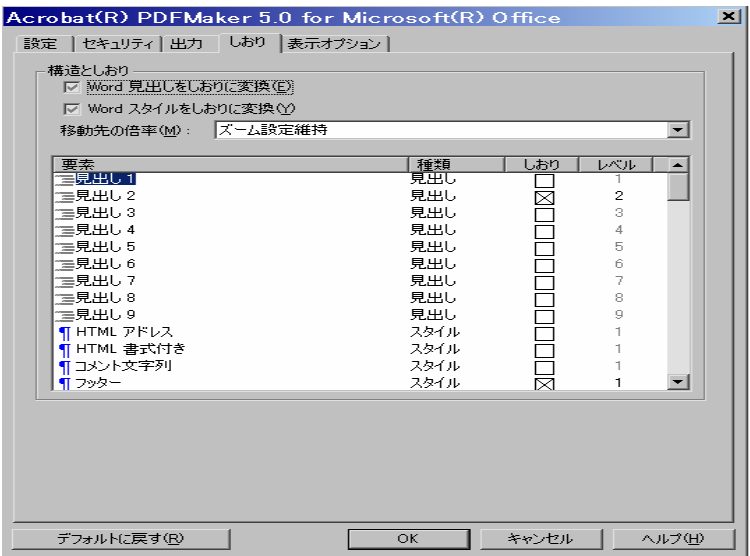
## ・【圧縮】のタグの設定



次に【圧縮】のタグを押し、

カラー画像、グレースケール画像、白黒画像を、それぞれ300dpiに変更して、名前をつけて保存します。↓Print(1) (1)などのファイル名になります。

## ・【しおり】部分の設定



【しおり】タグを押し  
て、【見出し2】と【フ  
ッター】に、チェック  
印を入れます。

【見出し1】にチェッ  
クを入れると、【見出  
し1】もしおりに含まれ  
てしまい、本になった  
時に、しおりがグチャ  
グチャになってしま  
うのです。ですから、目  
次をしおりに使うと決  
めた場合には、【見出  
し1】の場合には、【フタ

タ】ページ番号や章番号を入れた場合には、【フタ  
ー】しおりのチェックを入れるようにします。  
目次を作らないで、しおりを目次代わりに使う場合  
には、章の始めなどに設定した【見出し1】のしおり  
に、チェックマークします。

実は、本の章の部分などを【見出し1】にして、P  
DF変換したときには、しおりは、より、効率的に配  
置されています。

しかしながら、この方法は、ワード上で【見出し1】  
の設定を忘れて、章が漏れてしまったりもするのです。

章が漏れると、しおりを追加したりしなければならぬ  
いのですが、結構手間がかかりました。

また、このとき自動的に設定されるしおりの位置が、  
パソコンで表示したときに、微妙にズレしまい、読み  
にくくなるという問題も起きました。結局、美しく表  
示できるように、手で、全部のページを修正すること  
になったのです。

目次をしおりに使うと、各ページのジャンプ先に、  
しおりを設定しなおす作業が発生します。これが少し  
手間ですけど、【見出し1】を使っても、しおりデー  
タが漏れたり、結局しおりを全部再設定しなければな  
らないのであれば、手間は同じかなと考えて、私の場  
合は、一気にしおりが設定できる、【目次】をしおり  
に使っています。

読んでいても、何のことも解らないですよね。

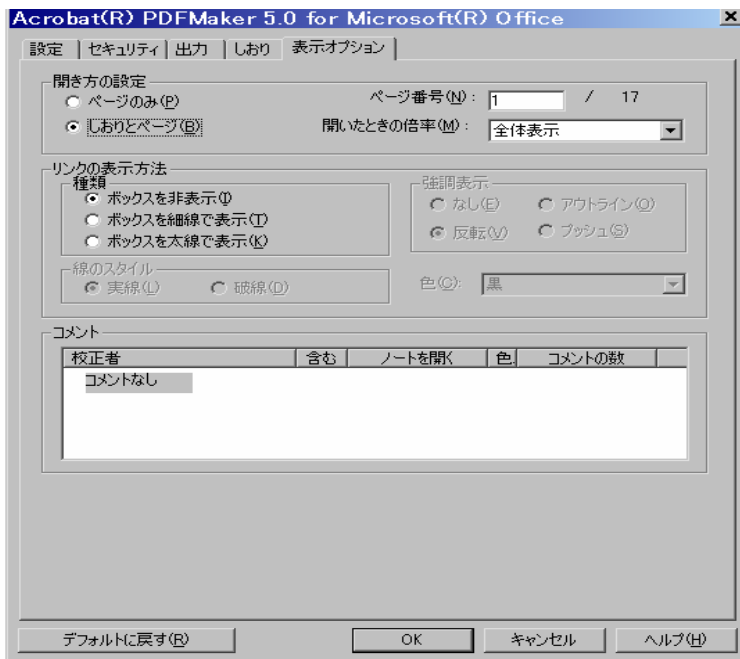
そういう方は、【見出し1】も、【見出し2】にも、  
しおりのチェックを入れて、PDF変換してみてください。  
ね。

そのすゝめと、びびりという結果になるのか解ってきます。

あとは、自分でも考えて、どちらの手間の方が自分  
は嫌かを考えて、制作を勧めてゆくといいと思います。

そうして、結果を見ても、どこにもよく理解できないという方は、このしおりの設定は無視して、チエックをつけずに進みましょう。

押し、ワード文書に戻りましょう。



・【表示オプション】のタグの設定  
【表示オプション】のタグを押し、【開き方の設定】を、◎【しおりとページ】に設定します。

これで、【変換設定の変更】作業は終了です。

【OK】ボタンを

\*\*\* ボタン一つでPDF \*\*\*

いよいよ、ワード文書をアクロバットに変換します。  
ツールバーに、アクロバットのマーク  
が表示されていますので、

このマークを  
押してみてください。



そうすると、ワードファイルをPDFファイルに変換する作業が始まります。

この作業は、文章の量が多かったり、画像が多いと、かなりの時間がかかる場合がありますが、短気を起こさずに、処理が終了するまで、ジッと待つことにしましょう。

私のパソコンは、かなりハイスペックですが、この作業中は、まるで、リリースしたみたいに、全力で働いており、他の作業はできなくなってしまいます。

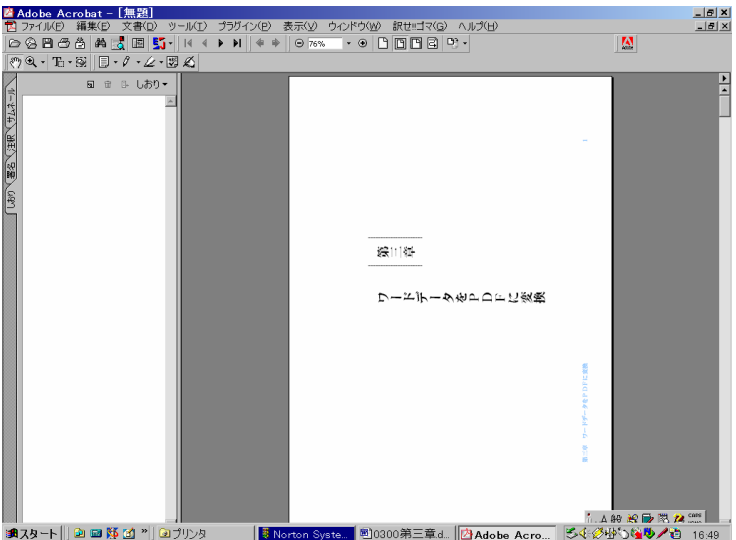
作業中には、画面の右下に、プリンタのアイコンと、アクロバットのアイコンが表示されます。

作業が終了すると、アイコンの表示は両方とも消えて、自動的にアクロバットが起動します。(しない場合には、自分でPDFファイルを開いてください)



そうして、こんな画像が表示されます。

おおっ。



なぜ、原稿は、縦長なんだ……。

という疑問はアタシの中にもあるのですが、どうも、【Print】という変換方法を取ると、初回は必ず、原稿は縦長に変換されるみたいです。XPでは改善されているみたいす。

他の方法で変換すると、文字化けし、うま

く変換できません。

しかし、必ず【Print】という変換方式を取り、解像度などを変更するよ、名前を付けると言っているのよ、【Print (1)】をメニューにもっとちゃん。

まず、ここで、一旦、PDFファイルを保存しましょう。

【ファイル】↓【名前をつけて保存】を押し、保存先は、【マイドキュメント】の【MyBooks】の中の、自分の本のフォルダの中に格納します。

PDFファイルは、原則として、ワードと同じファイル名で保存します。

理由は、本の一部に校正が入った時などに、原稿と本のファイル名が違っていると、編集が混乱するからです。

また、ワードのファイルは、自動的に、本の順番に並ぶように設計されています。

ワードと同じ名前でも保存するだけで、アクロバットでも、本の順番に並んでくれるのです。絶対オススメです。

章などが沢山ある本の場合には、フォルダの中に、更に、【PDF】というフォルダを新規に作成します。

PDFファイルを、その中に格納してゆくと、ワード文書と混じったりしないので、本をつなげる時の作業効率がよくなります。

\*\*\* 用紙の向きを回転させる \*\*\*

用紙が縦長のままだと、本が読めませんから、用紙の向きを回転させます。



【文書】↓【ページの回転】を押し、方向は、【90° 時計回り】を選択します。

【ページ範囲】は、【すべて】を選択し【OK】ボタンを押します。ここでファイルをもう一度保存します。

\*\*\* 本を順番に PDFに変換してゆく \*\*\*

【変換設定の変更】は、一度設定すると、他の設定に変更しないかぎり、前に使った設定が有効です。

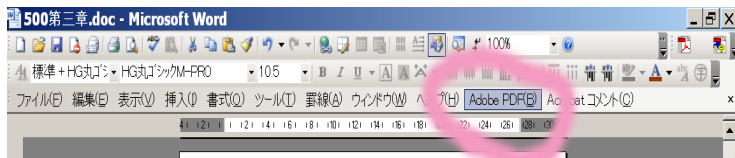
ですから、ワード文書は、ボタン一つで、次々とPDFに変換できるのです。

本のデータとして用意したワード文書を順番に開き、一つ一つ、PDFファイルに変換し、保存、ページの回転を終了して、一旦閉じてください。

裏表紙まで、終了しましたか？  
お疲れ様でした。

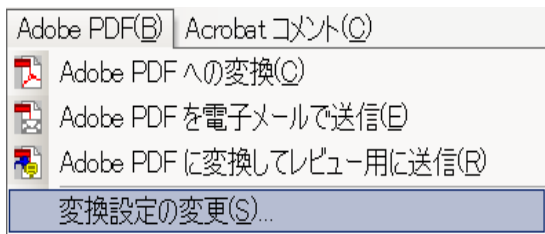
いよいよ、これから、本にまとめる作業にはいります。

≪ Windows XPの場合の、PDF変換の設定  
≪ XP環境で、アクロバットの6.0を使って電子本を作  
る際には、従来の設定と若干違いますので、ご注意  
ください。



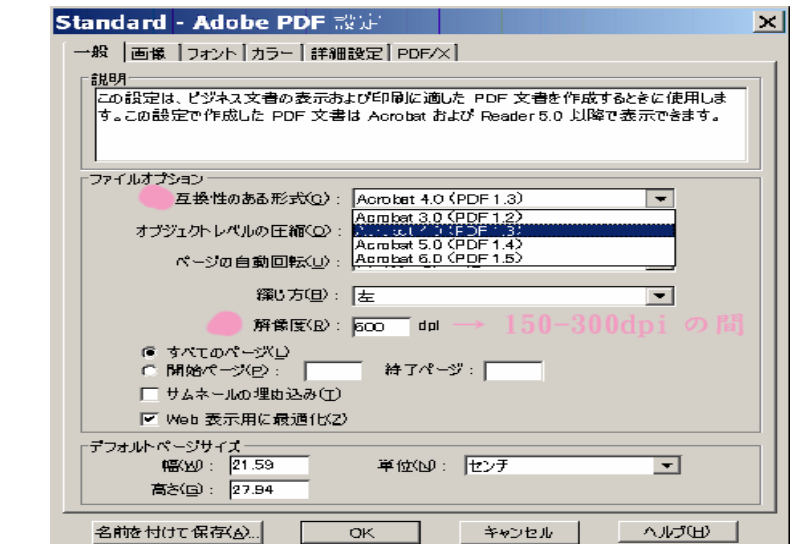
最新版で作られるほうが、トラブルが少ない  
ですし、設定が楽チンです。  
もし、ご予算が許せば、新し  
いバージョンで作成を進めて  
下さい。

まず、メニューの Adobe PDF  
という項目を選びます。  
そうすると、下のようなBO  
Xが開いてきますので、一番  
下の「変換設定の変更」を押し  
てください。





その画面の  
ような画面にな  
りますので、  
「PDF Maker  
設定」の▼を押し  
て、「Standard」  
を選び、「詳細設  
定」のボタンを押  
します。



す。

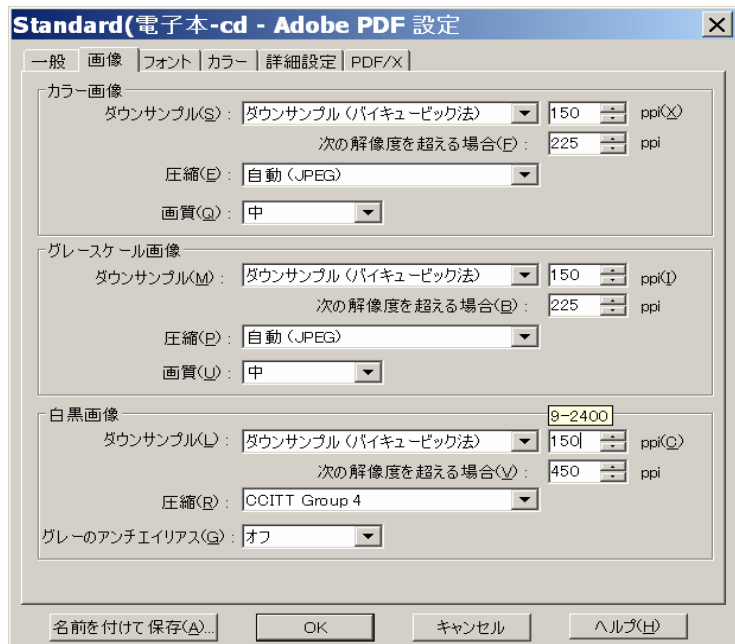
一般のタグを選び、互換性のある形式は、▼を押し「Acrobat4.0」を指定します。それ以降のバージョンでも良いような気もしますが、信じられないくらい古いパソコンを大切に使う方も世の中には沢山いるというのを私は知っています。アクロバットのバージョンを4.0にすることで、かなり多くの方に読んで頂ける環境に広げることが可能なので

また、解像度は、150-300程度の間で設定します。

「画像」のタブを押して、画像の解像度も少し小さくしておきます。

CD版で配布したり、オンラインマインド印刷に利用するときは、300-400程度を利用します。

ネット配信の場合には、ページ数にもよりますが、150-200程度にそれを設定するのが最適だと思います。



ネット配信するときには、ファイルサイズは物凄く重要です。

未だに、電話回線でアクセスしている人だって沢山いるのです。本のサイズが5MB程度であれば、本をダウンロードしてみようとという人の数は、物凄く増えるのです。

その辺ご参考にして、本のサイズを定めて、ワード文書を圧縮してください。





フォントのタグを押し、「すべてのフォントを埋め込む」と「サブセットの全フォントに対する割合」のチェックボックスにそれぞれチェックがついていることを確認します。

詳細設定のチェックは、こんな風になっています。アタシも、良くわかっていないながら、この設定で特に問題がありませんので、このまま進めてゆこうと思います。

ご参考にした方がいらっしやると思いますので、念のために、画像を入れておきます。

これで、PDFの設定は終了です。名前を付けて保存しよう、「Standard(電子本)」などというように、自分が後で見たときに、解りやすい名前をつけて保存します。



一旦保存したら、ワードの文書に戻ります。「OOT」表紙」などのワード文書のファイルを開き、PDFに変換してみましょう。

アクロバットを

パソコンにインストールすると、上の図のようなアイコンが、ワードに勝手に入ってきます。もし、このアイコンが、ワード上に入っていないときは、もう一度アクロバットをパソコンにインストールしてください。

インストールする順序は、ワードが先で、アクロバットは、ワードよりも後でなければなりません。



このマークを

押してみてください。



そのほかにも、開いているワード文書が、PDFに変換されます。

イロイロなソフトが勝手に起動して、少し、パソコンが止まったような状態になります。

長文のPDF変換は、パソコンに物凄い負担がかかるみたいです。

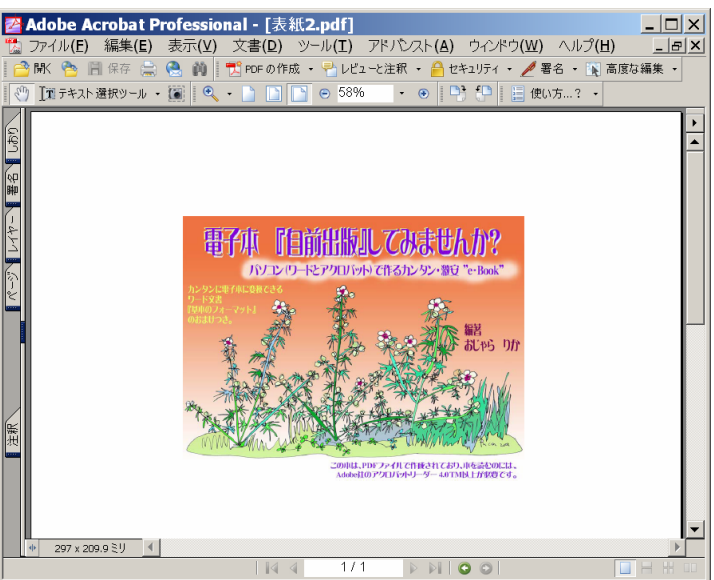
章ごとに、ファイルを小分けにして、何回かに分けてPDF変換をしていくほうが負担を分散できますし、パソコンが止まったりしません。

ボロいパソコンだと、途中で止まってしまい、作業はなかなか進まないということがありますので、ご注意下さい。

解像度を高くして作った場合も、パソコンは途中で止まってしまいます。あまり、高解像度にこだわらないで進めましょう。

そうして、アクロバットで、PDF化したファイルを開くと、こんな画像が表示されます。

おおっ。  
アクロバット6.0は、自動的に横長に変換される。  
さすが、新しいだけのことですね。



他の方法で変換すると、フォントの設定がうまくゆかず、文字化けし、うまく変換できません。

気になる方は、イロイロな設定方法でも試してみてください。

今のメニューは【Standard】という変換方式を取り、解像度などを変更するメニュー、名前をつけると言っているので、【Standard(電卓本)】なメニューをおまかせ。

まず、1111で、101、PDFファイルを保存しませよ。

【ファイル】→【名前をつけて保存】を押し、保存先は、【マイドキュメント】の【MyBooks】の中の、自分の本のフォルダの中に格納します。

PDFファイルは、原則として、ワードと同じファイル名で保存します。

理由は、本の一部に校正が入った時などに、原稿と本のファイル名が違っていると、編集が混乱するからです。

また、ワードのファイルは、自動的に、本の順番に並ぶように設計されています。

ワードと同じ名前でも保存するだけで、アクロバットでも、本の順番に並んでくれるのです。絶対オススメです。

章などが沢山ある本の場合には、フォルダの中に、更に、【PDF】というフォルダを新規に作成します。

PDFファイルを、その中に格納してゆくと、ワード文書と混じったりしないので、本をつなげる時の作業効率がよくなります。

\*\*\* 本を順番に PDFに変換してゆへ \*\*\*

【変換設定の変更】は、一度設定すると、他の設定に変更しないかぎり、前に使った設定が有効です。

ですから、ワード文書は、ボタン一つで、次々とPDFに変換できるのです。

本のデータとして用意したワード文書を、全部PDFに変換し、保存、ページの回転を終了して、一旦閉じてください。

裏表紙まで、終了しましたか？  
お疲れ様でした。

いよいよ、これから、本にまとめる作業にはいります。



\*\*\* 文章を順番にしながらめん(Me)N(0000) (00000)

\*\*\*

すべてのワード文書が、PDFに変換されたら、一日全部のファイルを閉じます。

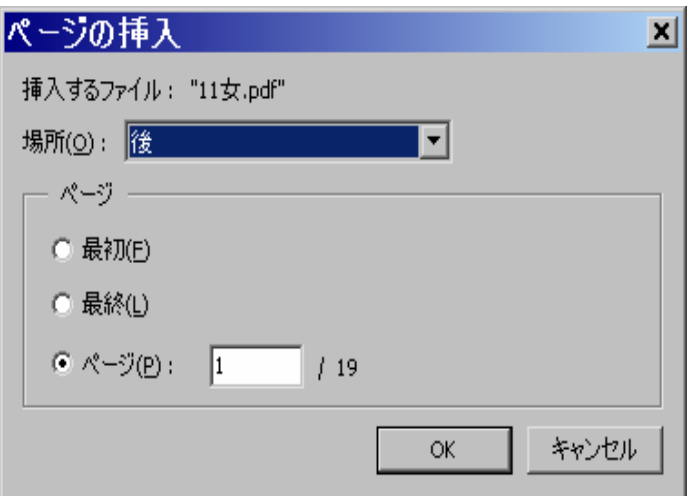
アクロバットで、『000表紙』を呼び出し、【ファイル】→【別名で保存】します。

ファイル名は、【book.pdf】などに入ります。

そうして、次に、

【文書】→【ページの挿入】を押し、【OKはじめて】を指定します。

図にあるように、【場所】を後に設定して、【OK】ボタンを押します。



これで、【表紙】の後ろに、【はじめに】がつながりました。

次は、『はじめに』の一番最後のページを表示して、画面を一度クリックします。(カーソル位置を最終ページに持ってくるため)

そしてまた、【文書】↓【ページの挿入】を押し、【020 もくじ】を指定します。

また、現在の、一番最後のページに移動して、画面を一度クリックします。

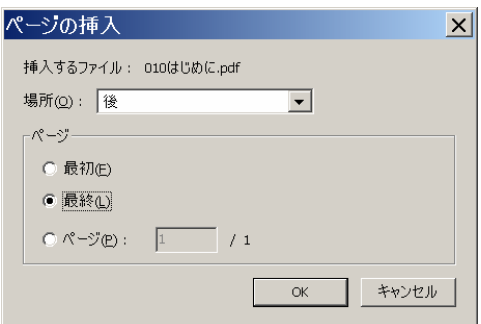
この作業を繰り返して、どんどんと、PDFファイルを、後ろに挿入してゆき、本を完成させましょう。

すべてのファイルを【book.pdf】というファイルに挿入したら、一旦保存します。

ここまでくると、本は、あと、もう少して完成です。







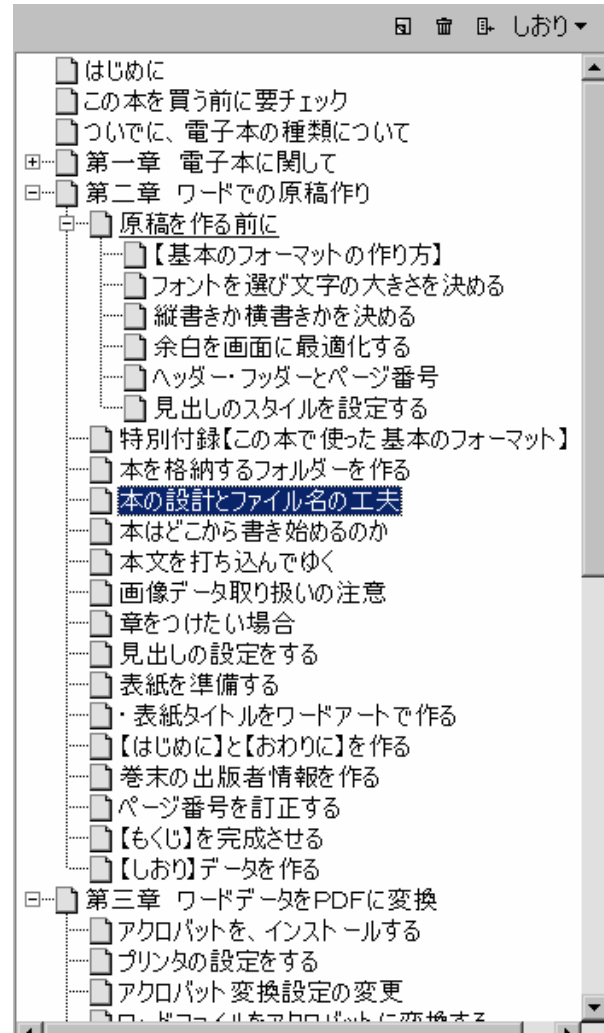
そしてまた、【文書】→【ページの挿入】を押し、【020 もくじ】を指定し、文書の一番後ろに追加します。また、現在の、一番最後のページに移動して、画面を一度クリックします。

この作業を繰り返し、どんどん、PDFファイルを、後ろに挿入してゆき、本を完成させましょう。

すべてのファイルを【book.pdf】というファイルに挿入したら、一旦保存します。

ここまでくると、本は、あじ、もう少して完成です。





しおりは、左側の四角いマークを押しながら移動すると、好きな場所に移動できます。

ですから、大見出し、小見出しの順に、ファイルをツリー状に移動して、【しおり】を、見栄えよく並べ替えましょう。

しおりが、見栄えよく並んだら、次には、しおりのジャンプ先を設定します。

まず、アクロバットの本文の下の方に出てくる

この表示がある、右▲を押し、ジャンプしたいペー  
ジを表示させます。

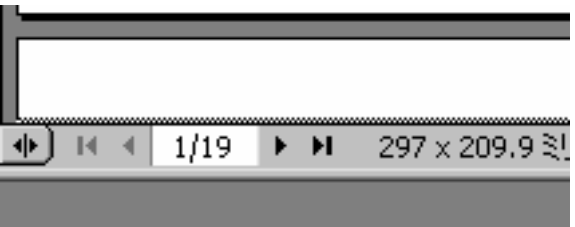
今回は、【はじめに】に、しおりを設定したいと思います。

まず、この図の下のほうにある右▲印を押して、ページをめくらしながら、【はじめに】のページを表示させてください。

右▼印を使って、ジャンプ先のページを表示させるのが、しおりを設定する場所として、最も適しています。

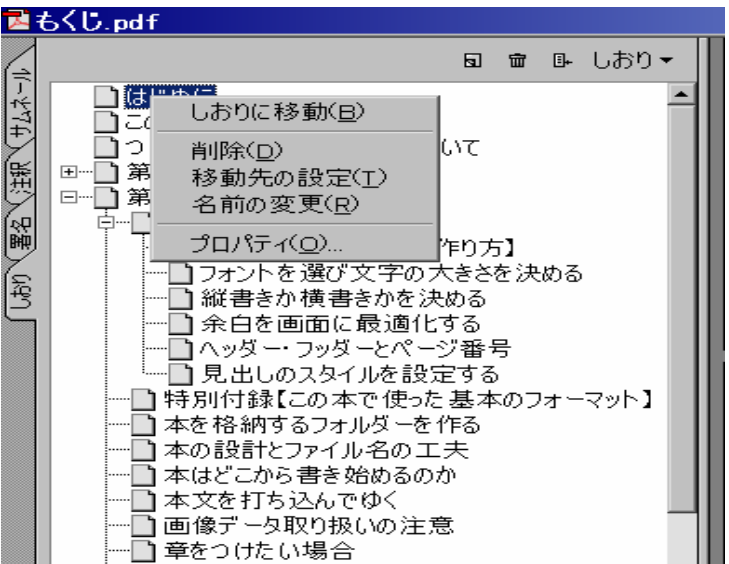
右側のスクロールバーなどでも、ページは移動するのですが、そのように表示させたページでは、カーソルの位置にしおりが設定されてしまい、ページごとに、表示する位置がズレてしまっているのです。

しおりのジャンプする先が、そのページの先頭に来ないので、とても見づらい本になってしまいます。



細かいテクニックですが、しおりのジャンプ先の位置は、アクロバットのページの横に出る、右▼印で表示させるというのを覚えてください。

次に、ジャンプするページを指定しなおします。



まず最初に、ジャンプするページを、右▼印を押して、本文側に表示させ、

次に、【しおり】の『はじめに』をクリックして選択し（文字が反転した状態で）、右ボタンを押し、【移動先の設定】を押します。

これで、【しおり】の設定は終わりです。簡単です。

しかし、ページの変更は、全ページに関して行わなければなりません。

しおりの稼働のチェックもします。設定した【しおり】を押すと、指定したページにジャンプするかどうか確認します。ズしていたら、修正します。

しおりは、目次としてしおりに変換しましたので、移動先の設定をする前は、【目次】にジャンプするよう自動的に設定されているのです。本のしおり、すべてのジャンプ先に対して、このしおりの【移動先の

設定】を訂正してゆかなければなりません。ちと手間がかかりますが、電子本の機能として、これがあると、便利なので、アタシの本にはつけることにしています。

理解するのが難しい方は、「しおり」は全くつけないで、本作りを進めましょう。

「しおり」が無いからといって、本が読めないということではありません。大切なのは、文書をPDF化し、本としてまとめることで、しおりがあるかないかは、重要度が低いのです。ここで物凄く時間をとられるのであれば、しおり機能を使わないで、まず本を完成させるほうが価値が高いと私は考えます。

\*\*\* 保存と再保存 \*\*\*

理由はよく解らないのですが、アクロバットで本を組み立ててゆくと、初回のファイルは、ファイルサイズがとても大きい場合があります。

私の本は、画像を取り扱う事が多いからかもしれない。私の本は、画像を取り扱う事が多いからかもしれない。ファイルの挿入や置き換えを繰り返していると、不要なデータがバックグラウンドに残ってしまうのかもしれない。

こんなにファイルサイズが大きくては、ネットで配信できないと、ビックリしたこともありました。

ところが、「名前をつけて別名で保存」すると、ファイルサイズが、半分以下に小さくなったことがあるのです。

【ファイル】→【別名で保存】

で、別な名前 (book2 など) で保存します。

ファイルサイズが小さくなったかどうか、マイドキュメントの、本を格納してある場所を開いて確認します。

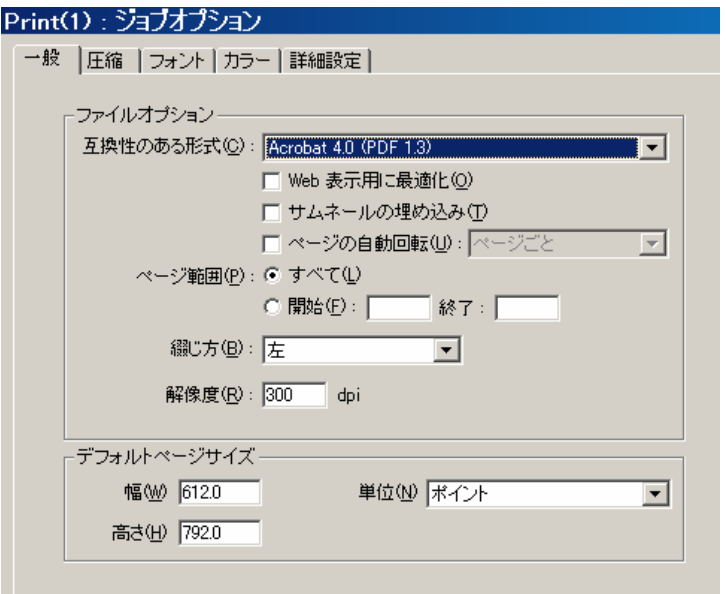
私の場合、一旦本の形に完成させた後、本のデータを再保存して、不要なデータを本の中に残さないように工夫しています。



＊ ファイルサイズの調整 ＊

マイドキュメント  
の中の、本のサイズ  
を確認して、本のサ  
イズを調整したい場  
合があると思います。  
理由は、もっと、  
サイズを小さくした  
いという場合がほと  
んどです。

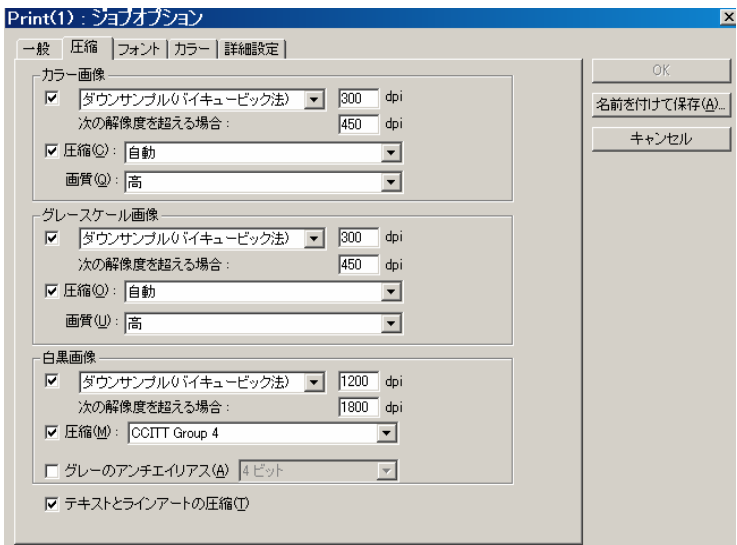
そのときには、ど  
うするのかといえば、  
フリーの【Acrobat】  
の【変換設定の変更】



画面で、【Print (1)】のジョブオプションの解像度を  
小さくするのだ。

今は、解像度を300dpiに設定していますが、こ  
れを、200とか、150、75などに変更して、ファ  
イルサイズがどの程度変動するのか、試してみよう、  
よむ解ると思っておく。

また、【圧縮】のタグでも、解像度を小さく設定し  
なおして、画像の品質を落とし、ファイルサイズを小  
さくする事が可能だ。



画像が多い場合には、【圧縮】タグのそれぞれの解像度（カラー画像、グレースケール画像、白黒画像）を150程度にすると、ファイルサイズは、とても小さくすることが可能です。

ここでの注意点は、画像の解像度を落とすと、印刷などには不向きになるという点で、本そのものに貼り付けた画像が、ボヤボヤとしてきて、Webと同じようになってしまっていることです。

カタログや、読む方が、印刷する可能性のあるページは、画像の解像度をあまり小さくしないことをオススメします。

【Acrobat】の【変換設定の変更】の解像度を小さくする設定が終了したら、ワードデータをもう一度PDFに変換しなおさなければなりません。

また、本にするために、ファイルの挿入で、データをつなげたりする作業も繰り返さなければなりません。

ファイル数が多いと多少面倒です。また、しおりの設定をしたあとに、全部のファイルを差し替えたりするのも、結構手間がかかります。

アクロバットには、【文書】↓【ページの置換】という機能もついていますので、いったん作った本のデータを、新しいファイルに置換して変更するということも可能です。

あとは、自分でも工夫して、自分なりの本のサイズ目標などを定めて、なるべく短時間で目標値に近づけられるように、編集を繰り返してみてください。

電子本のファイルサイズは、本の将来にとって、大変重要な部分です。

ファイルサイズが大きいうりだけで、読者様はダウンロードができないからです。

CDで配布したりするのは、面倒ですから、ファイルサイズは極力小さく作るように注意を払わなければなりません。

しかし、ファイルサイズを圧縮しすぎると、画像がボヤボヤとして、電子本にまとめている特長を出し切れないのです。

Webサイトで十分じゃないかという話になりかねません。

ですから、作者さんが、作者さんのセンスで、画像の解像度と、ファイルサイズの目標を持ち、目標に向かって、本を完成させていかなければならないのです。

私は、電子本が、何メガが適正なのかという基準を、まだ持っていません。

作者さんが、自分で考えてみてください。

ちなみに、私が画集を作った時には、表紙の画像解像度だけ、少し高めに設定しました。

画像の解像度は、ファイルごとに変更できるので、表紙だけは、とりあえずキレイに表示させ、見た方に、『ああ、パソコンの本ってキレイ』と思って頂きたい。

だけど、全部の画像を高解像度にするど、本が重くなりすぎるので、残りのデータは、べつと圧縮するという方法を取ったのです。

画像の解像度が、ファイルごとに違っても、全然構いません。

PDFのPrint (XPの場合がStandard) というデータ変換方式は、原稿に忠実にPDFのページを作ってくれます。

逆に、フォントまで画像として変換してしまいますから、アクロバット上で、テキストとして検索したりはできなくなってしまう。

ここまで読んで頂いて難ですが、テキストだけの電子本であれば、もっと、軽く作れるソフトも安価にあるのです。

もう既にアクロバットを持っている方などであれば、とりあえず試してみるのも悪くないと思いますけど、作者さんは、どうぞ、ご自分のスタイルに最も適した方法で、電子本を作る検討も、事前に十分にしたいと思います。

\*\*\* 本の稼動をチェックする \*\*\*

最後に、本の稼動をチェックします。

一旦別名で保存しなおしたファイルを開きます。

そして、表紙から、順番に、しおりを押して、しおりと、本のページにズレや漏れ、画面全体が表示されているかどうかをチェックします。

しおりは、途中で章やタイトルを追加したり削除したりも簡単に行えますので、不具合を見つけたら、都度調整してゆきます。

また、本の稼動をチェックしているときに、文字の間違いを発見したり、本文を訂正したりしたくなります。

このときには、一旦ワードの原稿にもどり、原稿を訂正し、再度PDF変換して、PDFファイルを、【書式】→【ファイルの置換】で置き換えるという作業を繰り返すこととなります。

この作業は、思いのほか面倒なので、文書の校正は、なるべくPDFファイルに変換する作業の前に、集中して終わらせるというのをオススメします。

アクロバットでファイルの置換をすると、保存した後のファイルサイズは、メチャクチャ大きくなりますので、再度、別名で保存しなおし、余分なデータを整理します。

これで、貴方の電子本は、とりあえず、本の形に完成しました。

お疲れ様でした。

本が完成すると、かなり嬉しいです。

この本を読めば解ると思いますが、本作りの工程は大量にあり、メチャクチャ面倒だからです。

私はこの電子本の作り方を、かなり丁寧に作ったつもりですけど、私はパソコンのスキルが高いので、パソコン初心者の方には、理解できない用語を使ってしまうたりしているかもしれません。

その場合は、読んだ方は、ヘルプ画面を参考にしたり、ワードやアクロバットに詳しい方に、わからない部分を聞くといいと思います。

初心者の方には難しい用語でも、中級者以上であれば、ある程度理解できるはずだからです。

安く自分の本を作ろうと考えている訳ですから、作者さんが苦勞して、試行錯誤するのは当たり前です。

「こういう、面倒な部分を代行してくれるのが、出版社であり、自分が面倒な作業をしないために、自費出版というのは、高額な出版費を支払うわけですから。」

自費出版であっても、最近では、ワードで作った文書で入稿してくれとか、出版社の方に言われたりするじゃないですか。手書きは受け付けられないとかね。

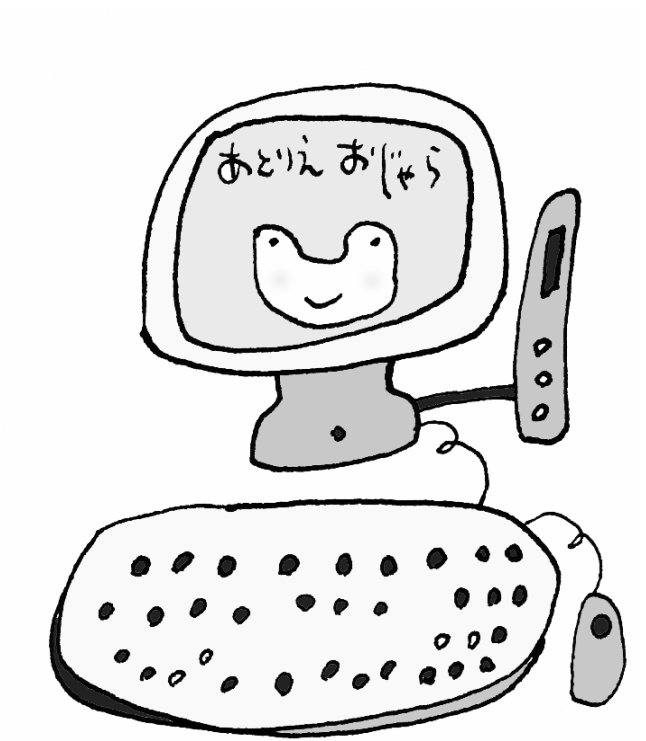
どうせワードで原稿作らなければならぬのであれば、もうひと頑張りして、アクロバットで本にしてしまえばいいのです。

自分で作れると、激安だわあ。

いい本ができるといいですね。読者様の本の完成を、心よりお祈りしています。

解りにくい部分などありましたら、メールにてお知らせいただければ、次回改訂版を作成するときに、併せて訂正させていただきますと思います。





—おはよう—

第四章

\*\*\* ーISBNコードを取るのかどうにか\*\*\*

アタシ的には、取得をオススメしますけどね。  
これが無いと、『本を出版した』として自慢できない  
っす。

まあ、金もかかる話だし、手続きもあるし、実際の  
所、自分の本はそこまでする価値があるのかというこ  
ともありますよね。

自分の本なのですから、自分で考えてください。

一冊目は、とりあえず、つけないで様子を見る。ー  
ISBNについては、一冊目、二冊目を完成させたら、  
まとめてつけるというつもりでも可なりです。

別にね、つけなくても、本は本なんです。それにね、  
これつけたから、直接、本の販売に結びつくってワケ  
ではないんですよね。

アタシの感想では、無いよりはマシって感じかなあ。  
百個も持っているから、気軽に本を出版できる喜びと  
いうのはあるかなあ。あ、本を出したいお友達に自慢  
ができますね。たはははは。

多少、本の価値が上がったような気がしますけどね、  
これは、気のせいかなと思います。

でもあれですよ、本を出版したからには、多くの方に読んで頂きたいですよ。

将来的には、書店や、ネット書店での販売も考えているのであれば、その時には、流通のキーになっているISBNコードは不可欠です。

『ついていないと、本の流通経路に乗せられない』などと、脅されること必至です。

ですから、ISBNに関しては、フレキシブルに考えましょう。

将来的に、書店や、本の問屋さんに売り込んだりするときにつけるというのでも構わないのです。

ISBNの登録をしたときに解ったことなのですが、出版者さんは普通、出版一ヶ月前には、このコードを登録してしまいます。

【今月の新刊】というのは、どうやって探しているのかなど、ずっと気になっていたのですが、この、【来月出版のISBN申請があった本のデータ】から探すことができます。

逆に、新しい本を発行するのであれば、発行一ヶ月前に、ISBN登録を済ませるといのが、本の認知を高めるポイントなのです。

私は、出版者に勤務した経験などが全く無いし、本もたいして読まないのです。あまり、新刊に関する興味も知識も無かったのですが、本を出版する側になり、『新刊出版』の瞬間が【本の命】だと思わされました。

日本の本の場合、本は、新しくないとダメなんです。本の業界では、『新刊』しか、話題にならないのです。

ですから、アタシが先ほどオススメした、『本を何冊か発行できる段階になって、ISBNを取得したらどうだ』という案は、あまりよろしくありません。

しかしながら、一冊作るのにも、メチャクチャ苦勞した上に、そんなに何冊も書けそうに無いという方も多いんじゃないかと思えます。

本を書くというのはできて、普通の人は、本を書き続けることは出来ないんです。

作家業というのは、そんなに甘くはありません。

自分でコードは取得したくないけど、どうしてもISBNの登録もしたいという場合には、自分で作った電子本を、自前で売り出す前に、ネットの本屋さんから出版してもらえないかを打診したりするのもひとつの手かもしれません。(完成本の売り込み)

文を書くのが好きな方を集めて、出版サークルなどを作り、そこでISBNコードを取得して、みんなが管理するという方法もあるかもしれません。(後で絶対モメる可能性があるし、中には、プライバシーの侵害を知っていて、過激な本を書いたりする人も出てくるので、あまりおススメしませんけど。)

イロイロと、考えられることをやってみて、やっぱり自分で取ろうということに決めた場合、ISBNの登録申請は、例え一年前に完成した本であっても、発行日を来月に変えて、新刊として、発行日の一ヶ月以上前に、ISBN登録するべきだと思います。

私は、この辺のことを理解していなかったのですが、第一冊目の本の出版日を、自分の誕生日に設定してしまいました。たはははは。今思えば無意味だったよなあ。まあいいか。作者誕生日に人生最初の本を発行。自前出版だからな。それもアリだろう。

この出版日の話は、私にとっては失敗談となってしまうましたが、ISBNコードを取得・登録しようとする方は『必ず新刊として、一ヶ月以上前に事前登録するのが最も効果的』ということを教えてあげることができました。何事も経験です。

新刊でデビューすると、どんないいことがあるのかといえば、本屋さんたちが、この、新刊情報のデータ

ベースにアクセスして、勝手に面白そうな本をピックアップしては、紹介してくれます。雑誌や新聞なんかと同じです。インターネットの本屋さんには、読者が新刊を検索できるようになっていくところもあります。

逆に、この、新刊コーナーに登録されないということとは、誰も見つけてくれないということと同じなのです。

\*\*\* 取得の手続き \*\*\*

インターネットのサーチエンジンで、『日本図書コード管理センター』とか、『図書コード』『ISBNコード』などという言葉を入れて、まず、『日本図書コード管理センター』のホームページにアクセスしましょう。(http://www.jpipa.or.jp)

ここには、ISBNについて、詳しく説明してあります。

ISBNコードを申し込もうと決めた場合には、ホームページから申し込み書をダウンロードして、メールで申請が可能です。

金も事前に振り込めど、ホームページや、申し込み用紙に書いてありますので、指示に従うと、あっという間に【日本図書コード 書籍JANコード実施の手引き】という本と、申し込んだ数のISBNコードが送られてきます。

アタシは、この手の登録作業とかの業務キャリアがあったので、手続きがたいして難しいとも思わなかったですけど、知識の無い個人で申し込むのは、かなり面倒かもしれないです。気合入れろよおおおっ。

もう、【日本図書コード 書籍JANコード実施の手引き】を何度も熟読しました。この本、めちゃくちゃつまらないんですね。たはははは。

電子本はもう完成しているので、ワード原稿の『本の裏表紙』や、『出版者情報（奥付け）』の欄に、ISBNコードを追加して、もう一度、PDFに変換し、データを差し替えます。

これで、あなたの本は完成です。  
おめでとうっー！

ところで、ISBNを取得したあと、もう一つ考えなければなりません。

それは、書籍JANコードをどうするのかがポイントです。



【日本図書館コード 書籍JANコード実施の手引き】というのを読むと、JANコードについても説明があります。

JANコードというのは、バーコードの1ジャンル。

本屋さんたちは、自分たちの物流効率や、売り場効率を上げるために、本にはISBNコードつけて、それをバーコードに変換して、本に印刷しています。

この、本についているバーコードが【書籍JANコード】なのです。

私は、ISBNコードを取った後、【書籍JANコード】をどうするのか考えなければなりませんでした。

私の場合、自分のホームページで本を販売しようと考えていたので、本屋さんの物流には乗せないのです。

うーむ。【書籍JANコード】には、費用もかかります。

どれくらい費用がかかるのかというと、三年に一万円の更新料がかかります。

ISBNコードと合わせると、3年ごとに2万円かかることになります。

一冊五百円の電子本を二十冊売らねば回収できません。

その他に、【書籍JANコード】のフィルムマスターというのを、専門の会社に頼んで印刷してもらわなければなりません。(いへうかかるのかは書いてませんでした。)

バーコードは線が繊細なので、インクジェットなどで印刷したりした画像では、機械でスキャンできないのです。

なるほど……。面倒だよなあ。金もかかるしな……。ということまで、書店での取り扱いが決定して、物流会社さんが、ぜひしても『書籍JANコードをつける』と言ってきたらつけるといっしょにと考えたのです。

おおっ。賢い選択だ。

この【書籍JANコード】というのは、ISBNコードをバーコード化しただけのものなのです。

ISBNが明記されていれば、レジで、手打ちで売上を立てることは、絶対に可能なのです。

販売や管理に時間がかかるので、本屋さんは、そういう本を取り扱いたくないだけです。全く取り扱ってくれないというワケではないでしょう。

例えば、お客様から注文があったら、取り寄せなければならぬし、取り寄せた本に『書籍JANコード』が無いからって、お客様に渡さないというワケにもいかないんです。

でも、お客様の注文を書店で受け付けてもらうためには、本のデータベースに、本が登録されていなければなりません。

本のデータベースに登録されているISBNコードが本についている＝本屋さんで本を探して、出版者に注文ができる

という仕組みなのです。

ですから、ISBNは、取得・登録するけど、今の所【書籍JANコード】は取得しないという方向で、私の自前出版は考えをまとめました。

貴方がどうするかは、貴方の本なんですから、お任せしますけどね。自前出版の本につけるのは、ISBNコードだけで十分だとアタシは考えます。

\*\*\* ISBNコードを登録する \*\*\*

ISBNコードの登録は、インターネットからできます。

私は、バリ島から、登録を行いました。  
インターネットって便利っす。

『日本図書コード管理センター』のホームページから、ISBN登録用のエクセルのファイルをダウンロードして、それに、本のタイトルや著者名、出版予定日などをインプットして、メールに添付して送信します。

データを送った後、入力項目が間違っていると、管理センターのお姉さんから、文句のメールがきちゃいましたけどね。初回データはお姉さんが直してくれました。

遂に、私の本は、ISBNコードを本に表示して、データベースにも登録されて、無事に本として、この世にデビューできたのでした。

前にも書きましたが、ここで本の登録するときのコツは、必ず新刊として、出版予定日も一ヶ月程度先に設定することです。大事なポイントです。

\*\*\* 国会図書館に本を納本する \*\*\*

【日本図書コード 書籍JANコード実施の手引き】  
【おま、

国会図書館への納本

ISBNの取得・本への表示と関係なく、わが国では出版物はすべて『国立国会図書館』に一冊納本する義務がある。(国立国会図書館法第二十五条、罰則第二十五条の二)

と書いてありましたので、アタシの本も、義務に従い、納本することにしました。

国会図書館への本の送り先は

〒100-8924

東京都千代田区永田町1-10-1

国立国会図書館

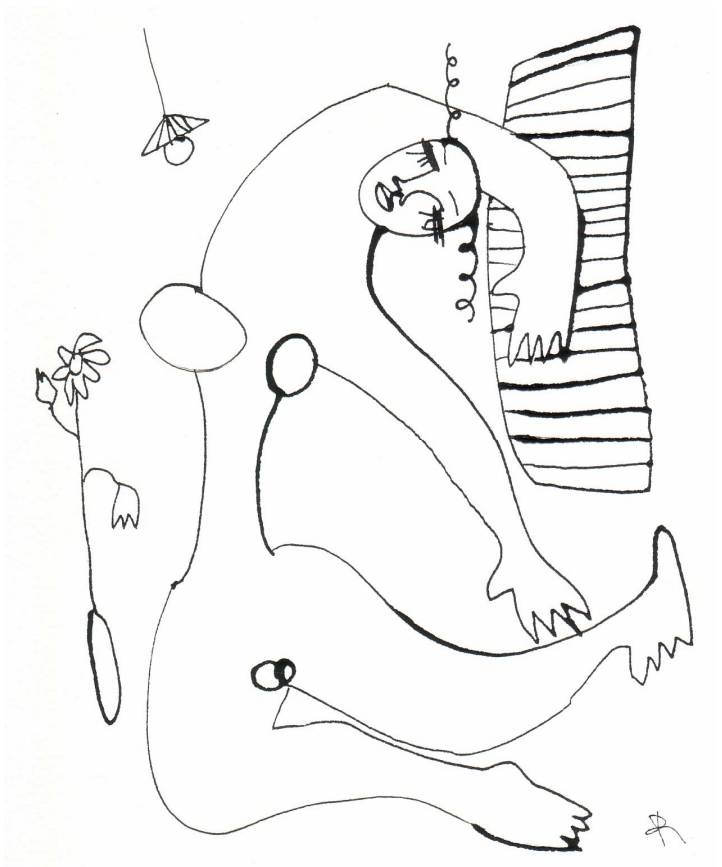
収集部 国内資料課 国内購入寄贈係

となっています。

ですから、ISBNの登録をしない場合でも、本を出版した方は、義務に従い、本を国会図書館に納本しましょう。

第五章

本の販売をどうするのか？



\*\*\* 本の販売をどうするの？ \*\*\*

確かに、電子本はできましたけどね、自分で持っているだけじゃ意味がないですよね。

読めない本は、存在しないのと同じです。

作者の方は、より多くの方に読んでいただけるように、自分で、販売の工夫をしなければなりません。(アタシのように、たいして売れていない本の著者が、エラソーに言える話でもありませんが・・・)

電子本というのは、本そのものがデジタルデータです。デジタルという性質を活かして、紙の本とは違う方法(インターネット)で配布を行うことも可能です。本屋に行かなくても、本が買えるなんて、画期的です。

私は、一人で自分の本を作成して、一人で販売しているのですが、もっと沢山売りたい方のご参考になるかどうかは解りませんが、ボチボチと、自分で電子本を作ろうと思っている方の参考にはなるかもしれませぬ。

私がどう考えて、どういう方法を取ったのかという程度しか説明できませんが、一人でも、ここまでは出来るという部分は、知っていただけたらと思います。

\*\*\* 電子本が紙の本よりも優れている点は、インターネットで配布できるという点です。\*\*\*

パソコンが無いと読めないという部分を除いては、コスト面、サイズ、劣化状況、色彩、流通方法、在庫スペースなど全ての面で、電子本の方が優れていると私は考えています。

現在の所、紙の本しか読んだことが無い人が多いので、電子本そのものの認知が十分ではありません。多くの読者様は、形が無いということに、大きな不安を抱いているように思えます。

それでも、パソコンの所有者の増加や、インターネット環境の改善などは、飛躍的に進んでいます。

レコードがCDやMDに置き代わって行ったように、近い将来、紙の本の多くも電子出版されて、安価に購入できるような時代になるでしょう。

この流れはもう、止めることはできません。

何故なら、家に、もう本棚を置かなくてもいいんです。家にある全ての本を処分できたら、どんなに家が広くなるか、想像したことがありますか？

素晴らしいでしょう。



\*\*\* 電子本の配布方法 \*\*\*

電子本には、現在2つの配布方法が存在しています。

一つは、CD-ROMやコンパクトフラッシュ等の、実態のある媒体に本のデータを焼き付けて、CD-ROMを【電子本】と読んで、紙の本と同じように本屋さん（もしくは、パソコンソフト店）で販売するという方法。

電子辞書や電子百科事典なども、このジャンルにあてはまります。

中には、フロッピーディスクに本を保存して販売している人もいます。ちなみに、私が今使っているパソコンには、フロッピーディスクドライブはありませんから、FDの本は、アタシには読めないということになります。

もう一つの配布方法は、インターネット上のショップで、インターネットで決済を行いインターネット上からデータを配布する方法です。（正確には、買った人が本のファイルにアクセスして、データをダウンロードします。）

電子本を扱う本屋さんは、調べると結構あるので、貴方は、本を作る前に、自分の本をどちらの方法で配布するのか、それとも両方の形式で配布するのかを決めなければなりません。

\*\*\* CD-ROM版で配布する \*\*\*

電子本をCDに焼くとなると、設備的には、CD-RWを自分で持っているか、お友達や家族に借りるかしなければなりません。

大量に作る場合でも、初回のデータは、CDになっている方が好ましいです。CD-ROM版を発売するのであれば、CD-RWは、必ず必要かなとアタシは思います。

CD用のラベルについても考えなければなりません。

CDのラベルは、CDに直接ラベルを印刷できるプリンタというのが存在しますので、それを買うのがベストです。

私の場合、当時はバリ島在住で、そのプリンタが手に入らなかったため、CDラベルは、著者の直筆サインにしていました。(本当)CDのラベルというのが、無かったとしても、電子本が読めないわけではないからです。

この選択は正解だったと思います。理由は、CD版は、値段を高く設定しているので、ほとんど売れなかったからです。プリンタ代回収するには、五百円の本を六十冊以上販売しなければなりません。

自前出版の場合、売るのはかなり難しいのです。それは、大手出版者さんの電子本だって、たいして売れているワケではなく、売るのが難しい状況は、自費出版本と全く同じだと思っています。

本六十冊分の代金と、ラベルが印刷してなかったとしても本が読めるということ勘案すれば、ムリせず、著者直筆サインで行こうという選択は、無収入に近い私の立場では、当然のことだと思っています。

でも、CDラベルのデザインも自分でできるのに、プリンタが無いという理由だけで、ラベルをつけられないというのは、実に情けない気持ちでイッパイになりますね。

東京に帰国してから、CDに直接印刷できるプリンタを購入し、ラベルは自分でデザインして、プリントしています。

自前出版予定の作者さんがここで考えることは、ラベル印刷できるプリンタを買うかどうかと、ラベルのデザインを誰にやってもらおうかです。

自分で作るのがベストですけどね。パソコンの勉強を、また開始しなければなりません。ワードアートがぁ。ちと厳しいかもなあ。出来なくは無いですけどね。ワードアートで作るのであれば、最初に、用紙サイズをCDの大きさに設定してから作成を始める作りやすいと思います。

【ファイル】→【ページ設定】→【用紙サイズ】を選択し、▼を押して、一番下の【サイズを指定】で、CDの大きさ(115センチメートル×115)センチメートルを指定し、OKボタンを押します。余白を1センチ幅に調整して、中にワードアートでラベルを入れていくことが可能です。

ワードアートでCDにプリントがちゃんとできるのかは、私にはわかりません。

それでも、やる気になれば、できないということはありません。CDジャケットも、この方法で作れなくはありません。画像ソフトをお持ちでないとか、使えないのであれば、他に選択枝はありませんから。

CDに直接ラベルを印刷できるタイプのプリンタを買うと、CDラベルを作れるソフトというのもおまけでついてくると思いますけどね。その辺、パソコン店で、調べてみるといいと思います。でも、操作方法は、自分でマスターしなければなりません。

CDのラベルには、シール式のラベルというのが安価に販売されています。私は、実は、シールラベルは持っているのです。

しかしながら、シールラベルが、CDの機械の中で剥がれる事があるという話を聞きました。

ネットで販売したCDのラベルが、お客様のCDの中で剥がれて、機械を破損させたら、どうなるかを考えました。弁償しなければならぬかもしれないかもしれません。僅かのコストを節約して、自分の格好つけのためにシールラベルを採用し、お客様のパソコンを壊し、こちらが弁償するのは、割に合わないと考え、シールは使わないことにしました。

CDラベルがなくても、本は読めるからです。

更に、作者さんは、CDジャケットについても考えなければなりません。どんなデザインにするのか、誰が作るのか、何に印刷するのか。

CDジャケットは、表紙デザインをCDのサイズに変更する程度で構わないと思います。でも、自分で画像サイズを変更できるスキルがあるかどうかにもよります。

写真を撮って、ワードアートでタイトルを作る程度の技しかない方は、表紙デザインをCDのサイズに変更できるのが不安ですね。

オタクなお友達に頼むのが一番かもしれません。

インターネットには、親切で、その上イラストが趣味という方も沢山いるのです。それぞれの掲示板などで、

本の表紙にするのCDジャケットデザインを作ってくれる方を募集すると、無料で作ってくれらるということもあるかもしれません。ああ、お礼はした方がいいと思いますよ。

え？自前出版本を贈りたい？うーむ……。

どちらにしても、CD版を発売するには、どこで誰が焼くのか、ラベルをどうするのか、ジャケットをどうするのかを、まず考えなければなりません。

次に、CD-ROM版の出版に、ハード以外にいくらかかかるのかも考えておきましょう。

基本的なコストとして、

- CD-Rを購入
- CDのラベルを印刷する場合は、インク代
- ジャケットをカラープリンタで印刷する場合、紙とインク代
- 封筒と切手
- シールラベルに宛名を印刷する場合は、ラベルシールとインク代
- お礼状
- 領収証
- ISBNコード代（つける場合）

などを作ったり、準備したりする業務が発生します。

完成したCDは、貴方がCDに焼いて、包装して、宛名を書いて郵便局までもってゆかねばなりません。（私も当然そうしています。）

それであっても、CDという形になっていることで、安心するお客様も多いんじゃないかと思えます。紙の本と同じように、商品には形があることに慣れているからです。

自前でCD版を配布するときに考えておかなければならないことが、もう一つあります。

それは、大量に注文がきてしまったときに、どうするのかということ です。

私は、バリ島関連のガイドブックなどに、自分の本の広告を出そうかと考えていたのですが、注文が大量に来た時に、(CDのコピーができる会社さんに外注に出したりできないので)バリ島在住期間には、対応できないことが解り、ムリしないことに決めました。

昔、私のホームページが、(たぶん)雑誌か新聞などに掲載され、一時的にアクセスが集中したことがありました。(一度に7万人位来てしまった。)その時は、ケーブルテレビ会社が、インターネットのテストを行っており、私は無料でホームページスペースをお借りしていたのですが、テスト中ということもあり、アクセスの集中に対応できず、ホームページは、消されてしまいました。

モニターですから、データを消されても仕方がないのですが、その時はもう、バリにいたため、追加データを送ることができずに、長期に放置したり、ケーブルテレビそのものを解約し、モニターをやめたりしたため、当時のアドレスなども一緒に消えてしまい、折角話題になって、人が集まってくださったのに、ほと



んどの方が、私のサイトを探すこともできなくなってしまったということがありました。

ホームページは、無料で発信している情報ですから、例えば、こちら側の事情で、発信できなくなったとしても、大きな問題にはなりません。『本』の場合は、注文者が決めた納期までに注文のあった数を納品しなければなりません。

東京に住んでいるのであれば、CDを「コピー」してくれる会社さんを探し、金額や、納期、ラベルやジャケットのことなども、予め見積もりを取っておき、準備しておくことができると思います。

多くの作家さんは、本作りで、一発当てようと思っ  
て始める訳なのです。一発当たった時にどう対応  
するのかを考えておくのは、当たり前のことなのです。

今の所、私の場合、電子本の話は、自分のホームペ  
ージを中心に展開する程度で、雑誌社や新聞などのプ  
レゼントとして配布したり、広告を出したりはしてい  
ません。あまり、バリ島と関係ないところで、話題に  
ならないように、気をつけています。

\*\*\* 自分のホームページで配布する \*\*\*

私はホームページのサイトオーナーですから、自分のネット ショップで本を販売しようと考えてるのは当たり前です。

すでに、ポストカードやイラストを販売するネットのショップがあったので、そこに、ブックショップを追加しようという計画です。

うーむ。この記述は正しくないですね。本音のところは、『こんなに、私が書いた読み物を読みに来る人がいるのであれば、本も売れるかもしれない。インターネットで本を販売して、ガッポリ儲けよう。』ですね。

私の場合、ホームページがスタートにあり、アクセス数が多かったので、一部を有料にしようと考えて、電子本の作成にチャレンジしてみただけなのです。

冷静に考えれば自前の本が、個人のホームページでそんなに沢山販売できると思っていたわけではありません。(絵もそういうので)

ですが、販売するのに、外にお金が出なければ、それはそれで価値があるのです。

何かを売るには、店を持ったり、在庫を抱えたり人を雇って、給料を支払ったりするのが普通です。

ネットのショップであれば、ホームページサーバーのレンタル料と、自分のホームページ作成技術をアップさせるだけで運営が可能となるのです。

私の場合、無収入に近いので、一人で販売までできて、なるべくお金のかからない、儲けられる仕組みを作ってしまうおうと考えたのです。

無収入なのですから、金を稼ぐための努力を惜しんではいけません。

自前の電子本を、自分のホームページで配布するというのは、

- 販売の手数や時間が最小で済む
  - 商品の在庫を持たずに済む
  - ジャケットプリント代や、CD代、送料などのコストが一切かからない
- という面で、CD版よりも優れており、構想としては、超激安な配布方法なのです。

売れるかどうか解らない本なのですから、コストをかけずに販売したいのです。

私の場合、必要なパソコンやスキャナー等の設備は、本を作る前から所有していたので、(本の作成費—SBNコード—出版当たり百八十円はほとんどタダに近い)リスクもゼロなのです。売れなくても、損をするわけではありません。

売っただけ、自分の儲けになるのです。

やらないより、やった方がいいに決まっています。

本を有料で、不特定多数の人にダウンロードさせるというのは、実は、とても高いパソコンのスキルや知識が要求されるのです。

たった一冊の本をインターネットで発売するだけでも、ネットでの決済方法の検討や、セキュリティ面の対応、Webページの設計など、いろいろなスキルを習得したり、仕組みを考えて、自分で作り上げなければなりません。

私は、パソコンが得意ということもありますし、大学の専門がマーケティングだったので、ネットでの商品の販売の流れなどにも興味がありました。

インターネットでは、さまざまな決済方法が存在しています。決済方法ひとつを検討するのであっても、膨大な時間、ネットショップを調査しなければなりませんでした。

例えば本が売れなくても、ホームページで商品売るスキルや知識があれば、食い詰めて帰国したとしても、すぐに就職も可能になります。

知識があれば自分で物販のお店を立ち上げて、ネットで開催することも可能です。

そういうネットショップの知識の習得も兼ねて、ネットでの本の販売にチャレンジしてみようと考えたのです。

おかげさまで、この本も執筆できました。たはは。売ってくれよ。頼むぜベイビー。

とりあえず、電子本を作ることそのものは、たいして難しくありません。ワードとアクロバットで、ちよろりと作れてしまいます。

ISBNコードだって、金さえ払えば、誰でも取得することができて、自分の本に付加できます。

しかし、本の販売まで自前となると、そんなに簡単には行かないと思います。

電子本を作るスキルと比較すると、ホームページを作るスキルの方が、高いような気がしますね。

デザインホームページなら、まあ、電子本よりは楽かもしれませんが、ナイスなホームページには、画像加工が自分で出来ることが不可欠だからです。

画像加工のスキルは、誰でも持っているわけではありません。多くの人は、素材と呼ばれる、人が作った画像を自分のホームページに貼り付けて、ホームページを完成させています。

本当です。

それと比較して、私は、画像加工が得意なのです。私のサイトは、画像のデザインや、画像の数がとても多いのが特徴なのです。

デジタル画像の加工ができるというだけで、金を稼げる時代なのです。（雇われた状態では、あまりやراتくはない仕事ではありません。）

\*\*\* 支払いの方法など \*\*\*

WEBでモノを販売するとき、一番心配なのが、お金を払ってもらえるかどうかです。

サイトオーナーを5年もやっている人と、ネット上の人は無責任で、信用がおけないと思えてきます。見ず知らずの人を信用してはいけません。

ですから、お代金は、前払いと決めました。

最近は、ネットショップでは、イロイロな決済専門会社ができてきて、値段もだいぶ安価に依頼できるようになりました。

それでも、月次に運営コストがかかってしまうので、本の販売額よりも、決済システムに加盟して、支払う金額の方が高額になってしまうという、リスクもでてきます。

売れるか解らない本の決済の為に、本の売上の何倍もお金を支払うというのは、冷静ではないですよね。

決済システムの運営費がゼロで、売れたときだけ、手数料を支払うという方法であれば、採用する価値はあります。

それでも、そういう決済会社さんは、物販を伴う場合なのです。商品の配送料をグループ会社で吸収できるというメリットがあり、ネットでの決済を安く提供できるという構造です。

インターネットで本を配信するというのは、物販を伴わないのです。

ですから、こちらの会社さんとは、まだ契約できていません。

一年ほど、手を打たずにいると、他の企業もどんどんとネット決済市場に参入してきて、今は、かなりお安くネット決済の代行依頼が可能な時代になってきているみたいです。

この辺の情報は、インターネット専門の銀行に口座を持っていると、先方が勝手に情報を送ってきてくれます。最先端の仕組みや、利用金額まで丁寧にメールで送ってくれるので助かります。

クレジットカード払いというのは、私のWebサイトでも、将来はぜひ、導入したいと考えています(ネット上でクレジットカードで買い物している商品のトップが、本だからです)が、私は、インターネットのセキュリティを信じているわけではありません。



この程度の売上しかないのであれば、銀行振込で十分なんじゃないかと思えてきます。クレジットカードを扱うよりは安全です。ですから、現在は、郵便振替と、銀行振込の二つの方法を採用しています。

金をかけずに工夫したところは、振り込める銀行口座を増やしたところですよ。

銀行口座というのは、千円とか預けるだけで、新規に開設できるのです。(最近は一万円必要らしい。)近所にある銀行という銀行の口座を開いて、更に、インターネットで振込みや残高確認を出来るように手続きを取りました。

インターネットバンクと言われるネット銀行にも、とりあえずいくつか加盟してみました。(個人的に、こういう仕組みになっているのか知りたいという好奇心があったからという理由もあります。)

バリ島にいるので、インターネットでの残高確認ができるのは、本当にありがたいです。

昔は、都市銀行のインターネットバンクは、使えるようにするだけで金を取られていたのですが、銀行側も便利なんですよ。たぶん。都市銀行のインターネット利用料が無料となったので、口座の種類を増やしたということもありました。

これが無料でなかったら、私のネットのショップはなりたたなかったと思います。

お客様が振り込んでくる銀行は、本当にバラついていて、取り扱える銀行の間口を広げた価値はあるなど、感じています。インターネット専門の銀行から振り込んでくる人は少ないなあ。都市銀行や、郵便局は有効です。

法人口座（私は、一人で有限会社も設立しているので念のため。）は、インターネット利用が有料なので、今の所使っていません。ネットバンキングの運営費が月々一万五千円と高価で、利用するだけで、会社が赤字になってしまふんです。（零細）

自前出版は、ムリせず、金をかけず、自分の出来ることを増やしていくというのが基本の進め方です。

ムリをしたら、必ず破綻します。

本が売れる以上に、運営コストをかけるべきではないのです。

・私のホームページでの販売の仕組み

私のネットショップでは、お客様の方で、私の本を  
買うことに決めたら、私の銀行口座に勝手に入金手続  
きを取り、入金後に申込書を送ってもらいます。

私の方では、インターネットで入金を確認したら、  
パスワードとアクセス方法をメールで送るだけです。  
(CDの場合も同じで、お申し込みがあった後に、C  
Dを焼いて郵送しています。在庫は持ちません。)

お客様は、メールの指示に従い、本を勝手にダウン  
ロードしてくれます。

こちら側では、『感想を送ってください』と、読者  
様にお願いするのと、ダウンロードが完了したら、配  
布した1Dで本のダウンロードサイトにアクセスで  
きなくすることくらいしか、作業は残っていないので  
す。

電子本のネット販売は、仕組みが完成するまでには  
時間がかかります。しかし、一旦仕組みが完成すると、  
ほんの少しの作業で販売まで終了できる上に、本の代  
金は、全額自分の収入となるというわけです。

頑張った甲斐がありました。

あとは、売れる本を書くだけです。たはは。

本のお申し込みを頂くと、メチャクチャ嬉しいっす。バリバリと書いて、一発当ててやるぜっ。

ついでに、知りたい方もいらっしやると思いますので、私が、ホームページの運営にいくら支払っているのかも書いておきます。(2005年7月現在)

- サーバルレンタル料は、七百メガバイトで月額二千三百円
- ドメイン取得料は、アメリカのサイトで直接取得して、ドメイン名、メール、ドメイン名から自分のサイトまでアドレスを飛ばす仕組みと併せて十年間で417ドル(1ドル120円換算で、月額417円)
- 通信号 ヒカリケーブル利用で月約7000円程度

合計で、月額約 九千七百十七円です。一万円位かかっている感じですね。

でもまあ、イラストの仕事とかも、この金額の範囲で受注していますし、ホームページサーバーのほとんどは、本の販売というよりは、他の目的(アートの創作日記やギャラリースペースとして)で利用されています。

\*\*\* CD版も販売する理由 \*\*\*

一人で販売まで行っている私にとって、一旦完成した電子本を、ネットだけで配信できるのが、一番コストがかからないのですが、私は、CD版も販売することになりました。

通信環境は、お客様によって違います。パソコンを昔からやっていたパソコン知識のある人に限って、古いマシンだったりもするのです。

そういう方にも、本を読んで頂きたいという気持ちはありません。しかも、CD-RWも持っていましたから、追加投資はありません。

物理的に、CDを買ったり、ジャケットを作ったりするので、同じ値段で作ることはできなかと判断し、インターネット版よりも、多少値段が高くてもいいという方には、CD-ROM版も販売する方針にしました。

高くても、CDで本を読みたい人にはCD-ROM版を買うというチャンスも作る。CD本体や送料の分は、お客様に負担していただく。これは、今の私にできる、最高のサービスです。

実際には、CD-ROMを焼いたり、ジャケットを作ったり、郵便局まで持っていったりと、かなり手間がかかります。家庭内問屋工業みたいだと思ったりして・・・。

CD部門は赤字かもなあ。

\*\*\* セキュリティの問題 \*\*\*

自分の本に、自分で、どこまでセキュリティをかけるのかという問題も、考えなければなりません。

・CDの場合。

CD-RWを持っていれば、誰でもコピーを作れてしまいます。

たとえば、「コピーしないまでも、回し読みくらいは、するかもしれませんが。」

でも、これは、紙の本でも同じですよね。『この前買った本さー、結構面白かったよ』『今度貸してね。』みたいな事は、日常起こっています。

買ってくださいった方が、自分のCDを人に貸す事を止めることはできません。

「コピーして、海賊版を大量に販売されたらどうしよう?」

自分でも何冊かしか売っていない本を、海賊版にする人がいるとは思えないっすよね。

海賊版を作る人は、人生を賭けて、犯罪で食べているんです。儲かるからやっているのであって、アナタの本に、そんな価値があるとは思えないですよね。(いや、失礼。でも、ほとんどの電子本は、それが現実だろっと思えます。)

そんなことに気をもむよりも、自分の作品が、バンバンとコピーされて、訴訟を起こさなければならぬほど、話題になったり、損害が出たりするような、質の高い作品を書く方に、集中力を向けるべきだと思います。

海賊版を作れなくする仕組みを、金をかけて導入するのは、本で儲かってから考えるべきことなのです。

・ネットで配信する場合のセキュリティ対策。

こちらも、万全ということではありません。

私の場合、ネットでのセキュリティ対策は、二つの側面から検討を進めました。

一つは、自分でどこまでできるのか。

もう一つは、金をいくらかけるのかです。

私が運営している、ネットショップのセキュリティは、自分で設定したこともあり、私自身も、問題が存在していることを理解しています。また、解決方法も解っています。それは、セキュリティ対応を強く出来る、強固なサーバーにシフトするということです。

でも、コスト面からも考えなければなりません。



セキュリティを強化するためには、今のサーバーから、もっと値段の張る、別のサーバーに引っ越さなければならぬのです。

そうすると、ネットにかけている月次コストも増加してしまいます。セキュリティを強化するというのは、月次コストが増加することなのです。

本は、出版したときには、多少販売できますけれど、古くなってしまつと、全く動かなくなつてしまいます。そういう商品だということが解っているのに、運営コストが高い方にシフトするべきではありません。

固定費が増大すると、Webサイトの継続さえ断念しなければならなくなるかもしれません。

しかも、現段階では、どんな強靱なセキュリティをかけたシステムであっても、悪意を持って、データを盗もうとしている人の進入を防ぐことはできないのです。

私的には、現在のセキュリティに問題があることも、どうすれば改善できるかも理解しているのに、セキュリティを今以上に強固にしないという方針で進めることにしました。

一応、セキュリティは、かけているんですよ。

パソコンレベルが、超上級でないと、盗むのは難しいと思います。

そういう人には、ホームページをスタートしてから5年経っている現在でさえ何名かしか会ったことがありません。

アタシの本をそこまでして盗む人もいないでしょうしね。たははは。

私の場合、セキュリティに関しては、コスト面、危険度、危険の頻度などを総合的に考えて、今の方法でも、九十%は大丈夫だということにきているのです。

しかも本は、まだ二冊しかありません。ですからね、今は、金のかからない方法を採用しているということです。

自分の本の数が増えたり、他の方の本を扱ったりする場合には、考えるかもなあ。

他の方の本の出版の代行かあ。

やらないだろうなあ。きつと・・・。

人の書いた本の内容に責任持つのは嫌だもんなあ。安い金で出版を引き受けて、書いた方が裁判に負けてアタシまで罰金や禁固刑じゃたまらんもん。

\*\*\* 人は、本をどうでも買っているのか \*\*\*

自分がどんなに頑張ったつもりでも、自分のホームページで自前出版の本を売る活動を繰り返しても、【インターネットの自分のサイトで販売している自費出版本なんて、金払ってまで読みたくない】と思われるだけだということも、知った方がいいと思います。はははは。

アタシのサイトに来ている人も、みんなそう思っているだろうなあ。

アタシだって、他の人が書いた電子出版本なんて、買ったことないっす。(私は、電子本は三冊出版しましたが、今まで、電子本は、一冊も買ったことはありません。本を出版するまでに、ネット書店さんで売られている本の立ち読みを数回しただけでした。)

そういえば、最近読んだ本といえば、ネットからタダでダウンロードした【種田山頭火】の【草木塔抄】。

デジタルの本は、やっぱりタダでないとなあ。

でも、作った本は、売らなくてはいけません。タダでいいのであれば、Webページとして配信するので十分なんです。本にする必要がありません。

電子本の作者さんは、タダの本との戦いをしなければならぬということなのです。

うーむ。過酷。

ですが、調べてみると、ネットで本を買っている人も沢山いるのです。

自前出版の方が、本を売りたいと思ったときに目をつけるべき所は、フツウの人が、どこで、本を買っているのかを知り、その本棚に並べることです。

どんな本であっても、フツウの本屋さんに扱ってもらうことによって、買う側のお客様が安心するということはあると思います。

多くの読者様は、本が自分で作れるとは、まだ思っていないですね。

出版に対する知識を、多くの方が持っていない、もしくは、間違っていて理解しているのです。

一般の書店に並んでいさえすれば、ちゃんとした出版社が出版している本だと、勘違いしているということなのです。

ですから、目指すべきは、自分の本が、フツウの本屋さんで扱ってもらえることであると、私は考えています。

モチロン、私も狙っています。勝負やでーっ。

\*\*\* 電子本の販売方法のまとめ \*\*\*

実際に完成した電子本は、次のような形で販売することが可能です。

・お友達に直接販売する

嫌われたくない場合には、お友達には差し上げた方がいいと思いますけどね。どうせ、たいしてコストはかかっていないんだし。

それほど仲も良くない人の自費出版本を買わされたりするのは、不意極まりなく、アタマにきますよね。ま、いいんですけどね。みなさん、貴方の出版を、喜んでくれるとは思いますが。お友達ですから。

・近所の本屋さん置いてもらう

近所の本屋さんには、結構フレキシブルです。頼むと、とりあえず置いてくれたりするみたいです。でも、あれっすよね。その場合、ISBNは、つけた方がいいかなと思ったりはします。

売上を立てる時に、レジに入れたりするからです。(無くても大丈夫な可能性は高いです。近所ですから。まず、打診してみるのがいいかもしれません。)

## ・Webサイト上での販売

CDでも、デジタルデータであっても、自分のホームページが無いと、インターネット上で、自力で電子本を販売することはできません。

パソコンがワード以上に出来る方は、更に、自分でホームページを作って、そこでも本の宣伝をしたりすればいいと思います。(ホームページをワードで作っている人、知ってます。)

情報の間口が広がれば、検索で引っかけられて流れてくる人も増えるからです。

ホームページを作るスキルは、一度覚えてしまえば、永久に使えますから、はじめは、ちょっと苦労しても、マスターする価値があります。

電子本を作るスキルと、ホームページを作るスキルを両方持っている人は、今のところ、まだ多くないの  
で、日本であれば、食いつばべれることはないでしょう。

ホームページを持っているのであれば、すべにでも、シヨップを作ることが可能です。

しかしながら、本をネットで販売するというのが、ホームページを自分で作るかどうかというのは、別な問題です。

ホームページというのは、作るのに向いている人と向いていない人がいるみたいです。何度もチャレンジしているのに、どうしても完成しないのだそうです。

自分で作れない場合でも、ホームページを作れる、オタクなお友達がいるでしょう。そういう方に相談したり、ちょっと払って、作り方を教えてもらったりするといいかもしれません。

でも、ネットショップの自力構築は、ホームページを持っている程度の人だと、作れないかもなあ。掲示板を自分で作っている人ならなんとかオーケーかも。もう少し、フツターのホームページよりも、高度な設定ができる必要があります。

折角本を自分で作ったのに、ホームページを人に頼んで作ってもらったりしたら、結局高いものになってしまいますよね。ムリしちゃいけません。

作家さんは、自分でできることと、出来ないことを、冷静に考えて、どの方法が最善なのかを考えて、進む方向を決めなければなりません。

他の人たちはどうしているのかを参考にすると、いいアイディアが浮かぶこともあります。

自分で作るかどうかは別にしても、電子本なので、必ずネット上で買えるように仕組みを整えておくというのをオススメしておきます。

理由は、ネットのショップに来るお客様は、必ずパソコンを持っていて、本を読む設備が整っているからです。

パソコンを持っていない方に電子本を売ることは不可能です。



## ・ネット書店での委託販売

ネットで電子本について調べると、電子本は、電子本を専門に扱う【ネット書店】という所で、委託販売もしてもらえることが解ってきます。

ネット書店が普通の書店と違う所は、ネット書店は、本のデータを、インターネット上に置いてくれるのです。

ネット書店の本のライブラリに、自分の本のデータを追加して並べてもらうのです。

お客様は、ネット書店に金を払い、データをネット書店からダウンロードするという仕組みです。CDを輸送したりする、物流は伴いません。

ネット書店さんは、お客様がダウンロードした数を数えて、作者に、委託料を差し引いて代金を振り込みます。

そういう本屋さんを探し、委託料を支払って、ネット上の書店に、自分の本を置いてもらうという方法は、ホームページが自分で作れない方にも、現実的な方法だと思います。

手数料（私が知っているのは売価の四十%程度）を引かれてしまいますが、ネットショップのこと、販売

のことや、決済方法など、全てを代行してもらえるので、楽ちんです。

私が、どうしてそういう書店で委託販売しないのかといえば、私のサイトへのアクセス数の方がネットの本屋さんのアクセス数よりも多いからです。

自分よりもアクセス数が少ないネットの本屋さんで、しかも、他の多くの本と混ざった状態の本棚に並ぶのでは、自分の本を探してもらうまでに、膨大な時間がかかるし、もっと面白そうな他の本に流れてしまいかもしれないじゃないですか。

ただ、ネットの本屋さんは、クレジットカードで支払いができたり、電子本に特化した、決済のシステムを利用できたり、本の宣伝にも力を入れてくれます。

安全な決済方法の導入は、ホームページを持っていたとしたり、個人では、頭を悩ませます。サイトのセキュリティにしたり、自身がコストをかけずに出来る範囲というのは、とても限られてしまうのです。

「データ」という形で在庫を持たずに、電子専門書店に並ぶので、この方法の販売コストは、メチャクチャ安く済むのです。問題は、電子本に慣れていないお客様は、この本屋に来ないということですね。

それでも、ホームページを自分で立ち上げる労力に比べて、圧倒的にカンタンです。一度作ってしまった電子本は、本屋さんに手数料を払ったとしても、売れたら、確実に自分の収入につながるのです。売れなければ、収入はゼロなのです。

きちんとした書店さんは、委託の方法や、ダウンロード手配とか、手数料とか、そういうのをインターネットできちんと公開しています。

また、取り扱いに関しては、契約書を結んだりしていると思います。

自前出版しようとしている方は、ネットの電子本の本屋さんというのを、いくつも調べてみて、扱っていただけるように、ご自分でコンタクトを取ってみるのがいいと思います。

## ・無料のネットショップと効果

本をWebで販売するチャンネルとして、もうひとつ、無料のネットショップというのがあります。

私も二箇所程登録していますが、そこから流れてきて本を買ってくださった方は、一人もいません。

私の本が、バリ島に特化されているということも原因です。

特殊なジャンルの本なのでから、ターゲットをもっと絞込み、もっと効果的な場所で展開するべきだと気づきました。

たとえば、バリ島関連のホームページなどで宣伝させてもらったり、アクセスの高いサイト様のトップページやガイドブックなどに広告を出す方が、不特定多数の人がアクセスするネットショップに出店するよりも、効果が高いと私は考えています。

小説などの作家さんなのであれば、本好きな方の集まるサイトとか、無料の小説を大量に扱っている、有名なサイトというのが必ずありますから、そういうところ、日頃から出入りして、無料の小説なども、ちよろちよろと提供したりして、まず、知名度をあげておきます。

そうして、電子本になったときに、ポソット、宣伝  
してみる。みたいな方法です。

大々的に広告すると、ネットで嫌われてしまいます  
から、ポソット、小さく宣伝するのがポイントです。

### ・アマゾンでの販売

ネットの電子本専門書店と、本やCDを移動させる  
タイプのフツの本屋さんというのは、カテゴリーが  
違うのです。(アマゾンは、ネットで展開していると  
いうだけで、流通の方法は、フツの本屋さんに分類  
されます。)

私はアマゾンには、まだ打診していません。

私が、バリ島にいるということもあり、CDに大量に  
注文が来ると、対応ができないからです。

日本に帰国して、CDのラベルプリンタを購入し、  
CD-ROMを安価にコピーしてくださる会社さんを見  
つけたら、売り込んでみようと思っはいます。

アマゾンのように、一般の紙の本を中心に扱う書店  
さんでは、必ずCDなどの形になっていなければなり  
ません。注文をアマゾンが受け、商品をアマゾンの流  
通経路に従って移動させて、お客様まで配達するとい  
う販売方法です。

たぶん、何枚か、在庫のCD本を、アマゾンに委託することになるんじゃないでしょうか？注文が来たらオーダーしてくれるというオンデマンド版として扱ってくれる可能性も無いわけではないと思います。在庫を置くとなると、先方もコストがかかるからです。

私の場合、アマゾンの要望があれば、書籍JANコードもつけるかもしれませんが。

あそこは、音楽系は個人版も結構扱っている歴史があるので、書籍もそういった間口があるのだとすれば書籍JANコードなど、細かい指示はしてこない可能性も高いです。（調査の結果、書店さんと同じ販売網みたいなので、取次ぎでの取り扱いが必要ということですよ。）

どちらにしても、私にとって、この本はまだ三冊目なので、大手書店（取次ぎ）への売り込みは、もう少し、本の数が増えてからでもいいような気もしています。

こちらが提案できる本の数がまとまっていれば、売り込まれた企業（大手書店流通網）さんも、そんなに面倒がらないと思いますけど、自前出版の電子本を一冊一冊アプローチされると、（たいして売れないことは、過去の実績が証明してくれているし、手間だけは増えるので）対応がけんもほろろで、嫌な思いをするという可能性だってあるからです。

どちらであっても、自分の本のターゲットが集まる書店であれば、置いてもらう価値はあります。販売チャンスが増えれば、売れる可能性もアップするからです。品のいい書店というのは、限られますけどね。はは。

自分でも、こまめに、電子本を販売してくれるサイトにアクセスして、電子書店・一般書店の違いや特徴を研究するというのをオススメします。

たぶん、次に書く、本の間屋さん頼めれば、アマゾンにも自動的に扱われる可能性があります。(アマゾンは、巨大なので、独自ルートという可能性もあります。)

・本の書店流通経路に乗せるには

本の間屋さんのことをご存知でしょうか？私も、本を出版するまでは知らなかったのですが、関西と、関東の二つの大きな取り扱い店（本屋さんの間屋さん＝書店の流通の中心）があるのだそうです。私は関東なので、『トーハン』という本の流通会社さんにコンタクトを取ったことがありました。

（このような、本屋さんの間屋さんに扱ってもらいたい場合は、CD版を準備しなければなりません。）

問い合わせをした経緯はこんな流れです。

私の本は、電子本なので、インターネットで販売したいと思い、ヤフーBooksの検索システムに、自分の本が引っかけかかってくるというのと考えたのです。（誰だって、そう考えると思いますけど）

私の本は、バリ島とか、画集とか、カテゴリーが特殊な本なので、本を探している人が、『バリ島』とか、『画集』などと検索をかけたときに、私の本が検索結果のリストの中に入るのが、もっとも効果があるからです。

そこで、ヤフーBooks さんに、メールを書きました。



『電子本を出版したのですが、貴検索エンジンに引  
っかかるように本を登録するには、どのようにすれば  
いいのでしょうか?』と。

そうすると、ヤフーBooks さんからは、『関東の、  
本の物流の中心になっている、トーハンさんという本  
の流通業者さんが取り扱っている本のデータベース  
を利用してあるので、トーハンさんに扱っていただく  
ようにすれば、自動的に検索エンジンにひっかかって  
きます。』というご返答でした。

そこで、次に、トーハンさんに、私の本を取り扱っ  
て頂きたい旨をメールしました。

そうすると、

『有限会社おじゃら様の会社概要

発売商品の企画書

今後の出版物のご予定

をマルチメディア仕入れ担当に送ってください』と  
いうご返答を頂きました。

まだ、次に出版する予定の本がなかったこともあり、  
CDのラベルに直接印刷するプリンタを持っていな  
いということもあり、もう少し本を増やしたら、この  
企画書というのを書いごうかなと思っています。

もう、発行から一年も経った本なんて扱ってもらえない可能性もありますけど、何もしないよりは、マシだからです。

私は、ヤフーBooks さんや、アマゾンさんの検索エンジンで、自分の本が検索できて、本屋さんから直接注文を受けられれば、他のネットの本屋さんでは、販売する必要がないと考えています。(キッパリ)

そうして、本の一流の物流会社さんに、扱ってもらえる本作りというのが、私の目標でもあります。

今の所、自分で、本の販売チャネルを増やしてしまったり、雑誌や新聞に取り上げられた場合に、本の申し込みが集中してしまい、一人で対応できるのかどうかということを、本当に心配しています。

バリ島在住という距離にも、問題を感じています。

日本に帰国することになれば、CDの作成費用などを値下げできますし、申し込みが集中しても、近くでまとめてプリントアウトしても大丈夫なことも可能になりなるとか対応できると考えています。

安くできれば、お客さまにも、もっと受け入れてもらいやすくなりますし。

どちらにしても、いい本は、必ず世に出るという信念を持って、これからも、私の本を作っつてゆこうと思っつています。

\*\*\* 実際の所売れているのか? \*\*\*

まだあまり売れていないというところですが、今の所の感想です。

でも、販売数はゼロではありません。

私と全く面識の無い方で、私のホームページのファンの方が、何名か買って下さいました。有り難いことだと思い、心より感謝しています。

お買い上げになってくださった方は、インターネットでのダウンロードがほとんどです。(CD版は、手間がかかるので、インターネット版よりも、千円も値段を高く設定しているのが原因です。)

売れていない理由は、ファイルサイズが重い(各十メガバイト程度)ということ、電子本を買ったことが無いの方がまだ多くて、どんな感じかつかめていないということ、ブロードバンド時代といっても、まだまだ、加入している人が一部であるなどが考えられると思います。

本の内容にも問題があるのかもしれませんが。読者様は、南国ムードが広がるエッセイなどよりも、もっと、実験や、バリ島滞在での被害の実態などを、詳しく知りたいと思っていますからです。

殺伐としすぎてて、あまり書きたくないんだけどなあ。

本をお買い上げくださった方の多くは、感想を寄せてくださいます。私は、感想も、ホームページで紹介して、本のPRに利用させていただいています。

一番初めに出版した二冊の本には、完成度に差がでてしまいました。

最初は『バリ島』で暮らしているというのが、私の作品の売りなので、バリ島に頼って、本を販売しようと計画しました。

『バリ島』が売りのエッセイを、バリ島ファンの方を買っていただこうというのが出版の目的だったのに、息抜きに作成した、デジタル画集『素描』の出来の方が、断然ヨカッタのです。感想が、『画集』に集中していることでも、それは明らかです。

『バリ島★ぶうげんびりあ』が、悪かったのではないのですが、『素描』の出来がよかったです。

まだ、絵をたいして売ったりもできていない画家の画集なんて、誰も買うとは思えなかったので、二冊の本は、抱き合わせにして、割引をつけて、セット販売とすることになりました。

本を売るために、イロイロと考えてはいるのですが。私のホームページを見てくださった方々の多くは、『バリ島』という言葉で検索に引っかかってきて、流れてきているのですが、皆さん、絵も見てくださっているようです。

割引もあるので、ついには『素描』も買ってみたが、『素描』の方が、好きだという感想ばかりで、それを読んだお客様が、エッセイの出来が良くなかったと思っているのかもしれない。

好きなことだけを集めて、無欲で作った作品の方が、一発当てようと思って作った本よりも、出来がいいのは当然です。

本作りというのは、深いなと思わされました。

抱き合わせ販売の成果なのかどうかは知りませんが、一冊だけ買うという人は、今までで一人もいませんでした。

私のホームページでは、『電子本の立ち読み』というのもできるようにしています。

これは、ネットの本屋さんも、立ち読みの機能をつけているから、それを真似したのです。

立ち読み版へのアクセスは、『バリ島★ぶうげんびりあ』がだいたい一ヶ月で二百人から二百五十人位。

『素描』が百人前後です。

アクロバットリーダーを持っていないという読者様もいますので、H-T-M-L版の立ち読みページもつくってみました。

\*\*\* 電子本を読んで頂くための環境作り \*\*\*

私は、画像を作るのが得意なので、無料のブックカバーというのをPDF画像で、ホームページで配信しています。表向きは、無料ブックカバー、実は、購入してくれる可能性のある方の、本を読む環境を整えてゆく仕組みなのです。

私のサイトに来ている方の多くは、ブックカバーをダウンロードして、自分や会社のプリンタで印刷して使って下さっています。本当です。

読者様は、私の絵も好きなのです。ファンの方と、絵が接する頻度を増やすことによって、絵に対する好感度も上げられます。

アクロバットリーダーがないと、ブックカバーは開かないので、無料のブックカバーをなんとか使おうと読者様も、頑張っって、これまた無料のアクロバットリーダーを、長時間かけてダウンロードして下さいます。

無料のブックカバーが存在するだけで、読者さまのパソコン環境が、電子本を読む環境に改善されるのです。

PDFファイルを開ける方は、次には、立ち読みもしてゆきます。どんなものなのか、興味はあるのです。



でも、金を出してあげば、買いたく無い。もしくは、他の本が出てからにしたい。みたいなどころがあるんじゃないかと思えます。

この、お客様の読書環境を整える仕組み、小説を書いて t-t-i-m-e で、小説を配信する場合にも、応用できます。

いくつか、無料のエッセイなどを、t-t-i-m-e で配信するのです。

インターネットのお客様はタダのものに集まる傾向が高いです。ですから、無料の作品の配布をするだけで、t-t-i-m-e のソフトをダウンロードし、お客様のパソコンで電子本が読める環境に整ってゆくのです。

私は、インターネットで俳句を無料で教えていただいているので、お礼に、『電子句集』を一冊作ったことがありました。句集は、無料で配布する予定でしたので、校正を兼ねて、テスト版をウチのサーバーに一時的に置いた事が有りました。

アクセス解析を見ると、なんと、一ヶ月で、千人の人が、俳句の本をダウンロードしていたのです。はっきりいって、メチャクチャ驚きました。

アタシの本も、これくらい立ち読みが来ればなあと、思わないわけにはいきませんでした。

無料だったということもあり、見慣れない電子本と  
いうこともあり、俳句集（作りたいと思っている人が  
多いので、関心が高い）ということもあるのだと思  
いますが、アタシは、かなりショックでした。

ただだと、こんなに人が集まるのです。

\*\*\* 投資コストを回収できたのか? \*\*\*

本を作成するのにかかった投資金額を回収できたのかといえば、微妙な所ですね。もともと、金がほとんどかかっていないのですから、売れた分だけ、儲かったといえなくもありません。ネットの出版社さんに発行を依頼したりするよりは、利益率が高かったです。原価タダだしなあ。

収益につながらなかったとしても、本作りに金がかかっていないので、友達などに、ムリに売ったりもしなくて済みます。

家族や親類縁者にも売ってないし……。(爆)

そして、驚くべきことは、本をきっかけに、仕事の依頼が来たということです。

私のつたない画集やエッセイではありませんでしたが、ゼヒ存在を知って欲しいと考え、出版社を経営している友人に、本にアクセスするードを、お贈りしたのです。

それを見た彼女から、彼女が発行する月間紙の表紙を担当してみないかという、仕事の依頼を頂きました。

画家を目指す私ではありますが、修行中の身。絵を描いて、お金を頂くのは、この仕事が初めてです。

ありがたいことだと思えます。お陰さまで、一人で設立した有限会社も一発逆転黒字となりました……。

(注：アタシの会社は、今の所、給料無給つす。) 仕事の依頼も、表紙のイラストの納品も、全てインターネットで行います。便利な世の中になりました。

私が、もし、出版者の友人に、電子本を贈らなければ、この仕事もこなかったのです。

電子本という形にまとめなければ、私の絵を見ていただくこともなかったことでしょう。

そういえば、表紙の話とは別に、電子本に関する取材も受けました。確か、『自費出版が解る本』とかいう、本を出したい人向けの本を作るために、情報を集めている方からのインタビューでした。

『ISBNコードまで取って、電子本を一人で出版した人は見たことがない』というのが、取材を申し込んできた理由です。

私は、こんなにカンタンに作れるのだから、PDFの電子本は、日本ではもっと普及しているのかと思っていましたが、まだ誰もいないのなら、作り方や、考え方の本を書く価値があると考えて、この本の執筆を開始したのです。来年になれば、さすがに、誰か出すでしょうから、今のうちに書いてしまおうと思いい立ち、執筆することにしたのです。

この手の本は、一番乗りというのが、価値があるんです。次の本は、みんな、パクリ野郎が書くわけですからね。うふふ。

本は売れなかったとしても、電子本の出版をきっかけに、お金になる仕事か、舞い込んでくるというものは、なんか解ってきました。

アタシが今狙っているのは、大学の非常勤講師です。ホームページの作り方と、電子本の作り方を説明できるので、この本を持参し、学部の枠を越えて選択できるタイプの授業提案として売り込んで、非常勤講師として、金を稼ごうというワケです。電子本を作るスキルは、就職に有利なんっす。就職難時代にピッタシの講座だわあ。

なるべく家から近い大学を選ぶことにしよう・・・っつ。

そういえば、本の取材の方は、金払ってくれなかったなあ。

出版社よ、本を出している人に対して、タダで文を書かせるなよ。人にはタダで頼んで、自分だけ儲けるというのは、やっぱり、真っ当じゃないもんなあ。泥棒と大差ないぜ。

日本の出版業界は、末期状態かもなあ。これじゃ、作家が育たないのも仕方がないもんなあ。まあいいか。アタシは、本は、ほとんど買わないから、彼らの売上に貢献することもないしな。

出版社への文句は、この辺にしておきましょう。

本の存在というのは、偉大です。

本そのものが売れなかったとしても、本が、本の収益以上の仕事をもたらしてくれるのであれば、それはもっと価値があります。モノを買わなくなった個人にポチポチ本を売ろうとするよりも、収益をあげている所から、仕事を受ける方が、ずっと、大きな収入につながるからです。

この本を読んでみて、電子本完成までの工程が複雑なのに、ウンザリした方も多いと思います。

販売することを考えると、これまた、どうしていいのか、サッパリ解らなくなってしまった方も多いと思います。

それでも、本を出版してみませんか？

自前出版なら、売れなくたって、対してガツカリしませんよ。あまり金がかかっていないですからね。

ポチポチと、できることを一つずつ増やしてゆけば、必ず実現できます。

アタシに出来て、貴方にできないことは一つもありません。

『いい本は、必ず読まれる』

私には、信念があります。

もし、読まれないのだとすれば、それは、自分の文が、まだ未熟だからです。

それは、『内容がおもしろければ、必ず人は集まってくる』という、Webサイトの運営と同じです。

『価値のある絵は、必ず売れる』というのと同じことです。

有益な情報には、勝手に人は集まってくるし、それに相当する対価を支払っても手に入れたと考えるのです。

この本を読み、電子本を出版までこぎつけた方がいらっしやいましたら、ぜひ、私にも、この本の感想や、出版した本のことをお知らせください。

お送り頂いたご感想は、次の、新しい本作りの参考にさせていただきます。



\*\*\* あじがき \*\*\*

最後まで読んでくださったことありがとうございます。お返ししました。

アタシも、この本は、たいして出したいと思って作り始めたワケではないのですが、作り始めたら思いのほか、内容が膨らんでしまい、ページ数が増えてしまいました。

当初は三十ページ位で完成すると思っていたのに、本作りは、そんなにカンタンではなかったと思い知りました。

私がおもしろくもない、たいして売れそうにもないこの本を出版しようと考えた理由は、たった一つ、『ISBNまで取得して、個人で電子出版をした人は初めてみた』という、本の取材依頼がきっかけでした。

ISBNは、誰にでも取得できるし、取得するメリットはあるにも関わらず、認知が低いことにも驚きました。

私が電子本をワードで作っていると話すよ、驚く人も多いですよ。

ワードや、アクロバットは、オフィスに広く普及していて、慣れている方も多いのです。これで、カンタンに安価に本が作れる方法があるのであれば、どうやって作ったのか知りたい人も多いと思います。

しかも、アクロバットリーダーもかなり普及していて、このタイプの電子本を読む環境も整いつつあるのです。

しかしながら、本を出版したい人が、こんなに沢山いるに、本作りの段取りに関しては、誰も教えてくれる人がいないのが実情です。

出版社さんが、情報を握っていて、教えたくないからですよ。作者さん自身に本を作られたら、出版社さん、益々、経営が大変になってしまいますから……。自分の首を絞めてしまうような秘密を絶対に公開したくないんです。

私は、出版社でもないし、試行錯誤の上、自力で本を作れるようになったので、その方法を教えてあげても全く問題は無いのです。

そして、人の出版を請け負う予定もないので、損をするわけでもありません。

自前で作って、自前で販売するとなると、たいして売れないという現実もあります。でもね、出版社に頼んだからといって、大量に売れるというワケでもないのです。

それは、誰にも解らないのです。

作家を目指す多くの方が、知りたい情報なのに、出版業界の方が、公開したくない情報（自力で作家デビューする方法）を扱った本であれば、電子本であっても、買ってくたさる方も少しはいるかもしれないというのが、この本の出版の理由です。

【自前出版本】を作っていて一番時間がかかったのは、初回の本でした。文や画像を取り込むという以外にも、ページレイアウトや、ページ番号、見出しの変更など試行錯誤を繰り返し、ムダな作業を大量に繰り返したのです。

その結果、【電子本作りは段取り八分】というのが解ってきました。

どんなモノでもそうですが、同じ品物であれば、短い時間で作れることに、価値が生まれてくるのです。

本だって同じです。

一冊目の本の制作には、とても時間がかかりましたが、段取りを作り上げてしまうと、二冊目以降は、あっという間に本をつくれるようになってきます。

ですから、本をお買い上げの皆様は、私がしてきた  
試行錯誤を繰り返し返さなくて済むように、この本と同じ  
『基本のフォーマット』を付録でつけておくことに  
します。うーん。なんて便利ー！

このフォーマットがあれば、あとは、文字や画像を  
入れてゆくだけで、どんどん本が作れてしまうので  
す。(画面の指示に従って、別途ダウンロードして  
ださい。)

本が短時間に作れるようになってきたので、私の場  
合、この本を含めて、今回、3冊の本を出版します。  
画像が多いし、文章がほとんどないし、本作りに慣れ  
てきたということもあります。

今では、あれもこれも本にしたいという気持ちでイ  
ッパイです。

この本を書いた私がいうのもナンですが、この本一  
冊読んだからといって、お買いになった方全員が本を  
出版できるとは思いません。(理由は、作者さんのパ  
ソコンの操作のレベルがかなり高くないと、本は完成  
しないからです。)

それでも、中には、この通りに進めて、本を完成し、将来、作家デビューを果たせるかたもいらっしゃると思います。

電子本作りの工程は、遠く長い道のりですが、作者さんに、『出版以上の目的』があれば、必ず実現できると、私は信じています。

多くの方は、本の出版そのものが夢であり、最終目的と勘違いしているように思えます。出版が最終目的の方には、自前出版はやり遂げられないかもしれませ

ん。  
『出版以上の目的』というのは、作者様それぞれだと思えます。出版というのは、自分の考えを世の中に公表する一手段に過ぎません。

自前出版本は、自分の作った機械の製図を後世に残したいとか、自分が育てた、新しい花の品種や、農作物の交配の資料を写真で残しておきたいとか、砂漠を緑化するのに必要なプロセスを知りたい人に配布したいとか、世界に有益な熱い思いをお持ちの方に向いています。

金がかかるといって一点で、後世にも役に立つ情報を、本に出来ない方が沢山いるのです。

自前出版には、ほとんどお金がかからないので、そういう、『出版以上の目的』をお持ちの方なら、必ず本を完成させられると私は信じています。

私の場合は、多くの方が、身近に、私の絵を飾って下さるといいなと思い、電子画集を作り始めたのです。

絵を発表するという、出版以外の目的と、それをやりとげようという、強い意志があったから、自力で本を完成することができたのだと思います。

モチロン、本作りを励ましてくださった、元出版社の方にも感謝しています。

『ここまで出来ているのですから、本にしないというのはいけません。どんな形であっても、作った原稿は、必ず本として、出版しなければなりませんよ。頑張ってください。』

この言葉が、一人で本作りを進めてきた私を、どれほど勇気づけてくれたことか。そうして、くじけていた私のやる気を取り戻させて、本を完成させるエネルギーを与えてくれたのです。

この言葉に触れて、『自分も頑張ろう』と思い直す方も多いと思いますので、最後に、もう一度書いてみました。

今後は、自分の絵画作品の発表の場としても、電子本をどんどん活用してゆこうと考えています。

電子本であるからこそ、フルカラーで作成できます。ページを開く度に、絵や文章から自分の思いが広がってきて、嬉しくなります。

しかも、気に入った絵は、自宅のプリンタで印刷して、お客様の身近な場所に飾って頂けるのです。なんて素晴らしいんだろう。

こんなに素晴らしいのに、紙に印刷しないし、自分で作れるので、制作コストはほとんどかからなくて、しかも地球に優しいのです。

この本を読んだ多くの方が、『自分の本を出したいという夢』を、叶えられるきっかけになればと思います。

二〇〇三年四月作成

二〇〇五年七月改訂

おじゃりりか

あとりえ おじやらの本



\*\*\*\*\*

## 自分で出版する本

パソコン（ワードとアクロバット）で作るカンタン・激安e-Book  
（ダウンロード版 フリー  
CD版 七百元）

二〇〇三年 四月十日 発行  
二〇〇八年 六月 タイトル改定

絵と文 おじやら りか  
発行者 小山田 理花  
発行所 有限会社 おじやら

〒一〇〇〇〇〇三四  
東京都足立区千住三ー五十八  
E-Mail: [rica@ojara.net](mailto:rica@ojara.net)  
<http://www.ojara.net>  
ISBN4-901941-09-7  
C3800-¥700E

© おじやら りか

お気づきの個所がございましたら、ご面倒様でも、E-mailにてお知らせください。  
よろしくお願ひ致します。



おどろおどろおじやうの本



<http://ojara.net>

4-901941-09-7

C3800¥700E